徳島県埋蔵文化財センター調査報告書　第９集

四国縦貫自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告
9

黒谷川宮ノ前遺跡
第１分冊

１９９４

徳　島　県　教　育　委　員　会
財団法人　徳島県埋蔵文化財センター
日　　本　　道　　路　　公　　団

四国縦貫自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告
9

黒谷川宮ノ前遺跡
第1分冊

1994

徳島県教育委員会
財団法人　徳島県埋蔵文化財センター
日本道路公団

調査区遠景（南より）

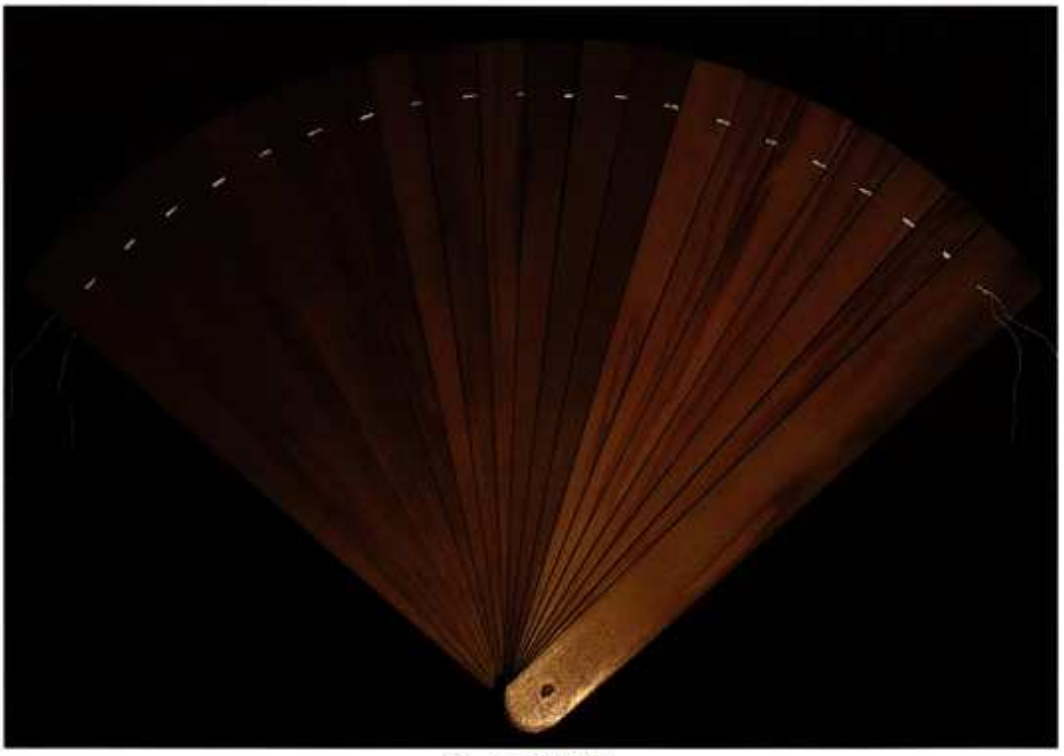
第 1 遺構面全景

第 1 遺構面近景

第２遺構面全景

第２遺構面近景

斎　串



檜　扇（複製）

序　　文

本書は、四国縦貫自動車道（徳島～脇間）の建設に伴い、平成２年度に実施した板野郡板野町所在の黒谷川宮ノ前遺跡の発掘調査の結果をまとめたものであります。

当遺跡は阿讃山脈南に開けた沖積平野に位置しており、周辺には、現地表面3.5m以深に存在する黒谷川郡頭遺跡にみられるように、未知の遺跡が数多く埋蔵されている、本県では数少ない地域であります。

このため、調査の安全性と効率性を考慮して調査を行った結果、本県初の弥生時代後期の水田跡や水利施設をはじめ、奈良時代から室町時代にかけての集落跡が確認されました。

今回の調査では調査以前に想定された官衙跡を確認することはできませんでしたが、奈良・平安時代の多量の木製遺物の出土により、周辺に関連施設が存在することをより明らかにすることができました。また鎌倉・室町時代の方形区画屋敷地は、区画溝が現地割りと一致することから、本地域の土地利用を考えるうえで貴重な資料になるものと考えております。

本書が調査研究の資料として活用され、文化財保護の一助となれば幸いです。

なお、発掘調査、報告書の作成にあたり、日本道路公団及び関係機関並びに地元の皆様に多大の御援助、御協力を頂き、さらに関係各位には貴重な御教示を賜りました。ここに深く感謝の意を表します。

平成７年１月

財団法人　徳島県埋蔵文化財センター

理事長　　坂　本　松　雄

例　　言

1　本書は、平成2年（1990）度に実施した黒谷川宮ノ前遺跡（板野郡板野町犬伏所在）の発掘調査報告書である。

2　発掘調査及び報告書の作成についての実施期間は次の通りである。

- 試掘調査　　平成1年3月6日～平成1年3月16日
- 発掘調査（第1分割～第4分割）　　平成2年4月28日～平成3年12月15日
- 整理業務、報告書作成　　平成4年4月1日～平成5年3月31日

3　発掘調査は徳島県と日本道路公団高松建設局の委託契約を受け、徳島県からの委託契約により、財団法人徳島県埋蔵文化財センターが実施した。

4　遺構表示は、徳島県埋蔵文化財センターが定める発掘調査基準による略記号を用いたが、掘立柱建物については柵列との混同を避けるため記号SBを用いた。

凡例

SA　柵列跡	SE　井戸	SP　柱穴
SB　掘立柱建物跡	SK　土坑（土壙）	ST　墓
SD　溝	SL　池状遺構	SX　不明遺構

5　方位は国土座標第Ⅳ座標系の北、高さは東京湾標準潮位（T．P.）を表す。

6　本書で用いた土層及び土器の色調は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帳』1989年度版によった。

7　記載は第2遺構面から行ない、掲載した遺物番号、挿図番号は全て通し番号とした。

8　第4図の地形図は建設省国土地理院登録の1/25,000の地形図「大寺」を転載したものである。

9　調査にあたっては、下記の各機関の指導・援助を得た。

徳島県教育委員会　日本道路公団高松建設局　同徳島工事事務所　同脇町工事事務所
徳島県土木部縦貫道推進局　同中央事務所　板野町

10　発掘調査、整理期間を通じて次の方々に御協力、御教示を得た。
片桐孝浩　勝浦康守　寒川旭　高田倭男　橋本久和　林部均　福家清司　森浩一　森隆
森村健一

（五十音順・敬称略）

11　自然科学的分析は次の方々に依頼した。
・木製品の樹種鑑定は、京都大学木質科学研究所の伊東隆夫教授の分析による。
・人骨鑑定は、高知医科大学の山本恵三教授の分析による。
・花粉分析・植物珪酸体分析は、パリノサーヴェイの分析による。

12　本書の執筆・構成はⅠ－1を菅原康夫、Ⅰ－2・Ⅱ・Ⅲを早渕隆人が担当し、全体の編集を菅原が行った。写真は遺物を島巡賢二が、遺構はそれぞれの調査担当者が撮影した。

本 文 目 次

I　調査の経緯……1
1　調査に至る経緯……1
2　調査の経過……6
(1)　調査の経過……6
(2)　調査区割……7
(3)　調査日誌抄……11
II　立地と環境……13
1　黒谷川宮ノ前遺跡周辺の地理的環境……13
2　黒谷川宮ノ前遺跡周辺の歴史的環境……14
III　調査成果……19
1　基本層序……19
2　第2遺構面（弥生時代）……23
(1)　遺構と遺物……23
層序……23
水田遺構……24
溝状遺構……38
池状遺構……42
(2)　小結……49
3　第1遺構面（古墳時代から中世）……50
(1)　遺構と遺物……50
①　微高地上の調査……50
古墳時代……50
不明遺構……55
第I期（奈良時代から平安時代）……60
掘立柱建物……60
溝状遺構……88
土坑状遺構……100
不明遺構……140
第II期（鎌倉時代以降）……145
掘立柱建物……145
溝状遺構……176
土坑状遺構……222
柱穴状遺構……263

墓 ……270
不明遺構 ……277
遺構に伴わない遺物 ……277
② 自然流路の調査 ……296
自然流路1 ……296
自然流路2 ……334
(2) 小結 ……364
4 考察 ……369
(1) 黒谷川宮ノ前遺跡における古代の土器様相について ……369
5 まとめ ……377
Ⅳ 自然科学的分析 ……379
1 黒谷川宮ノ前遺跡の花粉分析および植物珪酸体分析 ……379
2 黒谷川宮ノ前遺跡出土木製品の樹種 ……390
3 黒谷川宮ノ前遺跡出土の人骨 ……401

挿図目次

第1図 四国縦貫自動車道（徳島～脇）路線図 ……3
第2図 調査区位置図 ……9
第3図 黒谷川宮ノ前遺跡グリッド配置図 ……7
第4図 黒谷川宮ノ前遺跡周辺の遺跡 ……15
第5図 黒谷川宮ノ前遺跡基本土層図 ……21
第6図 第2遺構面基本層序 ……24
第7図 第2遺構面東西セクション北面土層図 ……25
第8図 第2遺構面遺構配置図 ……27
第9図 1・2分割北西ブロック遺構配置図 ……29
第10図 1・2分割南西ブロック遺構配置図 ……31
第11図 1・2分割東ブロック遺構配置図 ……33
第12図 3分割遺構配置図 ……35
第13図 34・35号水田耕作痕 ……37
第14図 25号水田足跡痕 ……38
第15図 SD2001土層断面実測図 ……38
第16図 SD2002土層断面実測図 ……38
第17図 SD2003土層断面実測図 ……39
第18図 SD2004(1)(2)土層断面実測図 ……39
第19図 SD2005土層断面実測図 ……40
第20図 SD2005出土石製品実測図 ……40
第21図 SD2006土層断面実測図 ……41
第22図 SD2007土層断面実測図 ……41
第23図 SD2008土層断面実測図 ……41
第24図 SD2009土層断面実測図 ……42
第25図 SD2010土層断面実測図 ……42
第26図 SL2001東西堤状遺構断面図 ……43
第27図 SL2001出土遺物実測図 ……44
第28図 弥生水田面出土遺物実測図 (1) ……45
第29図 弥生水田面出土遺物実測図 (2) ……46
第30図 弥生水田面出土遺物実測図 (3) ……47
第31図 37号水田北側水口出土鉄製品実測図 ……48
第32図 東西セクション噴砂断面図 ……48
第33図 第1遺構面遺構配置図 ……51
第34図 SX1001実測図 ……53
第35図 SX1001出土遺物実測図 (1) ……55
第36図 SX1001出土遺物実測図 (2) ……57
第37図 SX1001出土遺物実測図 (3) ……58
第38図 SX1001出土鉄製品実測図 ……59
第39図 SX1009実測図・出土遺物実測図 ……59
第40図 1号屋敷地遺構配置図 ……61
第41図 2号屋敷地遺構配置図 ……63
第42図 3号屋敷地遺構配置図 ……65
第43図 4号屋敷地遺構配置図 ……67
第44図 SB1002実測図・柱穴出土遺物実測図 ……69

第45図 SB1003実測図・柱穴出土遺物実測図……70
第46図 SB1004実測図・柱穴出土遺物実測図……71
第47図 SB1005実測図……72
第48図 SA1004実測図……72
第49図 SB1006実測図……73
第50図 SB1007実測図……73
第51図 SB1008実測図・柱穴出土遺物実測図……74
第52図 SB1012実測図……75
第53図 SB1019実測図……75
第54図 SB1020実測図……76
第55図 SA1009実測図・柱穴出土遺物実測図……77
第56図 SA1011実測図……77
第57図 SB1021実測図……78
第58図 SB1022実測図……78
第59図 SB1022出土遺物実測図……79
第60図 SB1025実測図・柱穴出土遺物実測図……80
第61図 SB1037実測図……81
第62図 SA1019実測図……81
第63図 SB1043実測図……82
第64図 SB1046実測図・柱穴出土遺物実測図……82
第65図 SB1049実測図……83
第66図 SB1009実測図……84
第67図 SB1010実測図……84
第68図 SB1011実測図……85
第69図 SA1007実測図……85
第70図 SB1013実測図……86
第71図 SB1014実測図……86
第72図 SB1027実測図・柱穴出土遺物実測図……87
第73図 SD1007土層断面実測図……88
第74図 SD1007出土遺物実測図……88
第75図 SD1008土層断面実測図……89
第76図 SD1008出土遺物実測図……90
第77図 SD1009土層断面実測図……91
第78図 SD1009出土遺物実測図……91
第79図 SD1011土層断面実測図……92
第80図 SD1011出土遺物実測図……92
第81図 SD1012土層断面実測図……93
第82図 SD1012出土遺物実測図……93
第83図 SD1013土層断面実測図……93
第84図 SD1013出土遺物実測図……93
第85図 SD1016実測図……94
第86図 SD1016出土遺物実測図(1)……95
第87図 SD1016出土遺物実測図(2)……96
第88図 SD1017(1)実測図……97
第89図 SD1017(2)実測図……98
第90図 SD1017(1)・(2)出土遺物実測図……99
第91図 SK1010実測図……100
第92図 SK1010出土遺物実測図……100
第93図 SK1015実測図……101
第94図 SK1015出土遺物実測図……101
第95図 SK1017実測図……102
第96図 SK1017出土遺物実測図……102
第97図 SK1026実測図……102
第98図 SK1026出土遺物実測図……102
第99図 SK1031実測図……103
第100図 SK1031出土遺物実測図……103
第101図 SK1032実測図……103
第102図 SK1032出土遺物実測図……103
第103図 SK1033実測図……104
第104図 SK1033出土遺物実測図……105
第105図 SK1034実測図……105
第106図 SK1034出土遺物実測図……106
第107図 SK1035実測図……107
第108図 SK1035出土遺物実測図……107
第109図 SK1036実測図……107
第110図 SK1036出土遺物実測図……107
第111図 SK1038実測図……108
第112図 SK1038出土遺物実測図……108
第113図 SK1039実測図……108
第114図 SK1039出土遺物実測図……108
第115図 SK1040実測図……109
第116図 SK1040出土遺物実測図……109
第117図 SK1041実測図……110
第118図 SK1041出土遺物実測図……110
第119図 SK1042実測図……110
第120図 SK1042出土遺物実測図……111
第121図 SK1049実測図……111
第122図 SK1049出土遺物実測図……111
第123図 SK1050実測図……112
第124図 SK1050出土遺物実測図……112
第125図 SK1051実測図……113
第126図 SK1051出土遺物実測図……113
第127図 SK1052実測図……113
第128図 SK1052出土遺物実測図……113
第129図 SK1053実測図……114
第130図 SK1053出土遺物実測図……114

第131図　SK1057実測図 ……114
第132図　SK1057出土遺物実測図 ……114
第133図　SK1059実測図 ……115
第134図　SK1059出土遺物実測図 ……116
第135図　SK1060実測図 ……117
第136図　SK1060出土遺物実測図 ……117
第137図　SK1062実測図 ……118
第138図　SK1062出土遺物実測図 ……118
第139図　SK1070実測図 ……118
第140図　SK1070出土遺物実測図 ……118
第141図　SK1091実測図 ……119
第142図　SK1091出土遺物実測図 ……119
第143図　SK1097実測図 ……120
第144図　SK1097出土遺物実測図 ……120
第145図　SK1098実測図 ……120
第146図　SK1098出土遺物実測図 ……120
第147図　SK1099実測図 ……121
第148図　SK1099出土遺物実測図 ……121
第149図　SK1105実測図 ……122
第150図　SK1105出土遺物実測図 ……122
第151図　SK1113実測図 ……122
第152図　SK1113出土遺物実測図 ……122
第153図　SK1129実測図 ……123
第154図　SK1129出土遺物実測図 ……123
第155図　SK1152実測図 ……123
第156図　SK1152出土遺物実測図 ……123
第157図　SK1156実測図 ……124
第158図　SK1156出土遺物実測図 ……124
第159図　SK1157実測図 ……124
第160図　SK1157出土遺物実測図 ……124
第161図　SK1178実測図 ……125
第162図　SK1178出土遺物実測図 ……125
第163図　SK1208実測図 ……125
第164図　SK1208出土遺物実測図 ……125
第165図　SK1209実測図 ……126
第166図　SK1209出土遺物実測図 ……126
第167図　SK1216実測図 ……126
第168図　SK1216出土遺物実測図 ……126
第169図　SK1219実測図 ……127
第170図　SK1219出土遺物実測図 ……127
第171図　SK1220実測図 ……128
第172図　SK1220出土遺物実測図 ……128
第173図　SK1228出土遺物実測図 ……128
第174図　SK1231・1232実測図 ……129
第175図　SK1231・1232出土遺物実測図 ……129
第176図　SK1236実測図 ……130
第177図　SK1236出土遺物実測図 ……130
第178図　SK1267実測図 ……130
第179図　SK1267出土遺物実測図 ……130
第180図　SK1273実測図 ……131
第181図　SK1273出土遺物実測図 ……131
第182図　SK1279実測図 ……132
第183図　SK1279出土遺物実測図 ……132
第184図　SK1283実測図 ……132
第185図　SK1283出土遺物実測図 (1) ……134
第186図　SK1283出土遺物実測図 (2) ……135
第187図　SK1285実測図 ……136
第188図　SK1285出土遺物実測図 ……136
第189図　SK1287実測図 ……137
第190図　SK1287出土遺物実測図 ……137
第191図　SK1288実測図 ……137
第192図　SK1288出土遺物実測図 ……137
第193図　SK1289実測図 ……138
第194図　SK1289出土遺物実測図 ……138
第195図　SK1304実測図 ……138
第196図　SK1304出土遺物実測図 ……138
第197図　SK1319実測図 ……139
第198図　SK1319出土遺物実測図 ……139
第199図　SK1320実測図 ……139
第200図　SK1320出土遺物実測図 ……139
第201図　SX1005出土遺物実測図 ……140
第202図　SX1006実測図・出土遺物実測図 ……140
第203図　SX1007出土遺物実測図 (1) ……142
第204図　SX1007出土遺物実測図 (2) ……143
第205図　SX1008出土遺物実測図 ……144
第206図　SX1011実測図・出土遺物実測図 ……144
第207図　SX1012出土遺物実測図 ……144
第208図　SB1001実測図・柱穴出土遺物実測図 ……147
第209図　SA1001実測図・柱穴出土遺物実測図 ……146
第210図　SA1002実測図・柱穴出土遺物実測図 ……149
第211図　SA1003実測図・柱穴出土遺物実測図 ……150
第212図　SB1017実測図 ……151
第213図　SA1008実測図・柱穴出土遺物実測図 ……152
第214図　SA1012実測図・柱穴出土遺物実測図 ……152
第215図　SB1023実測図 ……153
第216図　SA1013実測図 ……153

第217図　SA1014実測図 ……154
第218図　SB1026実測図・柱穴出土遺物実測図 ……154
第219図　SA1016実測図・柱穴出土遺物実測図 ……155
第220図　SB1031実測図・柱穴出土遺物実測図 ……156
第221図　SB1032実測図 ……157
第222図　SB1039実測図 ……158
第223図　SA1021実測図 ……158
第224図　SB1040実測図 ……159
第225図　SA1020実測図 ……159
第226図　SB1047実測図・柱穴出土遺物実測図 ……160
第227図　SA1022実測図・柱穴出土遺物実測図 ……161
第228図　SB1048実測図 ……161
第229図　SB1050実測図 ……162
第230図　SB1015実測図・柱穴出土遺物実測図 ……163
第231図　SB1016実測図 ……164
第232図　SA1010実測図 ……164
第233図　SB1018実測図 ……165
第234図　SB1024実測図 ……165
第235図　SB1028実測図・柱穴出土遺物実測図 ……166
第236図　SB1029実測図 ……167
第237図　SB1030実測図 ……168
第238図　SB1033実測図 ……169
第239図　SB1034実測図・柱穴出土遺物実測図 ……170
第240図　SB1035実測図 ……171
第241図　SB1036実測図 ……171
第242図　SB1038実測図 ……172
第243図　SB1041実測図 ……173
第244図　SB1042実測図 ……174
第245図　SB1044実測図 ……174
第246図　SB1045実測図・柱穴出土遺物実測図 ……175
第247図　SD1002・1003・1004南北土層断面実測図 …177
第248図　SD1001土層断面実測図　(M－N) ……178
第249図　SD1001土層断面実測図　(O－P) ……178
第250図　SD1001土層断面実測図　(K－L) ……178
第251図　SA1006実測図 ……179
第252図　SD1001出土遺物実測図　(1) ……180
第253図　SD1001出土遺物実測図　(2) ……181
第254図　SD1001出土銭貨拓影 ……181
第255図　SD1002土層断面実測図　(C－D) ……182
第256図　SD1002土層断面実測図　(I　J) ……182
第257図　SD1002出土遺物実測図　(1) ……184
第258図　SD1002出土遺物実測図　(2) ……185
第259図　SD1002出土遺物実測図　(3) ……187
第260図　SD1002出土遺物実測図　(4) ……188
第261図　SD1002出土遺物実測図　(5) ……189
第262図　SD1002出土遺物実測図　(6) ……190
第263図　SD1002出土遺物実測図　(7) ……191
第264図　SD1003土層断面実測図 ……192
第265図　SD1003出土遺物実測図　(1) ……194
第266図　SD1003出土遺物実測図　(2) ……195
第267図　SD1003出土遺物実測図　(3) ……196
第268図　SD1003出土遺物実測図　(4) ……197
第269図　SD1003出土遺物実測図　(5) ……198
第270図　SD1003出土遺物実測図　(6) ……199
第271図　SD1003出土遺物実測図　(7) ……200
第272図　SD1003出土遺物実測図　(8) ……201
第273図　SD1003出土遺物実測図　(9) ……202
第274図　SD1004土層断面実測図 ……203
第275図　SA1017実測図 ……203
第276図　SA1018実測図 ……203
第277図　SD1004出土遺物実測図　(1) ……205
第278図　SD1004出土遺物実測図　(2) ……206
第279図　SD1004出土遺物実測図　(3) ……207
第280図　SD1004出土遺物実測図　(4) ……208
第281図　SD1002・1003・1004合流出土遺物実測図　(1) …209
第282図　SD1002・1003・1004合流出土遺物実測図　(2) …210
第283図　SD1002・1003・1004合流出土遺物実測図　(3) …211
第284図　SD1002・1003・1004合流出土遺物実測図　(4) …212
第285図　SD1002・1003・1004合流出土遺物実測図　(5) …213
第286図　SD1005土層断面実測図 ……213
第287図　SD1005出土遺物実測図 ……214
第288図　SD1006土層断面実測図　(S－T) ……214
第289図　SD1006土層断面実測図　(Q－R) ……214
第290図　SD1006出土遺物実測図　(1) ……215
第291図　SD1006出土遺物実測図　(2) ……216
第292図　SD1006出土遺物実測図　(3) ……216
第293図　SD1010土層断面実測図 ……217
第294図　SD1010出土遺物実測図 ……217
第295図　SD1014土層断面実測図 ……218
第296図　SD1014出土遺物実測図 ……218
第297図　SD1015土層断面実測図 ……219
第298図　SD1015出土遺物実測図 ……219
第299図　SD1018土層断面実測図 ……220
第300図　SD1018出土遺物実測図 ……220
第301図　SD1019土層断面実測図 ……220
第302図　SD1019出土遺物実測図 ……220

第303図　SD1021土層断面実測図 ……221
第304図　SD1021出土遺物実測図 ……221
第305図　SD1020土層断面実測図 ……221
第306図　SD1020出土遺物実測図 ……221
第307図　SD1022出土遺物実測図 ……222
第308図　SK1001・1002実測図 ……223
第309図　SK1001出土遺物実測図 ……223
第310図　SK1002出土遺物実測図 ……223
第311図　SK1003実測図 ……224
第312図　SK1003出土遺物実測図 ……224
第313図　SK1004実測図 ……224
第314図　SK1004出土遺物実測図 ……224
第315図　SK1005実測図 ……225
第316図　SK1005出土遺物実測図 ……225
第317図　SK1006実測図 ……225
第318図　SK1006出土遺物実測図 ……225
第319図　SK1007実測図 ……226
第320図　SK1007出土遺物実測図 ……226
第321図　SK1008実測図 ……227
第322図　SK1008出土遺物実測図 ……227
第323図　SK1009実測図 ……227
第324図　SK1009出土遺物実測図 ……227
第325図　SK1016実測図 ……228
第326図　SK1016出土遺物実測図 ……228
第327図　SK1018実測図 ……228
第328図　SK1018出土遺物実測図 ……228
第329図　SK1019実測図 ……229
第330図　SK1019出土遺物実測図 ……229
第331図　SK1021実測図 ……229
第332図　SK1021出土遺物実測図 ……229
第333図　SK1030実測図 ……230
第334図　SK1030出土遺物実測図 ……230
第335図　SK1046実測図 ……231
第336図　SK1046出土遺物実測図 ……231
第337図　SK1048実測図 ……231
第338図　SK1048出土遺物実測図 ……231
第339図　SK1063実測図 ……232
第340図　SK1063出土遺物実測図 ……232
第341図　SK1064実測図 ……233
第342図　SK1064出土遺物実測図 ……233
第343図　SK1065実測図 ……233
第344図　SK1065出土遺物実測図 ……233
第345図　SK1071実測図 ……234
第346図　SK1071出土遺物実測図 ……234
第347図　SK1076実測図 ……234
第348図　SK1076出土遺物実測図 ……235
第349図　SK1077実測図 ……235
第350図　SK1077出土遺物実測図 ……236
第351図　SK1086実測図 ……236
第352図　SK1086出土遺物実測図 ……236
第353図　SK1087実測図 ……237
第354図　SK1087出土遺物実測図 ……237
第355図　SK1089実測図 ……237
第356図　SK1089出土遺物実測図 ……237
第357図　SK1094実測図 ……238
第358図　SK1094出土遺物実測図 ……238
第359図　SK1111実測図 ……239
第360図　SK1111出土遺物実測図 ……239
第361図　SK1115実測図 ……239
第362図　SK1115出土遺物実測図 ……239
第363図　SK1121実測図 ……240
第364図　SK1121出土遺物実測図 ……240
第365図　SK1124実測図 ……241
第366図　SK1124出土遺物実測図 ……241
第367図　SK1125実測図 ……241
第368図　SK1125出土遺物実測図 ……241
第369図　SK1126実測図 ……242
第370図　SK1126出土遺物実測図 ……242
第371図　SK1127実測図 ……242
第372図　SK1127出土遺物実測図 ……242
第373図　SK1132実測図 ……243
第374図　SK1132出土遺物実測図 ……243
第375図　SK1134実測図 ……244
第376図　SK1134出土遺物実測図 ……244
第377図　SK1137実測図 ……244
第378図　SK1137出土遺物実測図 ……244
第379図　SK1138実測図 ……245
第380図　SK1138出土遺物実測図 ……245
第381図　SK1140実測図 ……246
第382図　SK1140出土遺物実測図 ……246
第383図　SK1148実測図 ……246
第384図　SK1148出土遺物実測図 ……246
第385図　SK1149実測図 ……247
第386図　SK1149出土遺物実測図 ……247
第387図　SK1162実測図 ……247
第388図　SK1162出土遺物実測図 ……247

第380図　SK1166実測図 ……248
第381図　SK1166出土遺物実測図 ……248
第382図　SK1168実測図 ……248
第383図　SK1168出土遺物実測図 ……248
第384図　SK1169実測図 ……249
第385図　SK1169出土遺物実測図・拓影 ……249
第386図　SK1175実測図 ……250
第387図　SK1175出土遺物実測図 ……250
第388図　SK1177実測図 ……250
第389図　SK1177出土遺物実測図 ……250
第390図　SK1184実測図 ……250
第391図　SK1184出土遺物実測図 ……250
第392図　SK1186実測図 ……251
第393図　SK1186出土遺物実測図 ……251
第394図　SK1187実測図 ……252
第395図　SK1187出土遺物実測図 ……252
第396図　SK1190実測図 ……252
第397図　SK1190出土遺物実測図 ……252
第398図　SK1191実測図 ……253
第399図　SK1191出土遺物実測図 ……253
第400図　SK1194実測図 ……254
第401図　SK1194出土遺物実測図 ……254
第402図　SK1199実測図 ……254
第403図　SK1199出土遺物実測図 ……254
第404図　SK1205出土遺物実測図 ……254
第405図　SK1212実測図 ……255
第406図　SK1212出土遺物実測図 ……255
第407図　SK1224実測図 ……255
第408図　SK1224出土遺物実測図 ……255
第409図　SK1226実測図 ……256
第410図　SK1226出土遺物実測図 ……256
第411図　SK1233実測図 ……256
第412図　SK1233出土遺物実測図 ……256
第413図　SK1234実測図 ……257
第414図　SK1234出土遺物実測図 ……257
第415図　SK1272実測図 ……258
第416図　SK1272出土遺物実測図 ……258
第417図　SK1277実測図 ……258
第418図　SK1277出土遺物実測図 ……259
第419図　SK1296実測図 ……259
第420図　SK1296出土遺物実測図 ……259
第421図　SK1307実測図 ……260
第422図　SK1307出土遺物実測図 ……260
第423図　SK1310実測図 ……260
第424図　SK1310出土遺物実測図 ……261
第425図　SK1312実測図 ……261
第426図　SK1312出土遺物実測図 ……261
第427図　SK1315実測図 ……262
第428図　SK1315出土遺物実測図 ……262
第429図　SK1316実測図 ……262
第430図　SK1316出土遺物実測図 ……262
第431図　SP11152実測図・出土遺物実測図 ……263
第432図　柱穴出土遺物実測図 (1)……264
第433図　柱穴出土遺物実測図 (2)……266
第434図　柱穴出土遺物実測図 (3)……268
第435図　柱穴出土遺物実測図 (4)……269
第436図　柱穴出土遺物実測図 (5)……271
第437図　ST1001実測図・集石内出土遺物実測図 ……273
第438図　ST1001石室内出土遺物実測図 ……275
第439図　ST1002実測図 ……275
第440図　ST1002竪穴（倒前壁）実測図 ……276
第441図　SX1004出土遺物実測図 ……277
第442図　W－30グリッド土層断面実測図……279
第443図　V－35・36グリッド（下層灰色砂質土）出土遺物実測図 (1)…279
第444図　V－35・36グリッド（下層灰色砂質土）出土遺物実測図 (2)…280
第445図　包含層出土遺物実測図 (1)……282
第446図　包含層出土遺物実測図 (2)……284
第447図　包含層出土遺物実測図 (3)……285
第448図　包含層出土遺物実測図 (4)……286
第449図　包含層出土遺物実測図 (5)……287
第450図　包含層出土遺物実測図 (6)……289
第451図　包含層出土遺物実測図 (7)……291
第452図　包含層出土遺物実測図 (8)……292
第453図　包含層出土遺物実測図 (9)……293
第454図　包含層出土遺物実測図 (10)……294
第455図　包含層出土銭貨拓影……295
第456図　包含層出土金属製品実測図……295
第457図　SR1001土層断面実測図 ……297
第458図　SR1001出土遺物実測図 ……298
第459図　SR1001東斜面出土遺物実測図 ……300
第460図　SR1001出土遺物実測図 (1) ……301
第461図　SR1001出土遺物実測図 (2) ……302
第462図　SR1001出土遺物実測図 (3) ……303
第463図　SR1001杭列・土手状遺構実測図 ……305
第464図　SR1001土手状遺構出土遺物実測図 ……306
第465図　SR1001杭列遺構出土遺物実測図 ……307

第475図　SR1001石列遺構出土遺物実測図 (1) ……308
第476図　SR1001石列遺構出土遺物実測図 (2) ……309
第477図　SR1001上層出土遺物実測図 (1) ……311
第478図　SR1001上層出土遺物実測図 (2) ……312
第479図　SR1001上層出土遺物実測図 (3) ……313
第480図　SR1001第2層出土遺物実測図 ……314
第481図　SR1001第3層出土遺物実測図 ……315
第482図　SR1001第3層出土銭貨拓影 ……316
第483図　SR1001第4層出土遺物実測図 ……318
第484図　SR1001第4・5層出土遺物実測図 (1) ……319
第485図　SR1001第4・5層出土遺物実測図 (2) ……320
第486図　SR1001第6・7層出土遺物実測図 ……322
第487図　SR1001第8層出土遺物実測図 (1) ……324
第488図　SR1001第8層出土遺物実測図 (2) ……325
第489図　SR1001第8層出土遺物実測図 (3) ……326
第490図　SR1001第8層出土遺物実測図 (4) ……327
第491図　SR1001第8層出土金属製品実測図 ……328
第492図　SR1001出土木製品実測図 (1) ……329
第493図　SR1001出土木製品実測図 (2) ……330
第494図　SR1001第8層出土木製品実測図 (1) ……331
第495図　SR1001第8層出土木製品実測図 (2) ……332
第496図　SR1001第8層出土木製品実測図 (3) ……333
第497図　SR1002遺物分布状況・土層実測図 ……335
第498図　SR1002遺物出土状況実測図 ……337
第499図　SR1002灰色粘質土層出土遺物実測図 ……334
第500図　SR1002第2層出土遺物実測図 (1) ……339
第501図　SR1002第2層出土遺物実測図 (2) ……340
第502図　SR1002第3層出土遺物実測図 ……341
第503図　SR1002第1群木製品出土状況実測図 ……342
第504図　SR1002第1群出土木製品実測図 ……343
第505図　SR1002第2群木製品出土状況実測図 ……344
第506図　SR1002第2群出土遺物実測図 ……345
第507図　SR1002第2群出土木製品実測図 ……346
第508図　SR1002第3群木製品出土状況実測図 ……347
第509図　SR1002第3群出土遺物実測図 ……348
第510図　SR1002第3群出土木製品実測図 (1) ……349
第511図　SR1002第3群出土木製品実測図 (2) ……350
第512図　SR1002出土木製品（檜扇）実測図 (1) ……351
第513図　SR1002出土木製品（檜扇）実測図 (2) ……352
第514図　SR1002第4群出土遺物実測図 ……354
第515図　SR1002第4群出土木製品実測図 ……354
第516図　SR1002各グリッド出土遺物実測図 (1) ……356
第517図　SR1002各グリッド出土遺物実測図 (2) ……357
第518図　SR1002各グリッド出土木製品実測図 ……358
第519図　SR1002第2包含層出土遺物実測図 (1) ……359
第520図　SR1002第2包含層出土遺物実測図 (2) ……360
第521図　黒谷川宮ノ前遺跡遺構変遷図……365

表目次

第1表　四国縦貫自動車道（徳島～脇関）
　　埋蔵文化財調査地一覧表 ……4
第2表　時期別遺跡（遺構）一覧表……373
第3表　弥生時代水田遺構一覧表 (1)……416
第4表　弥生時代水田遺構一覧表 (2)……417
第5表　弥生時代溝状遺構一覧表……418
第6表　掘立柱建物一覧表 (1)……419
第7表　掘立柱建物一覧表 (2)……420
第8表　溝状遺構一覧表……421
第9表　土坑状遺構一覧表 (1)……422
第10表　土坑状遺構一覧表 (2)……423
第11表　土坑状遺構一覧表 (3)……424
第12表　土坑状遺構一覧表 (4)……425
第13表　土坑状遺構一覧表 (5)……426
第14表　土坑状遺構一覧表 (6)……427
第15表　土坑状遺構一覧表 (7)……428
第16表　土坑状遺構一覧表 (8)……429
第17表　土坑状遺構一覧表 (9)……430
第18表　土坑状遺構一覧表 (10)……431
第19表　土坑状遺構一覧表 (11)……432
第20表　土坑状遺構一覧表 (12)……433
第21表　不明遺構一覧表……433
第22表　第Ⅰ期掘立柱建物柱穴観察表 (1)……434
第23表　第Ⅰ期掘立柱建物柱穴観察表 (2)……435
第24表　第Ⅰ期掘立柱建物柱穴観察表 (3)……436
第25表　第Ⅰ期掘立柱建物柱穴観察表 (4)……437
第26表　第Ⅰ期掘立柱建物柱穴観察表 (5)……438
第27表　第Ⅰ期掘立柱建物柱穴観察表 (6)……439
第28表　第Ⅰ期掘立柱建物柱穴観察表 (7)……440
第29表　第Ⅱ期掘立柱建物柱穴観察表 (1)……440

第30表　第Ⅱ期掘立柱建物柱穴観察表 (2)……441
第31表　第Ⅱ期掘立柱建物柱穴観察表 (3)……442
第32表　第Ⅱ期掘立柱建物柱穴観察表 (4)……443
第33表　第Ⅱ期掘立柱建物柱穴観察表 (5)……444
第34表　第Ⅱ期掘立柱建物柱穴観察表 (6)……445
第35表　第Ⅱ期掘立柱建物柱穴観察表 (7)……446
第36表　第Ⅱ期掘立柱建物柱穴観察表 (8)……447
第37表　第Ⅱ期掘立柱建物柱穴観察表 (9)……448
第38表　第Ⅱ期掘立柱建物柱穴観察表 (10)……449
第39表　第Ⅰ期柵列柱穴観察表 (1)……450
第40表　第Ⅰ期柵列柱穴観察表 (2)……451
第41表　第Ⅱ期柵列柱穴観察表 (1)……451
第42表　第Ⅱ期柵列柱穴観察表 (2)……452
第43表　第Ⅱ期柵列柱穴観察表 (3)……453
第44表　第Ⅱ期柵列柱穴観察表 (4)……454
第45表　弥生時代遺物観察表 (1)……455
第46表　弥生時代遺物観察表 (2)……456
第47表　弥生時代遺物観察表 (3)……457
第48表　古墳時代遺物観察表 (1)……458
第49表　古墳時代遺物観察表 (2)……459
第50表　古墳時代遺物観察表 (3)……460
第51表　古墳時代遺物観察表 (4)……461
第52表　古墳時代遺物観察表 (5)……462
第53表　第Ⅰ期掘立柱建物出土遺物観察表 (1)……463
第54表　第Ⅰ期掘立柱建物出土遺物観察表 (2)……464
第55表　第Ⅰ期溝出土遺物観察表 (1)……464
第56表　第Ⅰ期溝出土遺物観察表 (2)……465
第57表　第Ⅰ期溝出土遺物観察表 (3)……466
第58表　第Ⅰ期溝出土遺物観察表 (4)……467
第59表　第Ⅰ期溝出土遺物観察表 (5)……468
第60表　第Ⅰ期溝出土遺物観察表 (6)……469
第61表　第Ⅰ期溝出土遺物観察表 (7)……470
第62表　第Ⅰ期溝出土遺物観察表 (8)……471
第63表　第Ⅰ期溝出土遺物観察表 (9)……472
第64表　第Ⅰ期溝出土遺物観察表 (10)……473
第65表　第Ⅰ期土坑出土遺物観察表 (1)……473
第66表　第Ⅰ期土坑出土遺物観察表 (2)……474
第67表　第Ⅰ期土坑出土遺物観察表 (3)……475
第68表　第Ⅰ期土坑出土遺物観察表 (4)……476
第69表　第Ⅰ期土坑出土遺物観察表 (5)……477
第70表　第Ⅰ期土坑出土遺物観察表 (6)……478
第71表　第Ⅰ期土坑出土遺物観察表 (7)……479
第72表　第Ⅰ期土坑出土遺物観察表 (8)……480
第73表　第Ⅰ期土坑出土遺物観察表 (9)……481
第74表　第Ⅰ期土坑出土遺物観察表 (10)……482
第75表　第Ⅰ期土坑出土遺物観察表 (11)……483
第76表　第Ⅰ期土坑出土遺物観察表 (12)……484
第77表　第Ⅰ期土坑出土遺物観察表 (13)……485
第78表　第Ⅰ期土坑出土遺物観察表 (14)……486
第79表　第Ⅰ期不明遺構出土遺物観察表 (1)……486
第80表　第Ⅰ期不明遺構出土遺物観察表 (2)……487
第81表　第Ⅰ期不明遺構出土遺物観察表 (3)……488
第82表　第Ⅰ期不明遺構出土遺物観察表 (4)……489
第83表　第Ⅱ期掘立柱建物出土遺物観察表 (1)……490
第84表　第Ⅱ期掘立柱建物出土遺物観察表 (2)……491
第85表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (1)……491
第86表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (2)……492
第87表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (3)……493
第88表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (4)……494
第89表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (5)……495
第90表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (6)……496
第91表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (7)……497
第92表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (8)……498
第93表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (9)……499
第94表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (10)……500
第95表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (11)……501
第96表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (12)……502
第97表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (13)……503
第98表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (14)……504
第99表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (15)……505
第100表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (16)……506
第101表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (17)……507
第102表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (18)……508
第103表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (19)……509
第104表　第Ⅱ期溝出土遺物観察表 (20)……510
第105表　第Ⅱ期土坑出土遺物観察表 (1)……511
第106表　第Ⅱ期土坑出土遺物観察表 (2)……512
第107表　第Ⅱ期土坑出土遺物観察表 (3)……513
第108表　第Ⅱ期土坑出土遺物観察表 (4)……514
第109表　第Ⅱ期土坑出土遺物観察表 (5)……515
第110表　第Ⅱ期土坑出土遺物観察表 (6)……516
第111表　第Ⅱ期土坑出土遺物観察表 (7)……517
第112表　第Ⅱ期土坑出土遺物観察表 (8)……518
第113表　第Ⅱ期土坑出土遺物観察表 (9)……519
第114表　第Ⅱ期土坑出土遺物観察表 (10)……520
第115表　柱穴出土遺物観察表 (1)……520

第116表　柱穴出土遺物観察表 (2)……521
第117表　柱穴出土遺物観察表 (3)……522
第118表　柱穴出土遺物観察表 (4)……523
第119表　柱穴出土遺物観察表 (5)……524
第120表　柱穴出土遺物観察表 (6)……525
第121表　柱穴出土遺物観察表 (7)……526
第122表　柱穴出土遺物観察表 (8)……527
第123表　柱穴出土遺物観察表 (9)……528
第124表　積石墓・甕棺墓出土遺物観察表 (1)……528
第125表　積石墓・甕棺墓出土遺物観察表 (2)……529
第126表　第II期不明遺構出土遺物観察表……530
第127表　包含層出土遺物観察表 (1)……530
第128表　包含層出土遺物観察表 (2)……531
第129表　包含層出土遺物観察表 (3)……532
第130表　包含層出土遺物観察表 (4)……533
第131表　包含層出土遺物観察表 (5)……534
第132表　包含層出土遺物観察表 (6)……535
第133表　包含層出土遺物観察表 (7)……536
第134表　包含層出土遺物観察表 (8)……537
第135表　包含層出土遺物観察表 (9)……538
第136表　包含層出土遺物観察表 (10)……539
第137表　包含層出土遺物観察表 (11)……540
第138表　包含層出土遺物観察表 (12)……541
第139表　包含層出土遺物観察表 (13)……542
第140表　自然流路1出土遺物観察表 (1)……543
第141表　自然流路1出土遺物観察表 (2)……544
第142表　自然流路1出土遺物観察表 (3)……545
第143表　自然流路1出土遺物観察表 (4)……546
第144表　自然流路1出土遺物観察表 (5)……547
第145表　自然流路1出土遺物観察表 (6)……548
第146表　自然流路1出土遺物観察表 (7)……549
第147表　自然流路1出土遺物観察表 (8)……550
第148表　自然流路1出土遺物観察表 (9)……551
第149表　自然流路1出土遺物観察表 (10)……552
第150表　自然流路1出土遺物観察表 (11)……553
第151表　自然流路1出土遺物観察表 (12)……554
第152表　自然流路1出土遺物観察表 (13)……555
第153表　自然流路1出土遺物観察表 (14)……556
第154表　自然流路1出土遺物観察表 (15)……557
第155表　自然流路1出土遺物観察表 (16)……558
第156表　自然流路1出土遺物観察表 (17)……559
第157表　自然流路1出土遺物観察表 (18)……560
第158表　自然流路1出土遺物観察表 (19)……561
第159表　自然流路1出土遺物観察表 (20)……562
第160表　自然流路2出土遺物観察表 (1)……563
第161表　自然流路2出土遺物観察表 (2)……564
第162表　自然流路2出土遺物観察表 (3)……565
第163表　自然流路2出土遺物観察表 (4)……566
第164表　自然流路2出土遺物観察表 (5)……567
第165表　自然流路2出土遺物観察表 (6)……568
第166表　自然流路2出土遺物観察表 (7)……569
第167表　自然流路2出土遺物観察表 (8)……570
第168表　第I期遺構出土土製品観察表……571
第169表　第II期遺構出土土製品観察表 (1)……571
第170表　第II期遺構出土土製品観察表 (2)……572
第171表　自然流路1出土土製品観察表 (1)……572
第172表　自然流路1出土土製品観察表 (2)……573
第173表　自然流路2出土土製品観察表……573
第174表　弥生時代遺構出土石製品観察表……574
第175表　第II期遺構出土石製品観察表 (1)……574
第176表　第II期遺構出土石製品観察表 (2)……575
第177表　自然流路1・2出土石製品観察表……575
第178表　弥生・古墳時代遺構出土金属製品観察表……576
第179表　第I期遺構出土金属製品観察表……576
第180表　第II期遺構出土金属製品観察表 (1)……576
第181表　第II期遺構出土金属製品観察表 (2)……577
第182表　自然流路1出土金属製品観察表……577
第183表　自然流路2出土金属製品観察表……577
第184表　鏡實観察表……578
第185表　自然流路1出土木製品観察表 (1)……579
第186表　自然流路1出土木製品観察表 (2)……580
第187表　自然流路1出土木製品観察表 (3)……581
第188表　自然流路2出土木製品観察表 (1)……582
第189表　自然流路2出土木製品観察表 (2)……583
第190表　自然流路2出土木製品観察表 (3)……584
第191表　自然流路2出土木製品観察表 (4)……585
第192表　自然流路2出土木製品観察表 (5)……586
第193表　自然流路2出土木製品観察表 (6)……587
第194表　自然流路2出土木製品観察表 (7)……588

写　真

写真1　第1遺構面調査風景 ……11
写真2　第2遺構面調査風景 ……12
写真3　現地説明会風景 ……12

Ⅳ　表・図版

1

図1　試料採取地点位置図……380
図2　第Ⅰ地点と第Ⅸ地点の土層説明および分析層位…381
図3　第1地点の植物珪酸体組成の層位的変化……384
図4　第Ⅸ地点の植物珪酸体組成の層位的変化……384
図版1　黒谷川宮ノ前遺跡　花粉分析プンバラート状況写真 387
図版2　黒谷川宮ノ前遺跡　植物珪酸体……388
表　1　花粉分析結果……383
表　2　植物珪酸体分析結果……383

2

表　1　黒谷川宮ノ前遺跡樹種鑑定木製品一覧表 ……393
図版1　黒谷川宮ノ前遺跡出土木製品の顕微鏡写真 (1)……398
図版II　黒谷川宮ノ前遺跡出土木製品の顕微鏡写真 (2)……399
図版III　黒谷川宮ノ前遺跡出土木製品の顕微鏡写真 (3)……400

3

図版1　ST1001出土人骨 ……405
図版2　ST1001出土人骨 ……406
図版3　ST1001出土人骨 ……407
図版4　ST1001出土人骨 ……408
図版5　ST1002出土歯牙 ……408
図版6　ST1002出土人骨 ……409

図版目次

図版1　(1)　調査前全景（1・2分割）……589
　　(2)　調査前全景（3分割）……589
図版2　弥生時代水田面全景（1・2分割）……590
図版3　弥生時代水田面全景（3分割）……591
図版4　(1)　調査風景……592
　　(2)　上層堆積状況……592
図版5　(1)　大区画水田A全景……593
　　(2)　大区画水田B全景……593
図版6　(1)　4号畦畔・小区画水田全景……594
　　(2)　小区画水田全景（東ブロック南側）……594
図版7　(1)　小区画水田10・11全景……595
　　(2)　小区画水田14全景……595
図版8　(1)　小区画水田16・17全景……596
　　(2)　小区画水田15・21全景……596
図版9　(1)　小区画水田15・27間水口近景……597
　　(2)　小区画水田9・10・13間水口近景……597
図版10　(1)　小区画水田全景（3分割）……598
　　(2)　小区画水田25足跡全景……598
図版11　(1)　SD2001・2002・3号畦畔全景（南より）　599
　　(2)　SD2003全景（西より）……599
図版12　(1)　SD2004全景（西より）……600
　　(2)　SD2005全景（西より）……600
図版13　(1)　SL2001東側落ち近景……601
　　(2)　SL2001西側落ち近景……601
図版14　(1)　SL2001全景（西より）……602
　　(2)　SL2001・SD2005近景……602
図版15　水田面遺物出土状況……603
図版16　(1)　水田面、噴砂検出状況……604
　　(2)　土層断面、噴砂検出状況……604
図版17　第1遺構面全景……605
図版18　(1)　土層堆積状況……606
　　(2)　調査風景……606
図版19　(1)　1号竪穴地全景……607
　　(2)　2号竪穴地全景……607
図版20　(1)　3号竪穴地全景……608
　　(2)　4号竪穴地全景……608

図版21 (1) 調査区近景（西より）……609
(2) 2号墳墳地近景（西より）……609
図版22 (1) 3号墳墳地近景（西より）……610
(2) 4号墳墳地近景（東より）……610
図版23 (1) SB1001全景（東より）……611
(2) SB1002全景（東より）……611
図版24 (1) SB1009・1010全景（東より）……612
(2) SB1026全景（東より）……612
図版25 (1) SB1039全景……613
(2) SB1046全景……613
図版26 (1) SB1047全景（西より）……614
(2) SB1048全景（東より）……614
図版27 (1) SB1001根石据置状況……615
(2) SB1001根石掘開状況……615
図版28 (1) SB1001柱穴内遺物出土状況……616
(2) SB1002柱穴内遺物出土状況……616
図版29 SD1002・1003・1004全景（西より）……617
図版30 (1) SD1003上層堆積状況……618
(2) SD1004土層堆積状況……618
図版31 SD1003礫・五輪塔検出状況……619
図版32 (1) SD1006全景（南より）……620
(2) SD1001・1002全景（南より）……620
図版33 (1) SD1013全景……621
(2) SD1015全景……621
図版34 (1) SD1016全景……622
(2) SD1017(1)全景……622
図版35 (1) SD1016遺物出土状況……623
(2) SD1017(1)遺物出土状況……623
図版36 (1) SD1017(2)全景……624
(2) SD1017(2)遺物出土状況……624
図版37 (1) SK1001～1006全景……625
(2) SK1007遺物出土状況……625
図版38 (1) SK1010遺物出土状況……626
(2) SK1015全景……626
図版39 (1) SK1048全景……627
(2) SK1048遺物出土状況……627
図版40 (1) SK1049全景……628
(2) SK1049遺物出土状況……628
図版41 (1) SK1050・1051・1053全景……629
(2) SK1046人骨検出状況……629
図版42 (1) SK1283全景……630
(2) SK1283遺物出土状況……630
図版43 (1) SK1285全景……631
(2) SK1289全景……631
図版44 (1) ST1001積石状況全景……632
(2) ST1001積石状況全景（西より）……632
図版45 (1) ST1001下部積石状況……633
(2) ST1001裏石検出状況……633
図版46 (1) ST1001石室検出状況……634
(2) ST1001石室完掘状況……634
図版47 (1) ST1002検出状況……635
(2) ST1002備前焼甕納状況……635
図版48 (1) ST1002半裁状況……636
(2) ST1002人骨検出状況……636
図版49 (1) SX1001掘り下げ状況……637
(2) SX1001遺物出土状況……637
図版50 (1) SX1009掘り下げ状況……638
(2) SX1009遺物出土状況……638
図版51 SR1001検出面全景（南より）……639
図版52 (1) SR1001南隅、石敷検出状況……640
(2) SR1001石列（石敷）検出状況……640
図版53 (1) SR1001石列・杭列検出状況（南より） 641
(2) SR1001石列・杭列全景……641
図版54 (1) SR1001杭列断ち割り状況……642
(2) SR1001杭列近景……642
図版55 (1) SR1001石列（石敷）内遺物出土状況…643
(2) SR1001上層遺物出土状況……643
図版56 (1) SR1001第4層遺物出土状況……644
(2) SR1001第4層遺物出土状況……644
図版57 (1) SR1001第6・7層遺物出土状況……645
(2) SR1001第8層遺物出土状況……645
図版58 (1) SR1001第3層木製品出土状況……646
(2) SR1001第7層木製品出土状況……646
図版59 (1) SR1001第8層木製品出土状況……647
(2) SR1001第8層木製品出土状況……647
図版60 (1) SR1002(AE－45)遺物出土状況(墨書土器) 648
(2) SR1002(AC－46)遺物出土状況(墨書土器)…648
図版61 (1) SR1002(AB－41)遺物出土状況……649
(2) SR1002(AC 46)遺物出土状況……649
図版62 (1) SR1002(AG－38)遺物出土状況(刻書土器)…650
(2) SR1002(AC 45)遺物出土状況……650
図版63 (1) SR1002(AA－37)遺物出土状況(軒平瓦) 651
(2) SR1002(AC 32)遺物出土状況(軒平瓦) 651
図版64 (1) SR1002(Z－43)第2包含層遺物出土状況 …652
(2) SR1002(AD－41)第2包含層遺物出土状況…652
図版65 (1) SR1002(AE－42)木製品出土状況(人形)…653

(2) SR1002(AG 41)木製品出土状況(拡張) 653
図版66 (1) SR1002(AF－42)木製品出土状況……654
(2) SR1002(AF－42)木製品出土状況……654
図版67 (1) SR1002(AF 42)木製品出土状況……655
(2) SR1002(AG－43)木製品出土状況……655
図版68 (1) SR1002(AE－42)木製品出土状況……656
(2) SR1002(AF 39)木製品出土状況……656
図版69 (1) SR1002(AC－46)木製品出土状況……657
(2) SR1002(AE 42)木製品出土状況……657
図版70 第2遺構面出土遺物 (1)……658
図版71 第2遺構面出土遺物 (2)……659
図版72 第1遺構面（古墳時代）出土遺物 (1)……660
図版73 第1遺構面（古墳時代）出土遺物 (2)……661
図版74 第1遺構面（古墳時代）出土遺物 (3)……662
図版75 第1遺構面（古墳時代）出土遺物 (4)……663
図版76 第1遺構面（第I期）出土遺物 (1)……664
図版77 第1遺構面（第I期）出土遺物 (2)……665
図版78 第1遺構面（第I期）出土遺物 (3)……666
図版79 第1遺構面（第I期）出土遺物 (4)……667
図版80 第1遺構面（第I期）出土遺物 (5)……668
図版81 第1遺構面（第I期）出土遺物 (6)……669
図版82 第1遺構面（第II期）出土遺物 (1)……670
図版83 第1遺構面（第II期）出土遺物 (2)……671
図版84 第1遺構面（第II期）出土遺物 (3)……672
図版85 第1遺構面（第II期）出土遺物 (4)……673
図版86 第1遺構面（第II期）出土遺物 (5)……674
図版87 第1遺構面（第II期）出土遺物 (6)……675
図版88 第1遺構面（第II期）出土遺物 (7)……676
図版89 第1遺構面（第II期）出土遺物 (8)……677
図版90 第1遺構面（第II期）出土遺物 (9)……678
図版91 第1遺構面（第II期）出土遺物 (10)……679
図版92 第1遺構面（第II期）出土遺物 (11)……680
図版93 第1遺構面（第II期）出土遺物 (12)……681
図版94 第1遺構面（第II期）出土遺物 (13)……682
図版95 第1遺構面（第II期）出土遺物 (14)……683
図版96 第1遺構面柱穴出土遺物……684
図版97 第1遺構面包含層出土遺物 (1)……685
図版98 第1遺構面包含層出土遺物 (2)……686
図版99 第1遺構面包含層出土遺物 (3)……687
図版100 第1遺構面包含層出土遺物 (4)……688
図版101 第1遺構面包含層出土遺物 (5)……689
図版102 第1遺構面包含層出土遺物 (6)……690
図版103 第1遺構面包含層出土遺物 (7)……691
図版104 自然流路1出土遺物 (1)……692
図版105 自然流路1出土遺物 (2)……693
図版106 自然流路1出土遺物 (3)……694
図版107 自然流路1出土遺物 (4)……695
図版108 自然流路1出土遺物 (5)……696
図版109 自然流路1出土遺物 (6)……697
図版110 自然流路1出土遺物 (7)……698
図版111 自然流路1出土遺物 (8)……699
図版112 自然流路1出土遺物 (9)……700
図版113 自然流路1出土遺物 (10)……701
図版114 自然流路1出土木製品 (1)……702
図版115 自然流路1出土木製品 (2)……703
図版116 自然流路1出土木製品 (3)……704
図版117 自然流路2出土遺物 (1)……705
図版118 自然流路2出土遺物 (2)……706
図版119 自然流路2出土遺物 (3)……707
図版120 自然流路2出土遺物 (4)……708
図版121 自然流路2出土遺物 (5)……709
図版122 自然流路2出土木製品 (1)……710
図版123 自然流路2出土木製品 (2)……711
図版124 自然流路2出土木製品 (3)……712
図版125 自然流路2出土木製品 (4)……713
図版126 自然流路2出土木製品 (5)……714
図版127 自然流路2出土木製品 (6)……715

付　図

付図1 黒谷川宮ノ前遺跡平面図（第2遺構面）
付図2 黒谷川宮ノ前遺跡平面図（第1遺構面）

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経緯

四国縦貫自動車道は「国土開発幹線自動車道建設法」及び「高速自動車国道法」に基づき、四国4県を連結する幹線道路として整備された。徳島県内では徳島～脇間については昭和48年（1973）10月19日「道路建設特別措置法」に基づき建設大臣から第7次の施行命令が出され(昭和54年3月2日整備計画変更、施行命令)、昭和55年12月19日実施計画の認可、昭和56年1月19日に路線発表がされた。

これは徳島市川内町の徳島I.Cを起点とし、吉野川に平行して西進し、板野郡板野町の沖積平野を横断した後、同郡上板町から阿波郡阿波町にかけて阿讃山麓を通過して脇I.Cを結ぶ、区間延長41.4km、用地取得面積259haに及ぶ事業である。

昭和61年4月24日道路局長通達により暫定施工に変更され、62年11月6日徳島～脇間の起工式が行われた。昭和63年5月31日には藍住I.C(追加I.C)の施行命令が出され、6月30日に実施計画が認可されている。

この間徳島県教育委員会（以下「県教委」という。）は、昭和60年～62年度にかけて脇～板野間、63年度には徳島～板野間の路線に係る分布調査を実施し、埋蔵文化財の実態把握に努めた。これと前後し、分布調査結果を基に県教委と協議を重ねた日本道路公団高松建設局(以下「公団」という。)は、昭和63年6月17日、文化庁に脇～板野間にかかる58遺跡の取扱いについて協議を申し入れ、平成元年3月30日、工事の施工に先立って発掘調査を実施する旨の協議を終了した。

一方、県教委では供用が第10次5か年計画に取り入れられ、平成5年が目標になっていることを受けて、63年度に大規模開発に即応した調査体制の整備を図り、平成元年4月1日、財団法人徳島県埋蔵文化財センター（以下「センター」という。）を発足させ、調査に対応することとした。センター発足時には未確定であった徳島～板野間の調査については、平成2年1月22日に10遺跡の取扱いについての協議が終了し、路線内に68遺跡、約360,000㎡(暫定分約340,000㎡)、事業地区面積のほぼ13パーセントにあたる文化財対象地が確定した（第1図)。県と公団との委託契約をふまえ、県とセンターの委託契約は元年6月1日付けで締結された。センターでは発掘調査にあたって、機械掘削等工事請負方式と空中写真撮影図化を導入することによって、調査の迅速化に努める方針で臨んだ。しかし、文化財対象地があくまで分布調査結果に基づくものであり、特に工事請負として設計・発注するためには掘削土量の把握が不可欠であるため、試掘調査を先行し、遺構の遺存状態及び層厚の把握に努めた。

また、用地取得状況を勘案しつつ、散布地・集落・古墳など、遺跡の性格・遺構の累積数に応じた調査方法、調査工期について検討を行い、調査を実施した。

前述したように試掘調査を先行することによって層厚・調査範囲を絞り込んだことに加えて、徳島～板野間の沖積平野では現地表面下３ｍ以深に遺跡が存在することから、遺物の採集が行われなくとも、慎重を期して微高地が調査対象地とされていたこともあり、最終の実掘面積は当初見込みに比べて減少した。

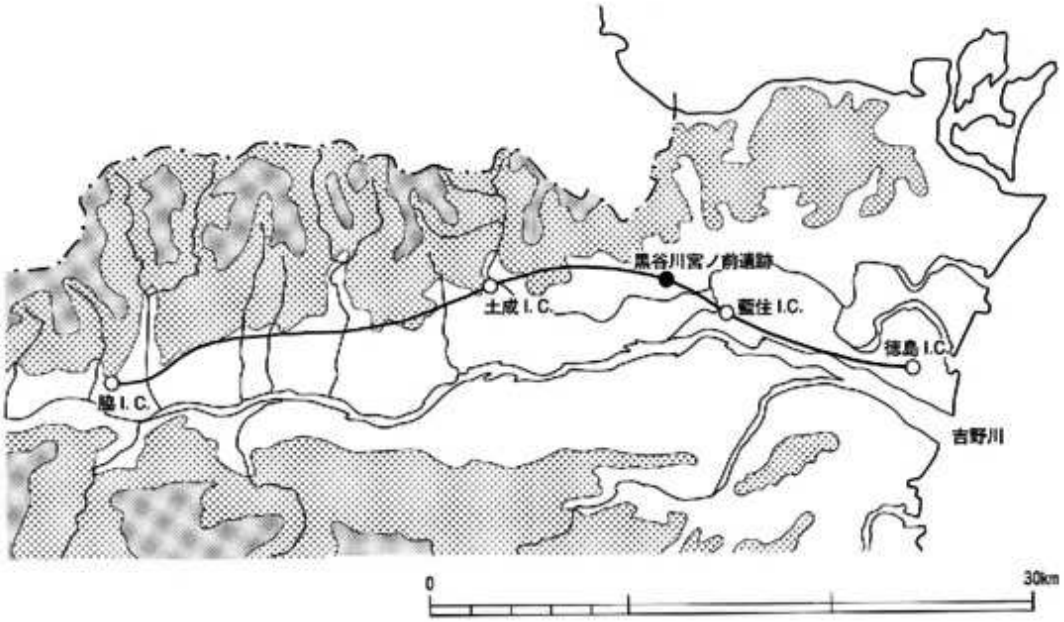
平成元年度には、14遺跡14,500㎡、２年度には33遺跡76,390㎡、３年度は30遺跡35,748㎡、４年度は残件であった14遺跡6,826㎡について、用地取得がなされた地区から工事の工程を勘案の上、調査を進め、当該区間の調査を完了した（第１表）。

本報告の黒谷川宮ノ前遺跡は、1988年黒谷川中小河川改修事業に伴う事前調査で自然流路から多量の土器・木製祭祀具が検出されたことから、板野郡衙が想定された地点周辺にあたる。当該地点は空中写真によれば、東西300m、南北200mの方形壇が確認され、路線はこの中を横断しており、調査以前から注意される箇所であった。

1990年度の用地買収団体妥結を受け、遺跡の範囲確認と掘削土厚確認のための試掘調査を行ったところ、奈良時代から室町時代に係る遺構面の検出とともに地表下４ｍで軟質の土器小片を含む黒褐色粘質土層の広がりが見られた。試掘調査では黒褐色粘質土層に遺構の確認はできなかったが、本地点の南東約１キロに形成された黒谷川郡頭遺跡の遺物包含層に酷似することや堆積層レベルの近似から当遺跡との有機的関連が考えられた。

調査着手にあたって、被圧地下水による盤膨れ現象の可能性が指摘されたため、最終遺構面の調査の可否、安全性、調査の効率性など、様々な面での検討を踏まえ、工事用進入路部分を控えた10,450㎡について、３型矢板打設による全面調査を実施することとした。

調査の経緯は次章で触れられているが、矢板打設の大幅な遅れ、町道占有許可手続きに係る調整、作業員の確保など調査着手までの諸準備に多くの期間が割かれ、調査工期に重大な影響を及ぼした。このため調査班の集中投入による対応を図ったが、調査後半では季節はずれの台風による調査区の全面冠水などの悪条件が重なった。最終遺構面の調査では0.1バックホウとガリかけの併用という、本事業の中では最も厳しい調査を余儀なくされたが、低湿地での大規模調査に一定の施工手順を得ることができた遺跡と考える。



第1図　四国縦貫自動車道（徳島～脇）路線図

調査組織及び整理体制は以下である。

事務局長	日下　昭（平成元・2年度）	佐藤信博（平成3・4年度）
	柴田　広（平成5年度）	
総務課長	吉田　寛（平成元・2年度）	木内正幸（平成3年度）
	岡本一仁（平成4・5年度）	
主　　事	佐藤　馨（平成2～4年度）	三木和文（平成5年度）
研究補助員	扶川道代	
臨時補助員	田村隆子　上田暁美　岸いくみ　大岸さとみ	
	福原幸恵　柴田みのり　鳴滝淑江　安芸敦子	
調査課長	桑原邦彦（平成元・2年度）	羽山久男（平成3・4年度）
	紀伊司郎（平成5年度）	
調査係長	菅原康夫（平成元年度）	島巡賢二（平成2～5年度）
技　　師	森長　進（平成元・2年度技術主任）	堀江隆治（平成3・4年度）
技術主任	酒井彰彦（平成5年度）	
調査係長	島巡賢二（平成元年度）	菅原康夫（平成2～5年度）

調査担当
・試掘調査
研究員　柴田昌児（当時）　藤川智之　板東正幸（当時）　近藤隆弘（当時）

・発掘調査

黒谷川宮ノ前遺跡（第１・２分割）

研　究　員　　山下知之（当時）　柴田昌児（当時）　西博美（当時）　向原敬夫（当時）

早測隆人　　板東正幸（当時）　石尾和仁（当時）　濱田明（当時）

黒谷川宮ノ前遺跡（第３分割）

研　究　員　　谷匡人（当時）　武蔵美和（当時）　須崎一幸（当時）

黒谷川宮ノ前遺跡（第３・４分割）

研　究　員　　計盛眞一朗（当時）　小泉雅彦（当時）

研究補助員　　扶川道代　北原雅代（当時）　高橋浩二（当時）

調査報告書作成業務

研　究　員　　早測隆人　　佐野耕市

第１表　四国縦貫自動車道（徳島～脇間）埋蔵文化財調査地一覧表

遺跡番号	遺跡名	所在地	面積（㎡）					備考
			実掘面積	元年度	2年度	3年度	4年度	
1	西長峰遺跡	阿波郡阿波町西長峰	170	170				
2	中長峰遺跡	阿波郡阿波町中長峰	100	100				
3	東長峰遺跡	阿波郡阿波町東長峰	30		30			
4	日吉谷遺跡	阿波郡阿波町日吉谷	4,080	1,840	2,240			報告書第５集所収
5	赤坂遺跡（Ⅰ）	阿波郡阿波町赤坂	800		800			報告書第１集所収
6	赤坂遺跡（Ⅱ）	阿波郡阿波町赤坂	50		50			報告書第１集所収
7	赤坂遺跡（Ⅲ）	阿波郡阿波町赤坂	1,600	600	1,000			報告書第１集所収
8	桜ノ岡遺跡（Ⅰ）	阿波郡阿波町桜ノ岡	8,000	2,690	5,310			報告書第３集所収
9	桜ノ岡遺跡（Ⅲ）	阿波郡阿波町桜ノ岡	240	240				報告書第３集所収
10	桜ノ岡～東正広遺跡	阿波郡阿波町小倉	1,000		1,000			
11	山ノ神遺跡	阿波郡阿波町山ノ神	10		10			
12	山ノ神～八丁原遺跡	阿波郡阿波町山ノ神	30		30			
13	上喜来遺跡	阿波郡市場町大俣	1,160		900	260		
14	大俣山路～大俣宇佐遺跡	阿波郡市場町大俣	250			250		
15	上喜来蛭子～中佐古遺跡	阿波郡市場町上喜来	12,560		11,720	840		報告書第７集所収
16	八坂遺跡（Ⅰ）	阿波郡市場町尾開	11			11		
17	八坂遺跡（Ⅱ）	阿波郡市場町尾開	360	360				
18	八坂遺跡（Ⅲ）	阿波郡市場町尾開	114			85	29	
19	八坂遺跡（Ⅳ）	阿波郡市場町尾開	2,000	2,000				
20	日吉～命清遺跡	阿波郡市場町尾開	3,100	2,850	250			
21	古田遺跡（Ⅰ）	阿波郡市場町切幡	60		60			
22	古田遺跡（Ⅱ）	阿波郡市場町切幡	510	510				
23	坤山～観音遺跡	阿波郡市場町切幡	60			60		
24	乾山～観音遺跡	阿波郡市場町切幡	850			850		
25	乾山遺跡	阿波郡市場町切幡	2			2		
26	金蔵～上井遺跡	板野郡土成町浦池	2,730	2,730				報告書第１集所収

遺跡番号	遺跡名	所在地	面積（㎡）					備考
			実施面積	元年度	2年度	3年度	4年度	
27	北原～大法寺遺跡	板野郡土成町土成	4,890		4,890			報告書第6集所収
28	前田遺跡	板野郡土成町土成	10,810		7,710	3,100		報告書第2集所収
29	椎ヶ丸～芝生遺跡	板野郡土成町吉田	3,550		3,550			報告書第6集所収
30	北門～涼覚遺跡	板野郡土成町吉田	200			200		
31	広坪～宮ノ下遺跡	板野郡土成町宮川内	60		60			
32	向山古墳群	板野郡土成町宮川内	50				50	
33	葬ヶ丸遺跡	板野郡土成町高尾	1,400		1,400			
34	けやき原～林遺跡	板野郡土成町高尾	210		210			
35	西谷遺跡	板野郡土成町高尾	7,300		5,650	1,650		
36	法教田遺跡（I）	板野郡土成町高尾	10		10			
37	十楽寺遺跡	板野郡土成町高尾	430		430			報告書第6集所収
38	安楽寺谷墳墓群	板野郡上板町引野	2,140			2,140		
39	関割窯跡	板野郡上板町引野	20			20		
40	天神山遺跡	板野郡上板町引野	1,330		1,330			報告書第1集所収
41	肴谷遺跡	板野郡上板町引野	3,980		3,110	870		報告書第1集所収
42	明神池古墳群	板野郡上板町引野	194		80	114		
43	御谷遺跡	板野郡上板町泉谷	8,930		3,280	5,650		
44	新池遺跡	板野郡上板町泉谷	31			31		
45	神宮寺遺跡	板野郡上板町神宅	15,649			11,507	4,142	
46	菖蒲谷西山A遺跡	板野郡上板町神宅	460		130	330		
47	菖蒲谷西山B遺跡	板野郡上板町神宅	1,980			1,730	250	
48	菖蒲谷東山古墳群	板野郡上板町神宅	115			115		
49	山田古墳群A	板野郡上板町神宅	2,200			2,200		
50	山田古墓	板野郡上板町神宅	8			8		
51	山田古墳B	板野郡上板町神宅	775			525	250	
52	大谷古墳群	板野郡上板町神宅	30				30	
53	大谷薬師遺跡	板野郡上板町神宅	180		180			
54	祝谷古墳	板野郡上板町神宅	90				90	
55	愛天山遺跡	板野郡上板町神宅	115				115	
56	黒谷窯跡	板野郡板野町黒谷	91				91	
57	松谷遺跡	板野郡板野町松谷	900		40	860		
58	蓮華谷古墳群（I）	板野郡板野町犬伏	353			65	288	
59	蓮華池遺跡（I）	板野郡板野町犬伏	340		340			報告書第4集所収
60	蓮華谷古墳群（II）	板野郡板野町犬伏	1,220		1,220			報告書第4集所収
61	蓮華池遺跡（II）	板野郡板野町犬伏	40	40				
62	黒谷川宮ノ前遺跡	板野郡板野町犬伏	10,580	130	10,450			本報告書所収
63	古城遺跡	板野郡板野町古城	10,000	240	8,920		840	報告書第8集所収
64	西中富遺跡（I）	板野郡板野町西中富	975			975		
65	西中富遺跡（II）	板野郡板野町西中富	125			125		
66	東中富遺跡	板野郡藍住町東中富	760			550	210	
67	前須遺跡	板野郡藍住町徳命	876			625	251	
68	新居須遺跡	板野郡藍住町徳命	190				190	
		計	133,464					

2　調査の経過

(1)　調査の経過

黒谷川宮ノ前遺跡は阿讃山麓から南に開けた平野部に位置し、四国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査では初めての沖積平野部の調査となった。

従来、当該地域では山麓沿いには古墳等の遺跡が立地するにもかかわらず平野部においては遺跡の存在および遺物等の散布は確認されていなかった。しかし、1998年に県教委による黒谷川河川改修に伴う調査では旧河道に想定される地点において奈良時代から平安時代の木製品が多量に出土し、北側に広がる微高地上においては集落等の存在が十分に予測されるようになった。

路線内における遺跡の有無および範囲確定のための試掘調査は平成２年３月６日から３月15日の８日間にわたり計９ヵ所においてトレンチ調査による130㎡の調査を行なった。

調査の結果、路線内北側の微高地上では地表下約１m前後の地点で奈良時代から室町時代にかけての遺物包含層を確認し多量の遺物が出土した。

また、包含層直下で遺構面を確認し、柱穴状の落ち込みおよび溝状の遺構を検出したため第１遺構面を確定した。

また、さらに同遺構面より下層部約３mにおいては軟質の土器を包含する層が認められた。試掘段階では軟質土器を包含する層が深部に及ぶこと、また湧水等から明確な遺構面の存在は確認されなかったが、約1.0km下流部では弥生時代後期の集落跡が標高０m前後で立地することなどを考慮して、第２遺構面を想定した。この軟質の土器および第２遺構面の確定については、本調査時での再度の確認トレンチ調査から弥生時代後期の遺物であり、遺構面は弥生時代後期段階の水田跡と捉えた。

調査区の東端および西端は現状では１m前後の段差をもつ低位部で、東端は現黒谷川河川沿いに低地帯が広がる。試掘では表土から約３m前後まで粘土層が堆積しており、その間に３層にわたって遺物包含層が確認された。当該地点でも軟弱土壌によるトレンチの崩壊および湧水等により最深部までの調査は行えず、調査前に予測された木製品の包含層の確認はできなかった。しかしながら、試掘の状況から当地点では旧流路の堆積層が確認され、遺構は検出されなかったものの奈良時代から中世に至る遺物包含層が広範囲に広がるため本調査の必要性を確認した。

本地点においても本調査時に再度試掘を行い、標高０m前後で木製品を包含する堆積層を確認した。

以上の様に、遺物および遺構の広がりは調査区全域に及び、西側調査区における微高地上

と東部の旧自然河道側で密に分布することが確認された。

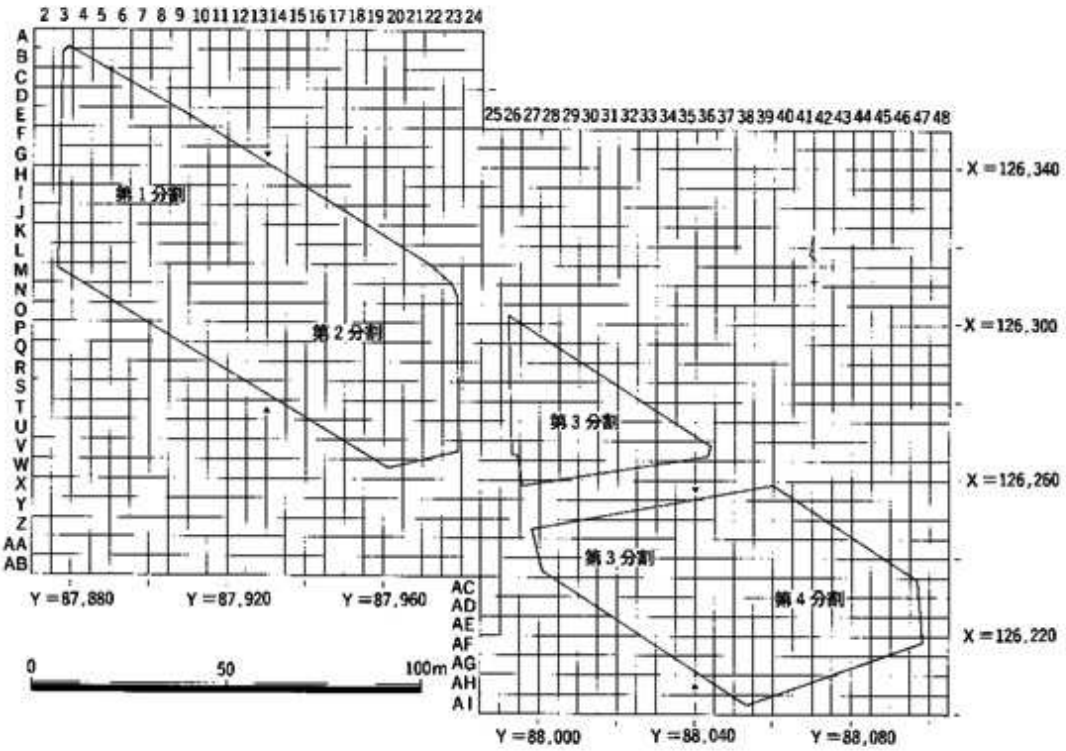
したがって路線内においては東西約200m、南北幅約50mの12,000㎡を対象面積とし、その内の10,450㎡を本調査した（第２図）。

本調査にあたっては表土下約5.0m地点で検出した第２遺構面の調査の必要性および軟弱土壌の崩壊を防ぐため調査区全域を矢板（鋼板）で囲み調査面積を確保した。調査区は大きく微高地上では町道を挟んで２ヵ所と河道側は１ヵ所である。

調査期間中には検出遺構の図面作成および全景写真撮影のため第１遺構面においては２回、第２遺構面では１回の計３回にわたって空中写真撮影を実施した。

(2) 調査区割

遺跡内の調査区区分は基本的に調査面積の上から北西微高地上の町道より西側調査区を第１分割・第２分割の２分割に分割し、町道より東側を３分割に、また南東側旧河道部分を一部３分割の残りと４分割に区分した。



第３図　黒谷川宮ノ前遺跡グリッド配置図

調査にあたってのグリッド配置は第4系国土座標を基準とし、全調査区をX軸・Y軸線上に5m間隔のグリッドを組み、X軸方向へはY＝87.870からY－88.100の間、西から№2～№47まで46区分、Y軸方向へはX＝126.200からX＝126.370の間、北からB～AIの34区分で設定した。

各グリッドの称呼はそれぞれの組み合わせにより表現した（第3図）。

第２図　調査区位置図

(3) 調査日誌抄

1990年（試掘調査）

3月6日　機械掘削による試掘調査開始。（M－7）（M－1）グリッドにおいて中世の遺物出土、遺構面確認。

3月12日　M－5（M－7）トレンチにおいて南北方向の石列検出。土層図作成、写真撮影。

3月14日　旧河道部M－8（M－9）トレンチにおいて遺物包含層を確認。激しい湧水のため下層部の木器包含層は確認できなかった。柱状土層図作成。

3月15日　試掘調査終了。

1990年（本調査）

6月4日　調査準備および業者との打ち合わせ。

6月8日　仮設道設置作業にはいる。

6月21日　第1・2分割、矢板打ち込み作業開始。仮設道および場内進入路設置作業終了。

7月3日　被圧地下水確認のための試掘。表土下1.5mで古代から中世の遺構面確認、さらに1.5m下層で弥生時代の包含層確認。

7月6日　機械掘削開始。

7月9日　人力掘削開始。調査区西端において石列・集石遺構を確認。

7月10日　第3・4分割被圧地下水確認の試掘。表土下3.0mで遺物包含層確認、さらに下層で遺物包含層を確認。第1分割グリッド設定。

7月11日　第1・2分割矢板打ち込み作業終了。

7月13日　第4分割機械掘削開始。

7月18日　積石墓（ST－1001）検出。自然流路1（SR－1001）掘り下げ。

7月25日　自然流路1（SR－1001）内、石列・土壇状遺構検出。調査区中央部において東西方向の大溝検出。第4分割東側溝掘りから完形の長頸壺出土。

写真1　第1遺構面調査風景

7月31日　P.Q－12.13グリッドにおいて緑釉陶器出土。4分割AG－42グリッドより斎串出土。

8月3日　N.O－16.17グリッドより緑釉陶器出土。P.Q－16.17グリッドより土師器杯完形出土。4分割木製品出土状況実測。

8月10日　甕棺墓（ST－1002）検出。4分割AG－42グリッドより斎串・土師器・須恵器片出土。

8月16日　積石墓（ST－1001）石室内掘り下げ。

8月22日　台風14号により調査区冠水。

8月24日　土坑8・土坑9検出掘り下げおよび平面図作成。

8月28日　L－18グリッドより円面硯出土。

8月30日　溝（SD－1002・1003・1004）掘り下げ。SD－1002より鉄鏃、SD－1003より備前焼擂鉢出土。

9月1日　積石墓（ST－1001）石室完掘状況写真撮影。第4分割木製品検出作業継続。

9月5日　自然流路1（SR－1001）第8層掘り下げ。鉄斧・斎串・木製尺出土。

9月12日　自然流路1（SR－1001）土層断面のはぎ取りを行う。

9月20日　台風19号による暴風雨のため調査区冠水。写真用足場等作業関連施設に被害が出る。

10月2日　排水作業および台風後の復旧作

業終了。

10月6日　溝（SD－1007）掘り下げおよび土層図作成。写真撮影。台風接近のため安全対策。

10月8日　台風21号接近のため暴風雨、作業中止。

10月10日　土壙（SK－1064）人骨検出。溝（SD－1013）掘り下げ。

10月11日　土坑およびピットの土層図、土色作成。第3分割人力掘削開始。

10月12日　不明遺構（SX－1001）完掘。土坑・ピット関係遺物取り上げ、土色記入。

10月16日　第1・2分割、第1遺構面空中写真撮影。古墳時代の土坑状遺構（SX－1009）掘り下げ、壺形土器・骨片出土。

10月17日　2次機械掘削開始。掘立柱建物復元作業。不明遺構（SX－1009）平・断面図作成。

10月19日　第4分割第2包含層掘り下げ開始、南北トレンチ掘り下げ。AE－42グリッドより人形・斎串・曲物の蓋出土。

10月26日　水田遺構面精査および珪藻検出作業開始。

写真2　第2遺構面調査風景

10月31日　第4分割（自然流路2の調査）終了。

11月1日　プラントオパール分析用試料採取（第Ⅰ地点）。空中写真撮影準備。

11月2日　第3分割第1遺構面空撮。

11月6日　J.K.L－6グリッドより弥生土器片出土。

11月8日　遺構面精査（珪藻および水田面検出作業）。池状遺構（SL－2001）より高杯形土器出土。

11月16日　東西土層観察用ベルトの土層図作成。噴砂はぎとり。

11月22日　平板測量により遺構図作成。

11月27日　第3分割（R－27グリッド）水田面より鉄鏃出土。

11月29日　溝状遺構掘り下げ。溝（SD－2005）より炭化物・弥生土器片出土。

12月1日　台風28号により調査区冠水。排水作業。

12月5日　溝（SD－2005）掘り下げ。小区画水田検出状況写真撮影。

12月7日　第1・2・3分割、第2遺構面空中写真撮影。通産省地質調査所近畿・中部地域地質センター主任研究官の寒川　旭氏来訪、第1・2分割検出の噴砂の状況を実測。

12月8日　現地説明会開催。

写真3　現地説明会風景

12月10日　プラントオパール分析試料の採取。土層図および足跡・鋤跡の平面図作成。

12月15日　遺構面下層部の土層図補足。噴砂平面図作成。現場撤収、調査終了。

12月17日　調査区埋め戻しおよび矢板抜き取り作業開始。平成3年1月24日終了。

II　立地と環境

黒谷川宮ノ前遺跡の所在する板野郡板野町は、昭和30年２月に旧、板西町・松坂村・栄村の３か町村の合併により成立している。合併した３か町村の以前の板野郡内には１町20か村、（川内村・応神村・住吉村・藍園村・撫養町・里浦村・鳴門村・瀬戸村・大津村・北灘村・堀江村・板東村・大山村・松島村・北島村・御所村・松茂村・一条村・板西村・栄村・松坂村、明治22年施行）が存在した。

板野郡についての郡名は、藤原宮出土木簡が初見で[1]、そのほか平城宮木簡に見ることができる[2]。また「延喜式」兵部省式には阿波国南海道には石隈（いその）[3]・郡頭（こうづ）の各駅馬が設置されたことが伺われ、このうち郡頭駅については、板野町大寺字郡頭に比定されており、阿波国府と讃岐国に向かう南海道要衝の一つである。そのほか当該地域は板野郡衙の候補地でもある。また、金光明寺をはじめ奈良時代から平安時代にかけての寺院も多く、このように板野町は官道の要衝としての利点を生かしその後、吉野川北岸地域の中心的役割をになう重要な地域となる。

1　黒谷川宮ノ前遺跡周辺の地理的環境

徳島県は四国東部に位置し、紀伊水道を隔てて和歌山県と対峙する。県北部は阿讃山脈が界して香川県と接し、県南部は高知県と、県西部は高知県の山間部と一部愛媛県と接している。

平野部は吉野川流域及び那賀川流域の河口部に形成された広大な三角州状の平野部以外は中小の河川によって形成された狭少な平坦部が見られるにすぎない。

当該地域は北部山間地域を構成する阿讃山脈と、その南麓に分布する古期扇状地礫層で成る緩斜面、及び沖積層からなる平野部によって構成されている。四国東部はわが国最大規模の断層である中央構造線が東西方向に貫いており、本町においてもその活動による大規模な破砕帯が見られる。中央構造線の南北では地質に相違が見られ、南側は四国山地を形成する三波川変成岩類、北側は阿讃山脈を形成する和泉層群である。和泉層群は白亜紀後期に堆積した海成層であり、砂岩泥岩の互層から成っている。したがって表層地質における構成物質は、吉野川南岸にはおもに結晶片岩類が含まれるのに対して、同北岸地域では砂岩類が主な構成物質といわれている。しかし吉野川本流性堆積物によって形成された平野部では北岸地域でも若干の結晶片岩類の細片の混入が見られる。

黒谷川宮ノ前遺跡は板野郡板野町犬伏に所在し、吉野川北岸、旧吉野川と阿讃山脈南麓の平野部に立地し、吉野川河口からは約15km上流部に位置する。遺跡の立地する平坦部は、旧

吉野川及び阿讃山脈から発する犬伏谷川・黒谷川によって形成されており、標高は約５m前後を測る。遺跡の主体は黒谷川北岸に形成されたの微高地に立地しており、また河川の堆積物にも多量の遺物の散布がみられる。本河川は旧吉野川と直結しており、船橋などの名称からも古くから河川を利用した交通手段が営まれていたことが伺われる。

平野部における現況の地割りには正方位または若干西に傾斜した方形地割りがみられ条里地割の踏襲または中世段階の地割りの再形成と指摘されている。(4)

2　黒谷川宮ノ前遺跡周辺の歴史的環境

黒谷川宮ノ前遺跡周辺部では阿讃山脈南麓及び平野部において旧石器時代から中世に至るまで数多くの遺跡が形成されている。近年においては平野部の地表下約５m、海抜１m前後において弥生時代の大規模な集落跡が検出されており、山麓はもとより河川の氾濫原とされてきた低地部での遺跡の確認が重要視されてきている。

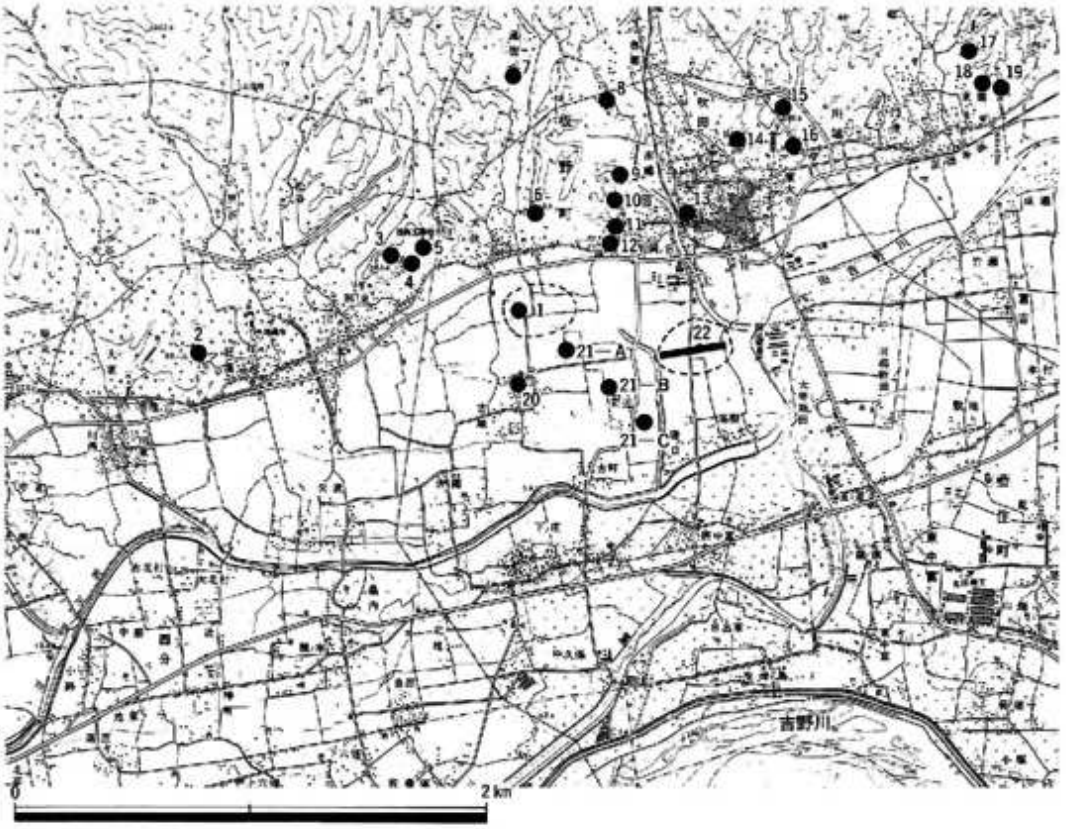
旧石器時代の遺跡としては、板野郡羅漢に国府型ナイフ形石器を主体とした平山遺跡(5)が存在し、隣接する上板町にかけてその広がりが予想される。また現在において本遺跡から東にかけては鳴門市大麻町所在の光勝院寺内遺跡(6)までの約7.0kmの間、旧石器遺跡の存在は確認されていない。しかしこれより小鳴門海峡遺跡にかけて遺跡の立地を考えると検出される遺跡自体が沈降傾向にあるため、本町の古期扇状地礫層上には十分に旧石器遺跡の存在が予想される。

縄文時代の遺跡は現在のところ明確に存在が確認されていない。しかしながら山麓部一帯に縄文時代に属すると考えられる石鏃ならびに各種の石製品が採集されていることから、当時代の遺跡は確実に存在するものと想われる。(9)また、近年の調査に於いても平野部で確認された弥生時代後期から古墳時代初頭を中心とした黒谷川郡頭遺跡の下層から縄文時代後期から晩期にかけての深鉢形土器・浅鉢形土器が出土しているが、断片的にしかすぎない。(10)

弥生時代の遺跡としては、前期に関しては上記の黒谷川郡頭遺跡から突帯文土器とともに前期の甕形土器、甕形土器が土坑状遺構を伴い出土している。この時期の本遺跡は土坑状遺構以外確認されておらず、遺跡の広がりは狭少である。

また、中期に関してはまったく遺構ならびに遺物は検出されていない。中期の遺物としては、近年踏査により確認された板野町山下に所在する大西山遺跡(11)が唯一挙げれる。本遺跡は阿讃山脈南に延びた尾根先端部および斜面上に位置し標高20m～40mに位置する。採集遺物は石鏃が主体を占め石槍および楔状石器等もみられる。

次に後期に関しては吉野川北岸下流域最大規模の黒谷川郡頭遺跡(12)が挙げられる。本遺跡は旧吉野川に面し、標高約１m前後の極めて低位部に位置し、存続時期は主に後期中葉から古



1．黒谷川宮ノ前遺跡
2．平山遺跡
3．蓮華谷古墳群(I)
4．蓮華池遺跡(I)
5．蓮華谷古墳群(II)
6．平山古墳
7．蔵佐谷瓦経塚
8．吹田古墳群
9．かんぞう寺跡
10．鴨崇山古墳
11．岡宮神社古墳
12．大塚古墳
13．郡頭駅推定地
14．阿王塚古墳
15．大西山遺跡
16．金光明廣寺跡
17．大唐国寺跡
18．愛宕山古墳
19．諏訪神社古墳
20．板西城跡
21．古城遺跡
（A地点・B地点・C地点）
22．黒谷川郡頭遺跡

第4図　黒谷川宮ノ前遺跡周辺の遺跡

墳時代初頭にわたる。最大の特徴は朱の精製と搬出を目的とした生産ならびに交易的性格を有する集落遺跡と考えられる点であり、また祭祀面においても直弧文につながるとされる弧帯文の線刻された土器も多数出土しており、弥生時代の流通構造または精神構造解明に重要な意義を持っている。

古墳時代は、鳴門市から連綿と続く阿讃山脈南麓に形成されている南に派生した尾根線上の一角を占地し、前期から後期にかけて数多くの古墳が構築されており、崩壊したものも含め約50基が確認されている。

前期に関してはまず阿王塚古墳が挙げられる。本古墳は南に延びた尾根線中腹の亀山神社境内に存在していることが伝えられる。構造自体は積石塚で直径20m前後の円墳であり、主体部は箱式石棺である。副葬品では画文帯神獣鏡２面、鉄剣５振、鉄鏃１本が出土している。

次に、愛宕山古墳は板野町川端の南に延びた尾根の先端部に構築された全長65mの前方後古墳である。前方部の長さは44m、後円部の直径は21mであり、墳丘には葺石と円筒埴輪を

伴っている。主体部には結晶片岩割石により、小口積の竪穴式石室、全長6m、幅1.1m、高さ1.2mが構築されており、副葬品では銅鏃20点はじめ短甲片・鉄刀片・鉄鏃・碧玉製管玉・ガラス玉などが出土している。

また、板野町犬伏に所在する蓮華谷古墳群（II）の2号墳は径8m～10mを測る円墳で、主体部は復元長3.3m、幅0.40m～0.50mを測る割竹形木棺が棺床の形状から復元されている。出土遺物は棺内から仿製四獣形鏡1・鉄斧1・鉄剣1・ヒスイ製勾玉1・管玉11、棺外からは鉄剣1、また北側小口部からは完形の土師器広口壺が出土している。時期的には出土遺物などから3世紀末の年代が与えられている。[13]

中期古墳は上記の蓮華谷古墳群（II）西尾根上で検出された蓮華谷古墳群（1）の1号墳が挙げられる。本古墳は径12mを測る円墳で一部に葺石が確認され、主体部は長さ3.3m、幅0.45mを測る刳抜式木棺か考えられている。出土遺物は棺内より鉄剣1・刀子1が、棺外からは鉄剣1が出土し、また攪乱層からは鉄鏃2・鉄鎌1が出土している。本古墳の時期は出土遺物などから古墳時代中期前半（5世紀前半）の年代か与えられている。[14]

後期古墳の代表としては、大寺所在の大塚古墳（消滅）が挙げられる。本古墳は円墳で長さ6.7m・幅1.8m・高さ1.7mの規模を有した両袖式の石室を有し、副葬品では仿製鏡1面をはじめ金環・鉄剣・鉄斧および須恵器の皮袋形提瓶・須恵器蓋杯・高杯・台付壺など豊富な遺物が出土している。

また、前記の蓮華谷古墳群（II）では6世紀後半代の横穴式石室を有する円墳が5基検出されている。

奈良時代から平安時代にかけては郡頭駅（推定地）周辺に多くの寺院が建立していたと考えられ、金光明寺廃寺・かんぞう寺廃寺からは平安時代に属する均整唐草文軒平瓦が出土し、また大唐国寺廃寺・地蔵寺周辺からも平安時代の瓦が出土している。そのほか平安時代の末法思想を反映した瓦経が犬伏の蔵佐谷経塚から出土しており天仁2年（1109）銘が見られる。当該時期は「和名抄」では板野郡十郷にふくまれ、当地域を田上郷あるいは高野郷に比定する考えもある。

中世の当該地域は鎌倉時代初期においては青蓮院門跡を領家とした荘園、板西荘に含まれていたと考えられ、正応2年（1289）2月には地頭として小笠原泰清（小早川家文書の小早川政影譲状）、（同書、元応2年（1320）の関東下知状）の名前が知られる。

荘域については当初は隣接する上板町の一部を含めた形で成立していたが、後に板西上荘と板西下荘に分割されている。当該地域の犬伏地区は板西下荘に含まれていたと考えられている。

中世の遺跡としては調査地点より南に約200mに板西城が所在する。本遺跡の成立時期については十分な資料を見いださせないが、「古城諸将記」・「城跡記」には板西城主、赤沢信濃守

の名がみられ、戦国末期の天正10年（1582）には赤沢宗伝が長宗我部元親との合戦で敗れたことが記されている。

また、その他中世における城としては川端城・大寺城・矢武城などが挙げられるが、近年調査された平野部においては13世紀～15世紀前後の区画溝を伴った屋敷地が各所で調査されている。[15] しかしながらその後、現代に至るまで当該地域の平野部においては水田等の耕作地として利用されていたと考えられ、微高地上に点在する集落以外連綿とした集落の存続はみられなくなる。

注

（1） 「板野評津屋甲猪脯」『藤原宮木簡１』

（2） 「阿波国進上御贄若海藻壱籠　板野郡牟屋海」『平城宮木簡１』
「阿波国板野郡井隈戸主波多部足人戸」
「阿波国板野郡井隈郷」
「阿波国板野郡田上郷進［　］」

（3） 現鳴門市大麻町大谷字石堤に比定されている。

（4） 早渕隆人「吉野川下流域における条里地割の継続性について―黒谷川宮ノ前遺跡に見られる区画溝を中心として―」『徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol. 2』1990

（5） 大羽利夫「徳島県の遺跡」『日本の旧石器文化　3』雄山閣　1976

（6） 『光勝院寺内遺跡』徳島県教育委員会　1984

（7） 高橋正則・野々村拓也「小鳴門海峡海底下出土の石器」『旧石器考古学』26　旧石器談話会　1983

（8） 早渕隆人「旧石器遺跡立地についての一視点　吉野川北岸域を中心として―」『徳島県埋蔵文化財センター研究紀要　真朱　創刊号』1992

（9） 板野町山下所在の「大西山遺跡」が挙げられる。

(10) 『黒谷川郡頭遺跡Ⅰ』徳島県教育委員会　1984、『黒谷川郡頭遺跡第Ⅳ次調査現地説明会資料』同　1990、『黒谷川郡頭遺跡第Ⅷ次調査現地説明会資料』同　1993

(11) 高橋政則・枚岡重良「板野郡大西山遺跡出土の石器」『徳島考古　第２号』徳島考古学研究グループ1985

(12) 『黒谷川郡頭遺跡Ⅰ』徳島県教育委員会　1986・『黒谷川郡頭遺跡Ⅱ』同　1987・同『黒谷川郡頭遺跡Ⅲ・Ⅳ』同　1989・『黒谷川郡頭遺跡Ⅴ』同　1990

(13) 「蓮華谷古墳群（Ⅱ）」『徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol. 2・4』徳島県埋蔵文化財センター　1991・1993

(14) 「蓮華谷古墳群（Ⅰ）」『徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol. 4』徳島県埋蔵文化財センター

1993

(15) 「古城遺跡（C）地点」『徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol. 2・4』徳島県埋蔵文化財センター 1991・1993

『宮ノ前遺跡現地説明会資料』徳島県教育委員会 1990

参考文献

服部昌之『律令国家の歴史地理学的研究』大明同 1983

中川衷三『徳島の自然・地質2』徳島市民双書・15 1981

菅原康夫『日本の古代道跡37 徳島』保育社 1988

一山 典「阿波古代人のくらし 生産と流通を中心として 」『鳴門史学 第7集』鳴門史学会1993

板野町史編集委員会『板野町史』板野町 1972

『角川日本地名大辞典36 徳島県』角川書店 1986

III　調査成果

1　基本層序

本遺跡は前述の通り最下層部は吉野川の本流性堆積物、上層部は宮川内谷川および犬伏谷川によって形成された微高地上に立地する。調査区の現況は水田等の耕作地で、調査区西側の1段下がった旧河道と想定される地点から東側の1段高い平坦部を横切り東側の旧犬伏谷川沿いの低位部まで東西約200m、南北約50m幅で調査区を設定した（第2・3図）。その間、M－1～M－10まで10ヵ所においてトレンチ調査を実施し、部分的に深掘りを行い土層柱状図（第5図）を作成した。

各地点における土層堆積状況は基本的に第1・2層が現耕作土および床土で、第3・4・5層の砂質土を挟んで第6層の遺物包含層に至る。遺物包含層は約0.2mを測り第6層除去後、第7層上面において第1遺構面を検出した。このうち第4層はM－5トレンチのみにおいて検出した土壌で、灰色粘質土を呈しさらに下層では湧水層に至る。本地点では明確な遺物包含層を検出し得なかったが南北方向の護岸状の石列を検出し、東側トレンチにおいて検出した包含層および遺構面の存在から、微高地西側の自然流路1（SR1001）である事が確認された。

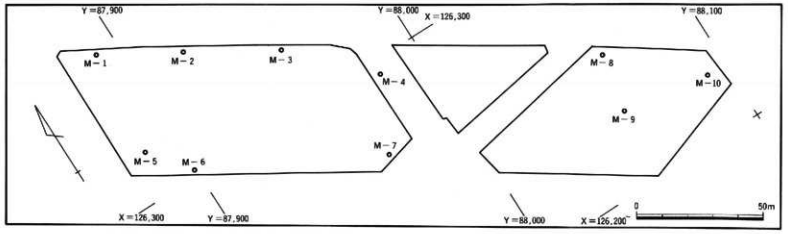
また、東側調査区の第3分割東側と第4分割は第1・2分割とは約1.2m低位部に位置し、旧犬伏谷川の流れと考えられていた。M－8～M－9トレンチを設定した結果、明確な遺構面は確認されず第1層および第2層は現耕作土、第3層から第10層までは灰色系統の粘質土の堆積層で、自然流路2（SR1002）であることが確認された。遺物包含層はM－8トレンチにおいては第4層下層、標高1.2mにおいて検出しM－10トレンチにおいては第11層下層、標高0.2m地点において検出したことから包含層および各土層堆積は東に向かって下降傾向を示している。各地点での堆積層の対応関係は微高地側のM－8トレンチ第4層はM－10トレンチの第5層～第10層が対応する。M－9・M－10トレンチでは遺物包含層検出面上部に第11層の植物遺体堆積層がみられる。この堆積層は本調査地点より東側約200m地点において調査された宮ノ前遺跡の第10層に対応することから犬伏谷川下流部に向かって広範囲に堆積しており、この植物遺体堆積層は河道部において遺物包含層を見きわめる鍵層と捉えられる。遺物包含層は第13層～第17層までが第1遺物包含層、第20層が第2遺物包含層と大きく2層に分層される。このうち第1遺物包含層の第13層には多量の木製品が包含されているが、M－8・M－9トレンチにおいては検出されなかったことから木製品を含む層は調査区中央部より東側に広がるものと考えられる。

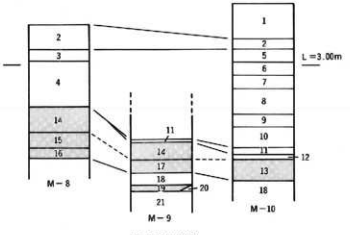
微高地上の第１分割から第３分割においては、第１遺構面のさらに約3.0m下層部まで褐色系統の砂質土の堆積が認められ、Ｍ－１トレンチでは第７層～第10層が、Ｍ－７トレンチでは第７・11層～第13層が対応する。また、第10層には若干の弥生土器片を含み遺物包含層として捉えられる。また、第14層は黒褐色粘質土の堆積層で、水田土壌の堆積層である。

本遺跡の基本的な土層堆積状況は、微高地上と自然流路部分の各地点において様相が異なる堆積状況を示す。微高地上においてはシルト質の堆積層で、検出した第１遺構面は古代から中世にかけて遺構が形成されている。また第１遺構面からさらに約３ｍ下部において検出した遺構面では弥生時代後期後半から古墳時代初頭の水田遺構が形成されている。

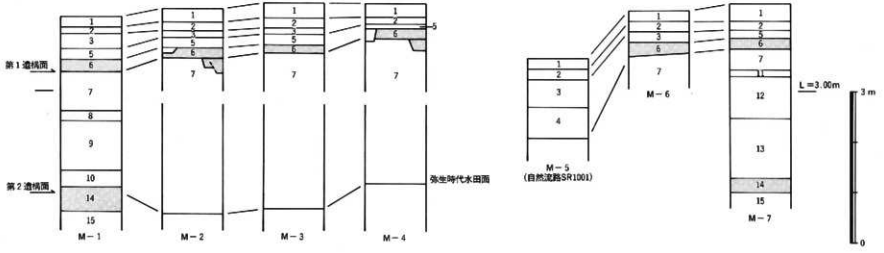
自然流路部分においては上層部から下部にかけてグライ化した土壌が堆積しており、遺構の形成あるいは遺物の堆積層はみられない。地表下約2.0m～3.0mにおいて検出した遺物包含層は、第１遺物包含層が平安時代から中世にかけての堆積層で、第２遺構面は奈良時代の堆積層と考えられる。

第２遺構面および自然流路１・２の層序については各項において詳しく述べる。





1 にぶい黄色2.2Y6/3砂質土
2 灰色5Y5/1粘質土
3 黄褐色2.5Y5/3粘質土
4 黄灰色2.5Y6/1粘質土(下部に鉄分多く含む)
5 灰色7.5Y5/1粘質土
6 灰色10Y5/1粘質土
7 緑灰色10GY5/1粘質土
8 青灰色5BG5/1粘質土
9 暗青灰色5BG4/1粘質土
10 暗オリーブ灰色5GY4/1粘質土
11 灰オリーブ色7.5Y5/2(植物遺体堆積層)
12 灰色5Y4/1粘質土
13 灰色10Y4/1粘質土(木製品を多量に含む)
14 緑灰色10GY5/1粘質土
15 緑灰色10GY6/1粘質土
16 暗緑灰色7.5GY4/1粘質土
17 暗青灰色10GB4/1粘質土
18 暗オリーブ灰色5GY4/1粘質土
19 灰色5Y4/1粘質土
20 オリーブ黒色7.5Y2/2粘質土
21 灰色10Y4/1砂質土
※13、14、15、16、17層は第1包含層
20層は第2包含層



1 灰オリーブ色5Y4/2砂質土(表土耕作土)
2 褐灰色10YR5/1砂質土
3 灰オリーブ色5Y5/3砂質土
4 灰色5Y6/1粘質土 (鉄分多く含む)
5 褐色10YR4/4砂質土 (炭千土器片を含む)
6 にぶい黄褐色10YR5/3砂質土(奈良時代から中世の遺物包含層)
7 にぶい黄褐色10Y5/4砂質土
8 褐色10YR4/4砂質土
9 暗褐色10YR3/4粘質土
10 灰オリーブ色5Y5/3粘質土
11 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土
12 にぶい黄褐色10YR5/4砂質土
13 褐色10YR4/4砂質土
14 黒褐色2.5Y3/2粘質土(弥生時代水田土壌)
15 オリーブ黄色5Y6/3粘質土
※8、9、10層は、11、12、13層と対応

第5図 黒谷川宮ノ前遺跡基本土層図

2　第２遺構面（弥生時代）

当該地域での弥生時代の遺跡は極めて少なく、本遺跡から約1.0km東に位置する黒谷川郡頭遺跡が唯一調査されているのみである。当遺跡はⅨ次に及ぶ調査および報告書によりその概要が報告されている。遺跡の中心は、時期的に弥生時代後期後半から古墳時代初頭にわたるものである。また、遺跡の性格は朱の精製を行った集落遺跡で、検出された遺構は竪穴住居・溝・土坑が主で水田跡等の生産遺構は検出されていない。

遺構面の標高は1.0m前後で、上記の黒谷川郡頭遺跡の立地もやはり1.0m前後に立地することから当該時期の遺跡は現地表面から約3.0m～約4.0m下層部に埋没しているものと考えられる。

黒谷川宮ノ前遺跡第２遺構面において検出した弥生時代後期後半の水田遺構はいわゆる小区画水田で構成されたもので、東西約190m、南北50mを測り、その広がりは東西南北ともかなりの広範囲におよぶものと考えられ、住居跡等集落に係わる遺構の検出が見られないことから集落から分離した生産地帯の様相を示すものとして指摘できる。

検出した水田面は大区画水田２枚・小区画水田46枚以上、大畦畔５条で、また付帯遺構として溝状遺構10条・池状遺構１基が確認された。また、遺構面・土層堆積面から地震に伴う噴砂が検出されたので合わせて報告する。

(1)　遺構と遺物（第６・７図）

層序（第６・７図）

第２遺構面は現地表面から約3.2m、海抜1.50m前後において検出した弥生時代後期後半を中心とした小区画水田によって構成された生産遺構である。

基本的には前項でも述べたように第１遺構面から約2.7m下層部、第12層目第16層下面部で第Ⅱ期水田面、第18層下面部で第１期水田面を検出した（第６図）。

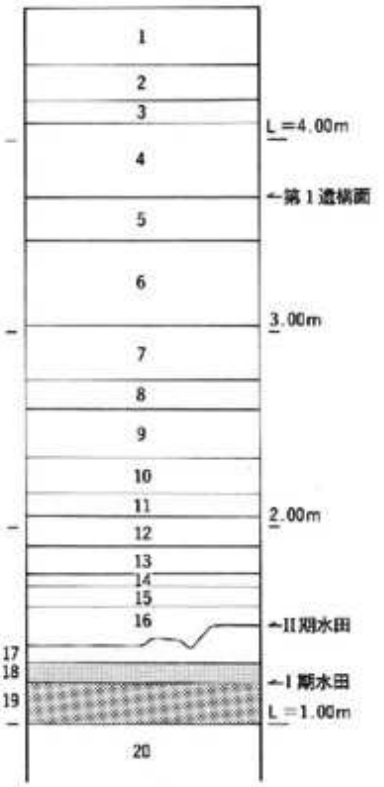
第２期水田面上部の堆積層は褐色系統の砂質土の堆積物で、土質からも鉄分・マンガン等の堆積層及び遺物の包含層は見られないことからも、当該時期以降標高4.0m前後まで生産面及び生活面の形成はなかったものと考えられる。また、第１遺構面上からは古墳時代後期（６世紀後半）の遺構が検出していることから、約３世紀間での土層の堆積は2.20mに及ぶことからもこの期間において河川による堆積が著しかったことが伺われる。

水田面を構成する堆積層は第６図で示すように第21層において検出したマンガンを多量に含む黄灰色粘質土が畦畔状の高まりを形成しており水田面の形成が認められる。また、第22

層下面、第19層の黒褐色粘土層を基盤面とする第Ⅰ期水田面構成面においては畦畔状の高まり及び溝状遺構が検出されており、水田面は大きく2時期にわたることが確認される。また、上層第5層までは部分的に鉄分及びマンガンの沈殿した粘質土層が認められることから第Ⅱ期水田面上層においても水田面の可能性も考えることができるが、水田遺構に伴う附属施設は認められず、半湿・半乾を繰り返す湿地状の地形を呈していたものと考えられる。

また、数ヵ所の区画水田からは耕作痕および足跡状の遺構を検出した。

調査区中央部においては第Ⅰ期水田の基盤層の落ち込みが東西方向の土層断面で約44mで確認され、土層からは灰色粘土層の堆積が認められた。この土層は水田層とは異なり常時帯水を呈していた状況が考えられ、池状の落ち込みとして捉えられる。



1 灰オリーブ色5Y4/2砂質土
2 灰褐色10YR5/1砂質土
3 灰オリーブ色5Y5/3砂質土
4 褐色10YR4/4砂質土(古代～中世包含層)
5 純い黄褐色10YR5/4砂質土
6 黄褐色2.5Y5/4砂質土
7 灰黄褐色10YR5/2砂質土
8 浄い黄褐色10YR5/4砂質土(細砂を多量に含む)
9 浄い黄褐色10YR5/3砂質土(粘性あり)
10 黄褐色2.5Y5/3砂質土(粘性あり)
11 浄い黄褐色10YR5/4砂質土(粘性あり)
12 オリーブ褐色2.5Y4/4粘質土
13 オリーブ褐色2.5Y5/4粘質土
14 黄褐色2.5Y5/3砂質土(粘性あり)
15 灰オリーブ色5Y5/3粘質土(鉄分含む)
16 オリーブ黄色5Y6/4粘質土(鉄分含む)
17 黄灰色2.5Y5/1粘質土(鉄分多く含む)
18 灰色7.5Y4/1粘土(鉄分多量含む)
19 黒褐色2.5Y3/2粘土
20 オリーブ灰色5GY5/1粘土

第6図　第2遺構面基本層序

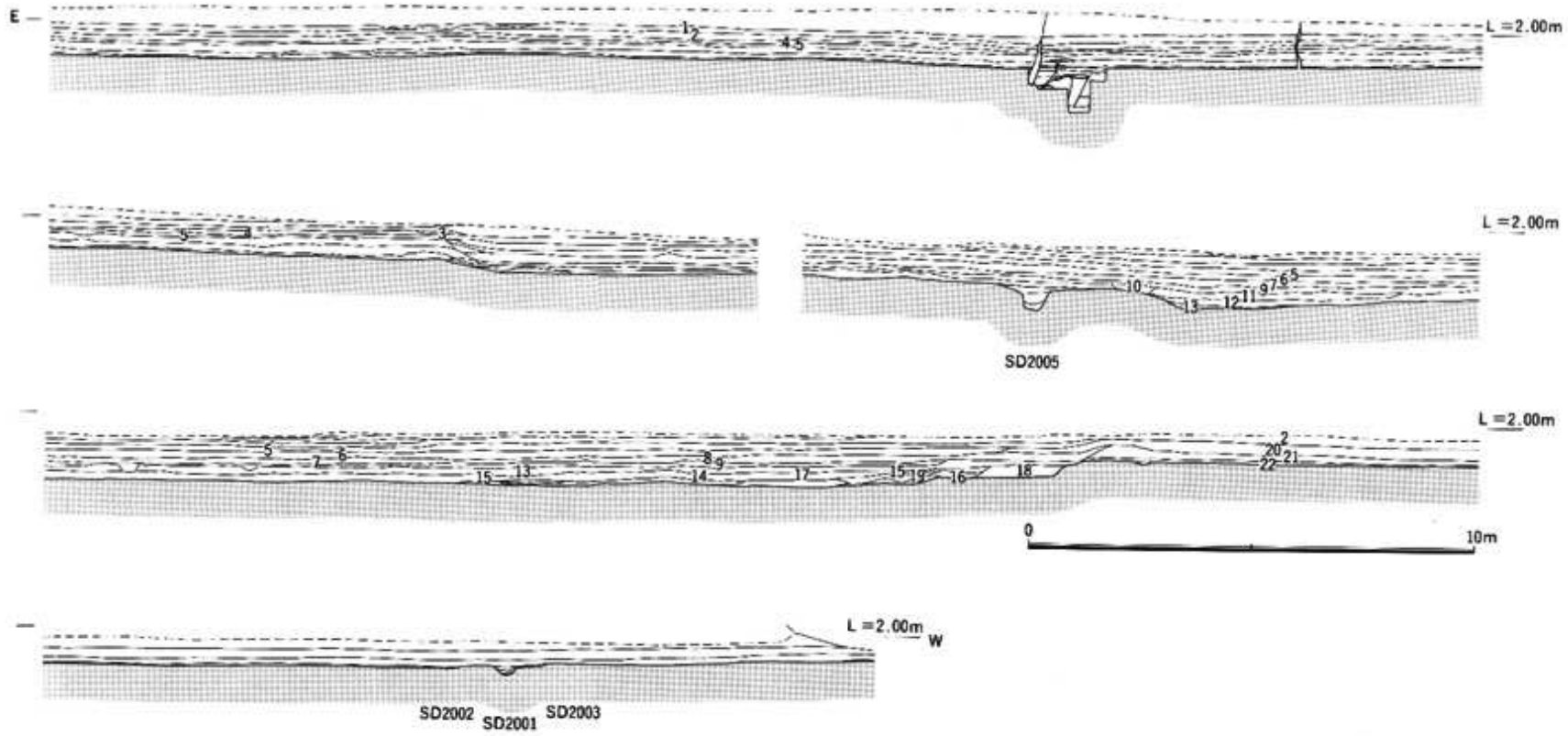
調査区内の西側一部は、第1遺構面において検出した自然流路1（SR1001）によって削り込まれている（第8図）。

本報告では、比較的遺存状態の良好な第1期水田を報告する。

大区画水田A（第9図）

1・2分割北西ブロックにおいて検出した大区画水田で、推定区画面積は218.5㎡を測り、溝1（SD2001）・溝3（SD2003）・溝6（SD2006）および2号畦畔、3号畦畔によって区画されている。区画の形状北西隅が開口するもののほぼ三角形状を呈し、検出した規模は一辺21.0m前後を測る。

地形的には西側から東側に傾斜しており、比高差は0.28mを測る。区画内においては畦畔状の高まりは検出されなかったが、本来は小区画水田が存在していたものと考えられる。流水の方向は西から東を示す。



1 オリーブ褐色2.5Y4/4粘質土(下層よりやや粘性強い)
2 オリーブ褐色2.5Y4/4粘質土
3 オリーブ褐色2.5Y4/4粘質土(上層よりやや明るい)
4 黄褐色2.5Y5/3粘性砂質土
5 オリーブ黄色5Y6/4粘質土(4よりもマンガン、鉄分多く含む)
6 灰オリーブ色7.5Y6/2粘質土
7 灰色7.5Y5/1粘土(マンガン、鉄分少量含む)
8 灰色7.5Y5/1粘土
9 灰色7.5Y5/1粘土(マンガン、鉄分少量含む)
10 黄灰色2.5Y4/1粘土(マンガン少量含む)
11 黄灰色2.5Y4/1粘土(マンガン多く含む)
12 暗灰黄色2.5Y4/2粘土(マンガン、鉄分少量含む)
13 灰オリーブ色7.5Y5/2細少(噴砂の堆積)
14 黒褐色10YR3/1粘土(やや暗い)
15 黒褐色10YR3/1粘土
16 暗灰黄色2.5Y5/2粘土(マンガン、鉄分多く含む)
17 黒色10YR2/1粘土(弥生中期の土器片含む)
18 灰色5Y5/1粘土(マンガン、鉄分多量に含む)
19 褐灰色10YR5/1粘土
20 オリーブ黄色5Y6/4粘質土(マンガン、鉄分含む)
21 黄灰色2.5Y5/1粘質土(マンガン多く含む)水田II期(マンガン多く含む)
22 灰色7.5Y4/1粘質土(マンガン、鉄分多量に含む)

第7図　第2遺構面東西セクション北面土層図

大区画水田B（第9図）

1・2分割、北西ブロックにおいて検出した大区画水田で、大区画水田Aの東側に位置し、検出面積は333.5㎡を測る。区画の形状は溝2（SD2002）・溝4（SD2004）・溝3（SD2003）の一部によって区画され、北側が調査区外に延びるものの長方形状を呈するものと考えられる。区画の規模は長辺27.0m以上、短辺13.0m前後を測り、地形的には西側から東側に約0.27m低くなる傾斜面を呈している。区画内においては大区画水田Aと同様、小区画水田は検出されなかったが、検出面が傾斜をもつ事などから大区画内において小畦畔による区画があったものと考えられる。

小区画水田（1～8号水田・12号水田）（第8・10図）

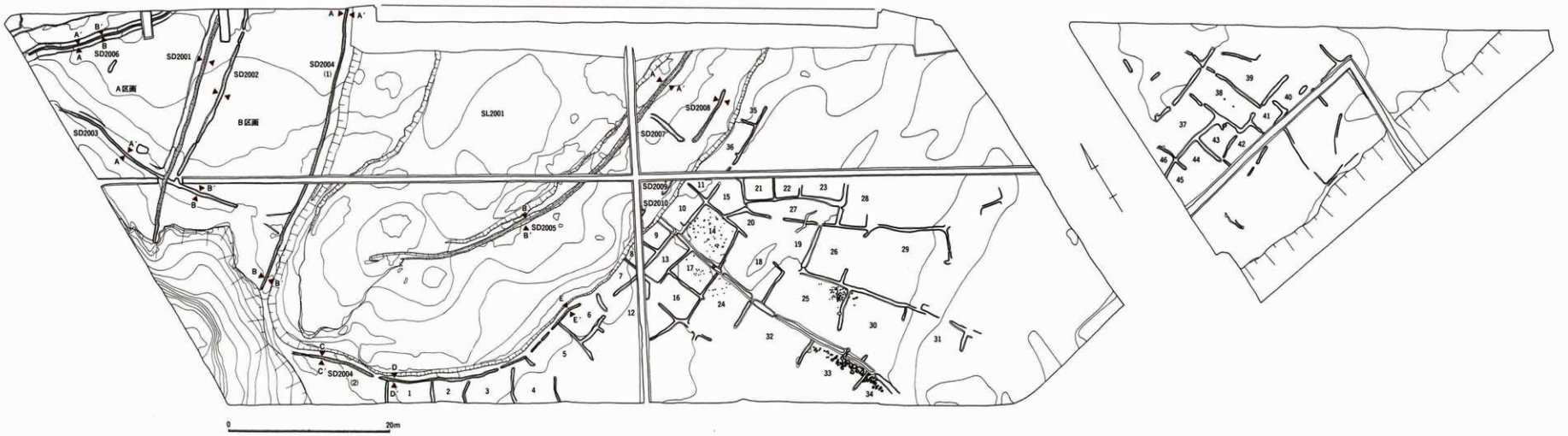
1・2分割、南西ブロックにおいて検出した連続する小区画水田で、位置的には池状遺構（SL2001）の南側縁辺を弧の字状に配列している。各水田を区画する畦畔は幅約0.4m前後、高さ1cm～3cm程度を有するもので、5号水田6号水田を区画する畦畔の長さは3.50mで各水田ともほぼ同等の畦畔で区画されているものと考えられる。しかしながら連続する水田畦畔は北側の池状遺構側には構築されておらず断続する深さ5cm前後の溝によって区画されている。

各水田の比高差は、2号水田は1号水田西側から12cm低く、3号水田から3cm低くなっている。また3号水田は4号水田から9cmの高低差をもち低くなっている。4号～7号水田は調査区南端から9cm～13cmの比高差をもち低くなっている。

小区画水田（9～11号水田・13～36号水田）・大畦畔5（第8・11図）

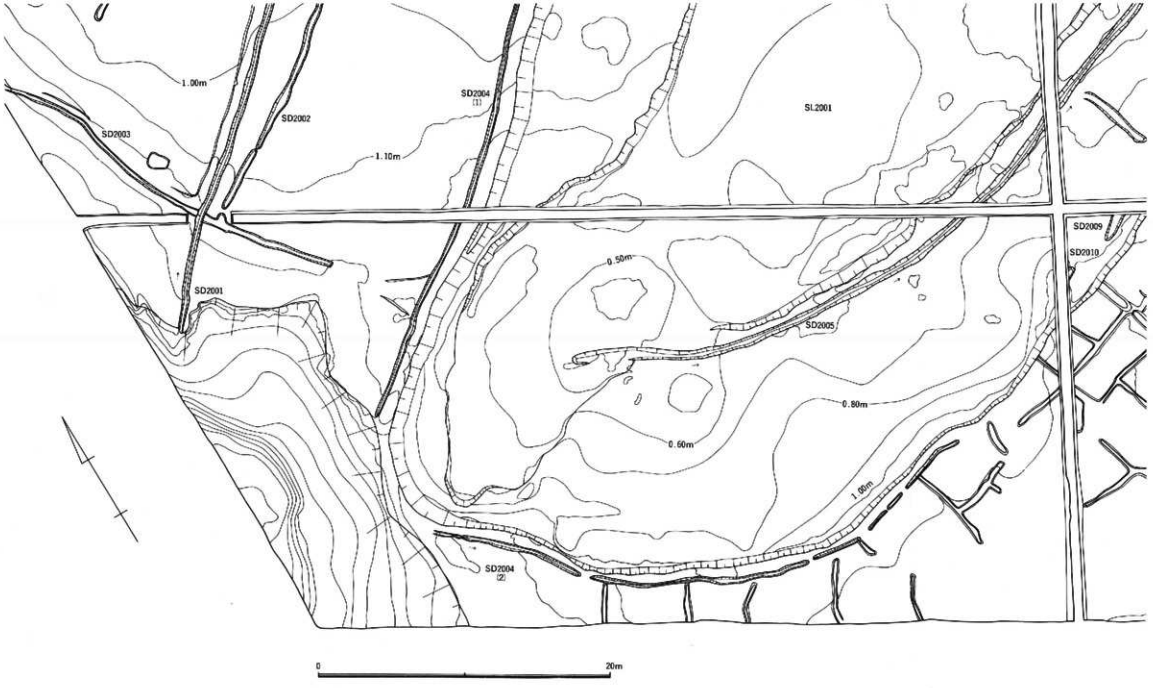
1・2分割、東ブロックで検出した水田で明確に畦畔が確認されたのは池状遺構周辺部で、南東側においては断片的である。検出した水田の9号水田～11号水田・35号・36号水田は8号水田から連続し、池状遺構縁辺部に沿って構築されている。また南東方向へ延びる大畦畔5の両側に連続した小区画水田が構築されている。東ブロックで検出した遺構面は南東方向から北西方向（池状遺構SL2001）に向かって低くなっており、比高差は約20cmを測る。

大畦畔（5号畦畔）は幅50cm前後、高さ10cm前後を測り池状遺構縁辺部から南東方向にほぼ直線的に36m以上検出し、またその間7ヵ所において水口を設けている。各水田間での給水方向は大畦畔5の西側24号・32号～34号水田は大畦畔5に設けた水口を通し東側小区画水田18号・25号・30号・31号の各水田に流れる。大畦畔の西側と東側の比高差は6cm～10cm前後を測る。また、14号水田は17号水田から水口を通し、10号水田は13号水田・14号水田から水口を通し供給される。池状遺構縁辺部に構築された小区画水田9号～11号・35号・36号水田は南東方向から水口を通し供給されるものの池状遺構縁側においては畦畔を伴わず、また

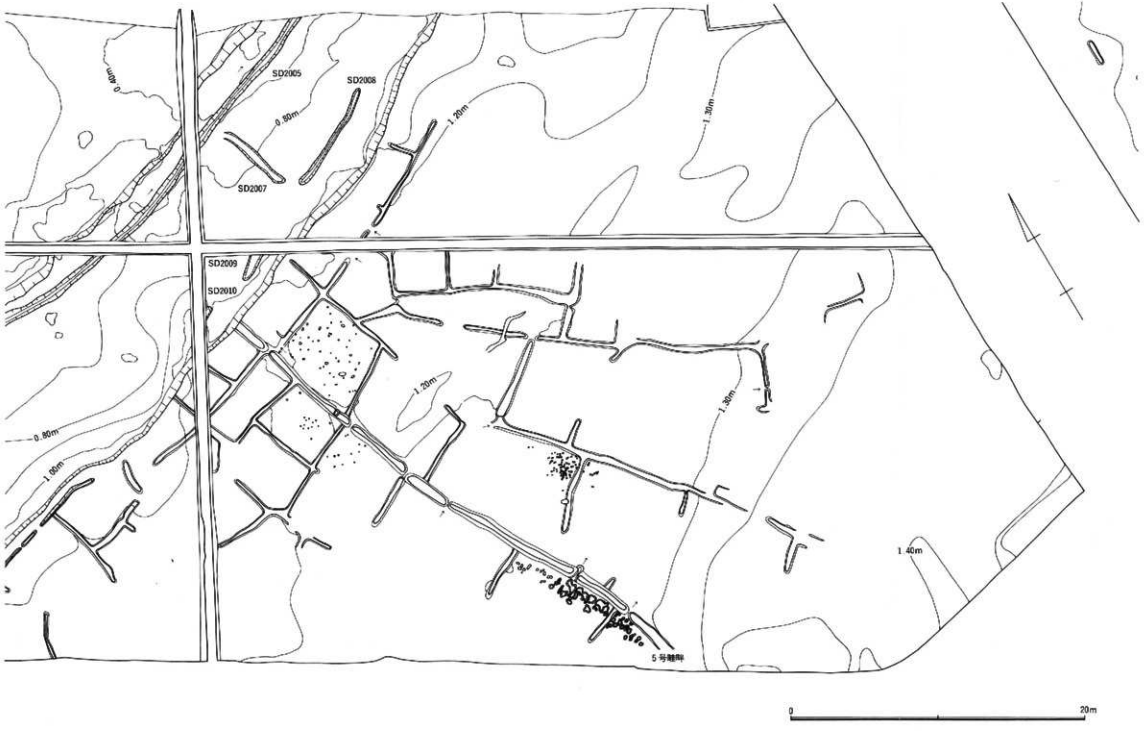


第 8 図　第 2 遺構面遺構配置図（▶は断面位置）

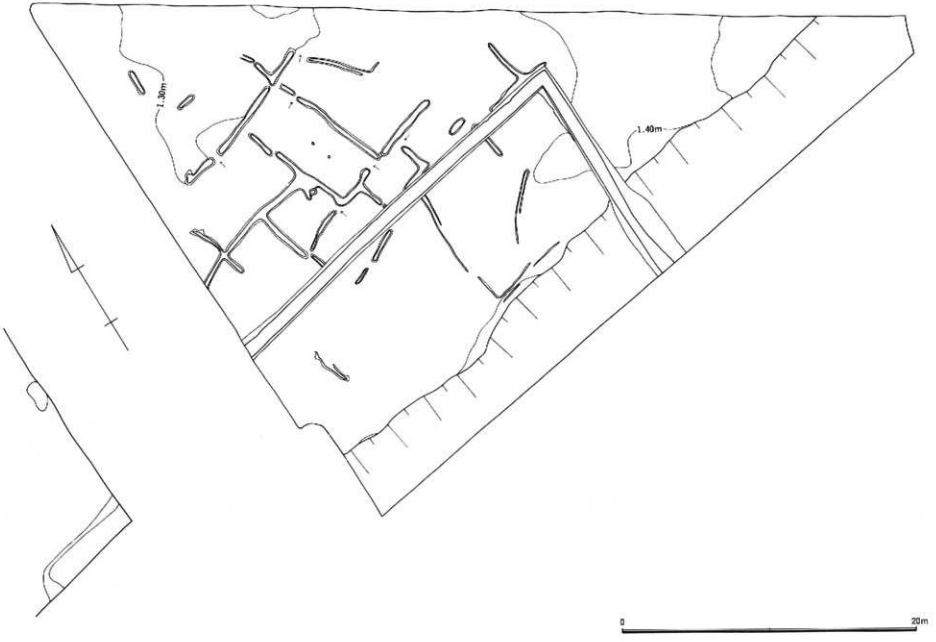
第９図　１・２分割北西ブロック遺構配置図（→は流水方向）



第10図　1・2分割南西ブロック遺構配置図（→は流水方向）



第11図　1・2分割東ブロック遺構配置図（→は流水方向）



第12図　3分割遺構配置図（→は流水方向）

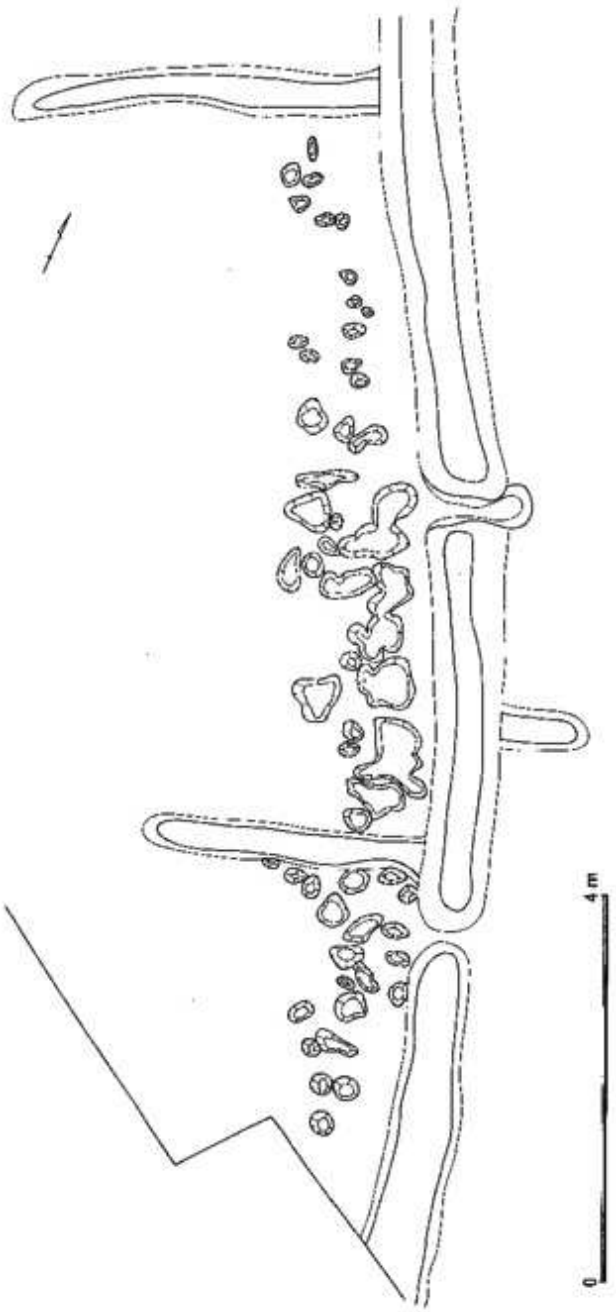
南西ブロックで検出した溝状遺構を伴っていない。

小区画水田（37～46号水田）

（第８・12図）

第３分割において検出した小区画水田で、検出面の標高は1.30m前後を測り、また堆積土層から第１・２分割において検出した第Ⅰ期水田と連続する水田面と考えられる。検出した水田面は断片的なものも含め10面以上を数える。検出した遺構面は南側が東西方向に自然流路２（SR1002）によって切られている。遺構面の高さは南側が高く北側との比高差は８cmを測る。

水田への給水は南側から行われたと考えられ、水田ごとの給水は小畦畔に設けられた水口によったものと考えられる。比高差からみると37号水田は北側水田と38号水田方向に、また38号水田は40号水田から41号水田を経て給水され、39号水田に流入する。39号水田はさらに北側水田に水口をもって給水されたものと考えられる。



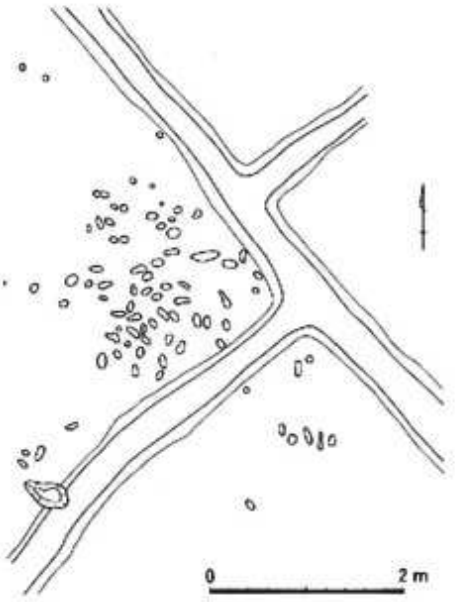
第13図　34・35号水田耕作痕

鋤跡（第13図）

第Ⅰ期水田面検出時に黄灰色系統の砂質土の埋土をもつ不整形なプランが確認されたもので、大畦畔５の西側沿い33号水田から34号水田にかけて連続している。連続する不整形な落ち込みは深さ５cm前後を測るもので棚状のピットとは考えられず耕作時における鋤等の耕作痕と考えられる。

足跡（第14図）

第Ⅰ期水田面検出時において検出した長楕円形ないし円形状のプランをもつもので、25号水田南東隅に集中する。長軸は20cm前後を測り、方向は東西方向の一群と南北方向の一群に大きく分けられる。円形プランを呈するものは稲株痕の可能性が考えられる。この他、足跡・稲株痕と考えられる痕跡は14号・17号・24号水田においても検出されている。

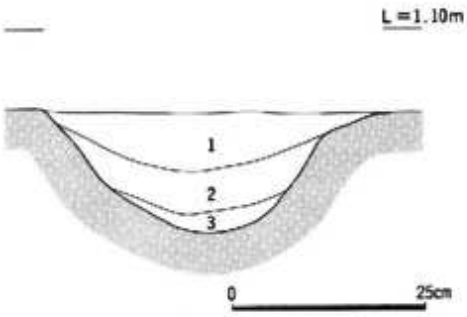


第14図　25号水田足跡痕

溝1（SD2001）（第15図）

1・2分割北西ブロック、大区画水田A東沿いに検出した溝状遺構で南西方向から北東方向に直線的に延び、南西側は溝3（SD2003）を切っている。検出した溝の規模は長さ29.45m、幅0.45m、深さ0.15mを測り北東側は調査区外に延びる。溝内埋土は3層に分層され黄色系統の粘質土を呈する。

溝1は3号畦畔および4号畦畔の帯状の高まりに掘削されており、溝内の底面の高さは南西側が高く北東側との比高差は0.50mを測ることから調査区外北側の水田に給水する機能をもつものと考えられる。溝内からは遺物は出土していない。

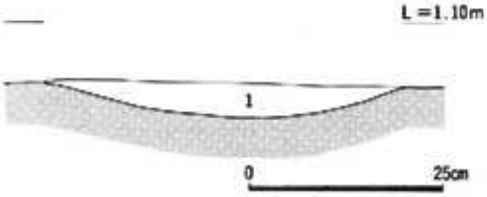


1　灰黄色2.5Y6/2粘質土
2　暗灰色2.5Y4/2粘質土
3　黄褐色2.5Y5/3粘質土

第15図　SD2001土層断面実測図

溝2（SD2002）（第16図）

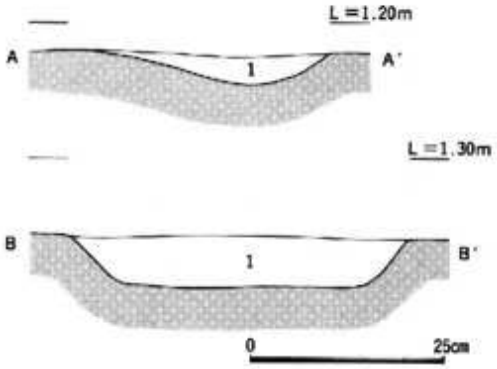
1・2分割、北西ブロック、大区画水田Bの西側において検出した溝状遺構で4号畦畔東側沿いに掘削されている。検出した溝は断続しているもののほぼ南西側から北東方向に直線的に延びる。検出した溝の規模は全長22.05m、幅0.50m、深さ0.04mを測る。溝の断面形状は浅いレンズ状を呈し、溝内埋土は灰黄色粘質土1層である。



1　灰黄色2.5Y6/2粘質土

第16図　SD2002土層断面実測図

溝は断片的に連続するものであるが各構内の底面の深さは北東方向に下がっており、南西側との比高差は17cmを測る。比高差から言えば北東方向への流水が考えられるが、溝自体が断続していること及び断面形状からみると北東側への給水機能をもった溝とは考えられず、大区画水田Bに付設した給排水の溝と考えられる。溝内から遺物は出土していない。



1　灰黄色2.5Y6/2粘質土

第17図　SD2003土層断面実測図

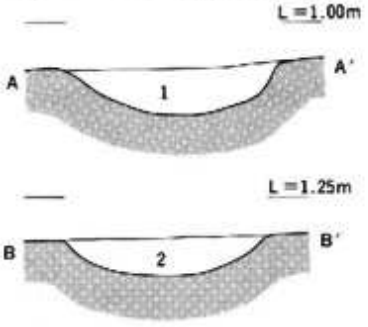
溝3（SD2003）（第17図）

1・2分割、北西ブロックにおいて検出した溝状遺構で、北西方向から南東方向へ延び大区画水田Aおよび大区画水田Bの南東側一辺を区画する。検出した溝の北西側は自然に終息しており、南東端は垂直気味に掘り込まれ途切れる。規模はやや蛇行するものの全長25.57m 、幅0.35m～0.47m、深さ0.03m～0.06mを測る。溝の断面形状は北西側は浅いU字状、南東側は浅い逆台形状を呈し、溝内埋土は灰黄色粘質土である。

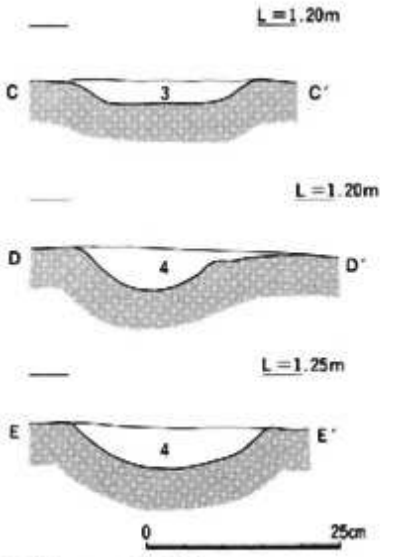
溝は中央寄りにおいて溝1（SD2001）に切られておりまた、やや東よりにおいては溝2（SD2002）側に一部突出した形状を呈する。溝内底面の高さは溝両端部から中央部の突出部に向かって低くなっており比高差は3cm～13cmを測る。

溝4（SD2004）（第18図）

1・2分割、池状遺構1（SL2001）縁辺を巡る溝で池状遺構の西側と南側に分割する。池状遺構西側で検出した溝は南西から北東方向に直線的に延び、北東端は調査区外に延びる。検出した溝の規模は長さ36.75m、幅0.25～0.35m、深さ0.06m を測る。溝内埋土は黄褐色の粘性をもった砂質土およびマンガンを多量に含む灰オリーブ色の粘質土である。



1　灰オリーブ色5Y5/2粘質土（マンガン多く含む）
2　黄褐色2.5Y5/4粘性砂質土



3　灰黄色2.5Y6/2粘質土
4　灰オリーブ色5Y5/2粘質土（マンガン多く含む）

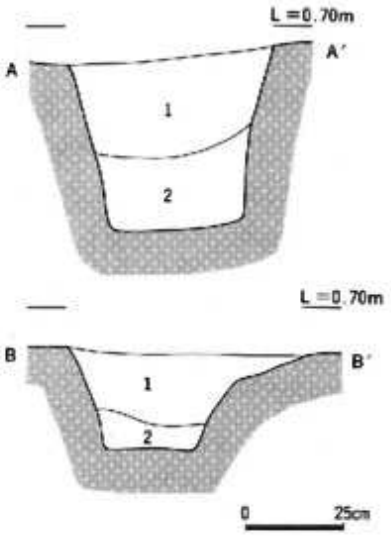
第18図　SD2004(1)(2)土層断面実測図

池状遺構南縁を巡る溝は小規模な溝が同一方向に連続したものである。検出した溝の総延長は37.50mを測り、各地点での幅は約0.30m前後、深さは0.05m前後を測る。遺構内埋土は西側溝と同様である。

溝底面の比高差は西側溝では0.5m、南側溝0.17mを測り西側溝は北東方向に南側溝は東側への流水方向が考えられるが、南側溝は断続しておりまた水田面の傾斜から見ると給水機能をもったものではなく南側からの入る水を一時的に滞水される機能をもったものと考えられる。

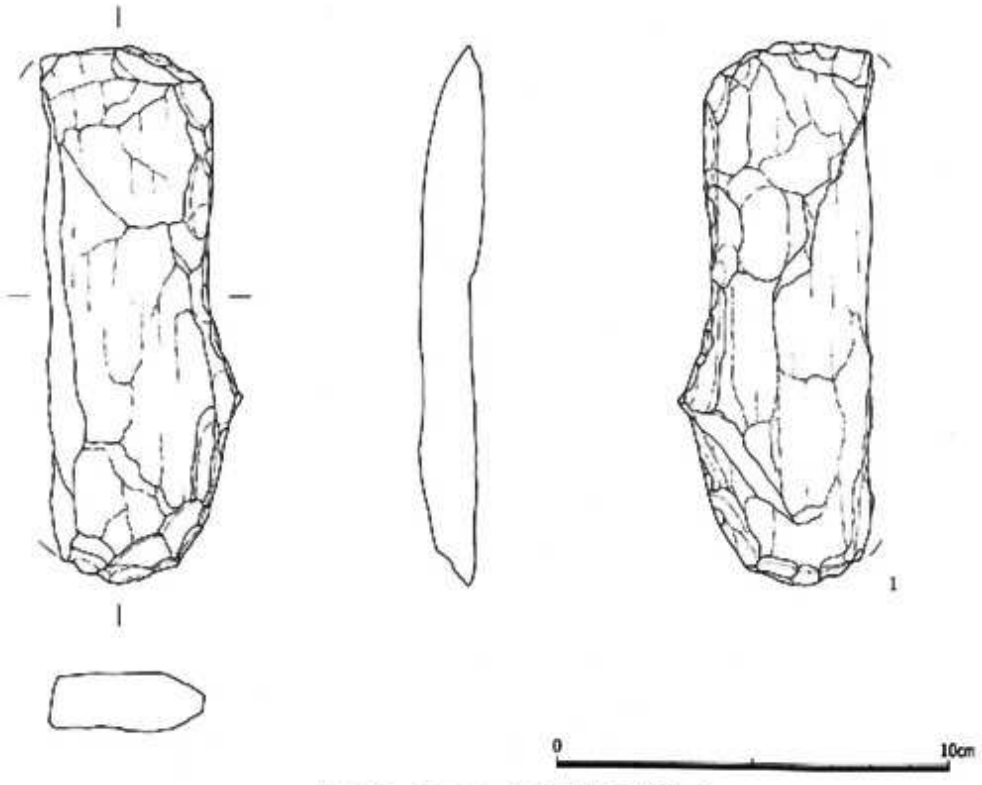
溝5 (SD2005) (第19図)

1・2分割、池状遺構の上段部縁に沿って検出した南西方向から北東方向に延びる溝で、北東端は調査区外に延びる。検出した溝の規模は長さ50.0m、幅0.60



1 暗灰黄色2.5Y5/2粘質土(マンガン小量含む)
2 暗灰黄色2.5Y4/2粘質土

第19図 SD2005土層断面実測図



第20図 SD2005出土石製品実測図

m～0.70m、深さ0.40m前後を測り、断面形状は逆台形状を呈する。溝内埋土は暗灰黄色の粘質土で2層に分層され、第1層にはマンガンが少量含まれている。

溝底面は南西側から北東側に低くなり比高差は0.16mを測り、また溝東端部は開口しており池状遺構の最深部にあたることから池状遺構内の水の取り入れ口と考えられる。

溝内からは緑泥片岩製の石鏃が1点出土している。

出土遺物（第20図）

1は緑泥片岩製の石鏃で、側辺部が欠損しているものの形状は長方形状を呈するもので長さ13.9cm、厚さ1.6cmを測る。両端および側辺は丁寧な調整が加えられており基部は方形状に、刃部はU字状に整形されている。

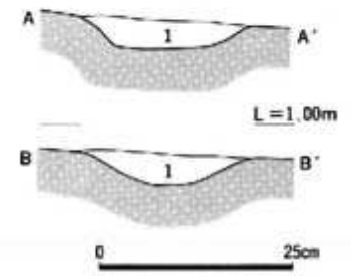
溝6（SD2006）（第21図）

1・2分割北西隅において検出した東西方向に延びる溝で、東端は調査区外に延びる。検出した溝の規模は長さ18.60m、幅0.25m、深さ0.04m～0.07mを測る。

溝内埋土は鈍い黄色の粘性砂質土1層である。

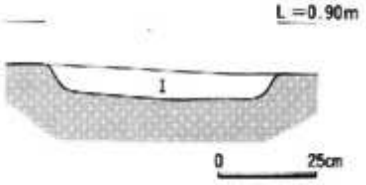
溝の検出位置は大区画水田Aの北側沿い、東西方向に延びた幅2.50m前後を測る低い大畦畔（1号畦畔）南側、2号畦畔内に構築されており溝底面の比高差は東側が低く約0.13mを測ることから北側への流水方向を示す。

溝の機能としては大区画水田Aに給水するものではなく、溝1（SD2001）と同様に調査区外北側の水田に給水するための溝と考えられる。



1　鈍い黄色2.5Y6/3粘性砂質土

第21図　SD2006土層断面実測図



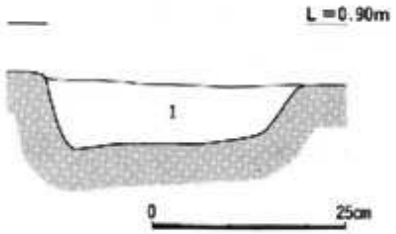
1　灰オリーブ色7.5Y6/2粘質土（マンガン小量含む）

第22図　SD2007土層断面実測図

溝7（SD2007）（第22図）

1・2分割、東ブロック北側の池状遺構内の1段高い平坦部において検出した溝で、検出した規模は長さ5.25m、幅0.60m、深さ0.07mを測る小規模なものである。

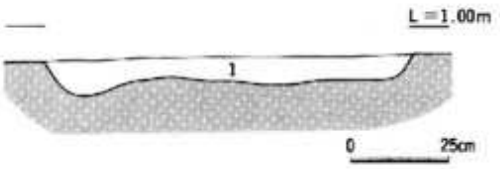
溝内埋土はマンガンを少量含んだ灰オリーブ色の粘質土である。



1　灰オリーブ色7.5Y6/2粘質土（マンガン小量含む）

第23図　SD2008土層断面実測図

溝の方向は南北を示し北側開口部に向かって0.09m程度低くなっている。

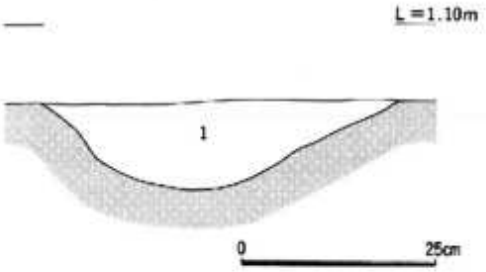


1　灰色10Y5/1粘質土(マンガン少量含む)

第24図　SD2009土層断面実測図

溝8（SD2008）（第23図）

1・2分割、東ブロック北側池状遺構内において検出した溝で、溝7（SD2007）の南端部から直角に北方向に延びる。検出した溝の断面形状は浅い逆台形状を呈し、規模は長さ7.65m、幅0.35m、深さ0.09mを測るもので両端部は丸く終息する。溝内埋土はマンガンを少量含む灰オリーブ色粘質土である。



1　灰色10Y5/1粘質土(マンガン少量含む)

第25図　SD2010土層断面実測図

溝9（SD2009）（第24図）

1・2分割、東ブロック池状遺構内の落ち際に沿って検出した溝で、検出した溝の規模は長さ2.15m、幅0.95m、深さ0.09mを測る。東端は土層観察アゼに入っているが、北側において検出していない事から小規模なものと考えられる。溝内埋土はマンガンを少量含んだ灰色粘質土である。

溝10（SD2010）（第25図）

1・2分割、東ブロック北側隅の池状遺構内において検出した溝状遺構西端は土層観察アゼ内に入る。検出した溝の規模は長さ0.60m、幅0.45m、深さ0.11mを測る小規模なものである。溝の断面形状は浅いU字状を呈するもので、溝内埋土はマンガンを少量含む灰色粘質土である。

池状遺構1（SL2001）（第26図）

1・2分割ほぼ中央部において検出した池状遺構で、北東側は調査区外に広がる。検出した規模は南北幅約44.0m、東西幅約50.0m、深さ約0.70mを測り平面プランは長楕円形を呈するものと考えられる。

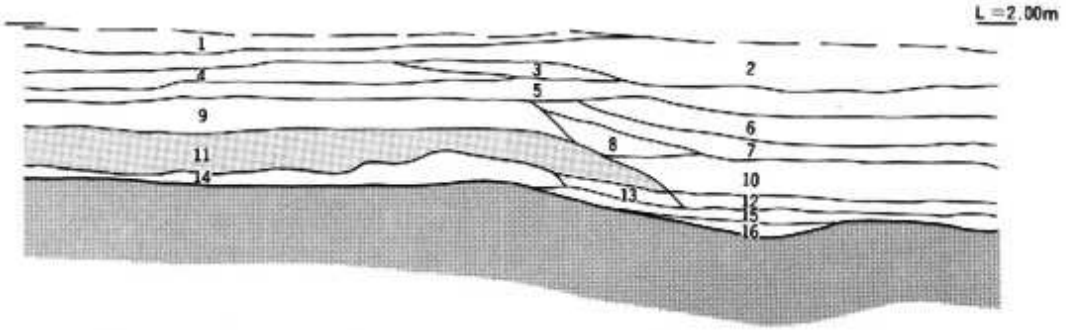
土層断面からは池状遺構の外側縁辺部には堤状遺構が構築されており、II期水田には東側第11層・西側第6層が対応する。I期水田時には東側において若干の盛り上がりがみられるが西側においては検出されず堤状の遺構は構築されていないものと考えられる。

池状遺構は上段部と下段部の2段の平坦面と給排水機能をもつと考えられる溝5

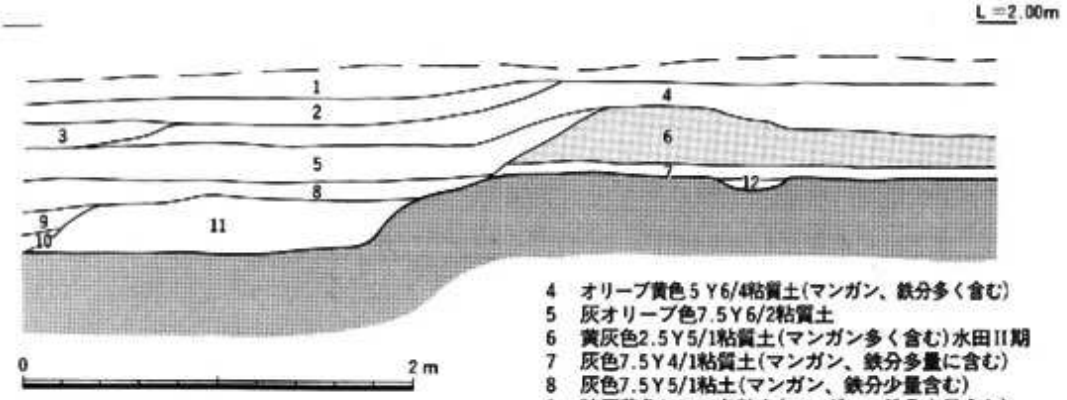
(SD2005) によって構成されている。

上段面はⅠ期水田面から約0.30m下がった位置に平坦面をもち、池状遺構の南縁部から北東縁辺部と西縁部に形成されている。また、下段面は上段面から約0.40m下がった位置に形成されている。上段面は緩やかに下段面に向かって低くなっており、段自体は南西側に向かって下がり溝5の集水部では終息する。上段面での遺構の形成は小規模な溝状遺構7・8・9・10と溝5が構築されているのみで、水田遺構に伴う畦畔状の高まりは検出していない。下段面の底面の高さは溝5の開口部付近が低く、集水部を形成している。集水部には構造遺構は検出されなかった。

池状遺構内の埋土は灰色系統の粘質土の堆積が連続しており常時滞水状況を呈していたものと考えられる(第7図)。また、池状遺構内の滞水は溝5を通じて調査区外北側に引水された



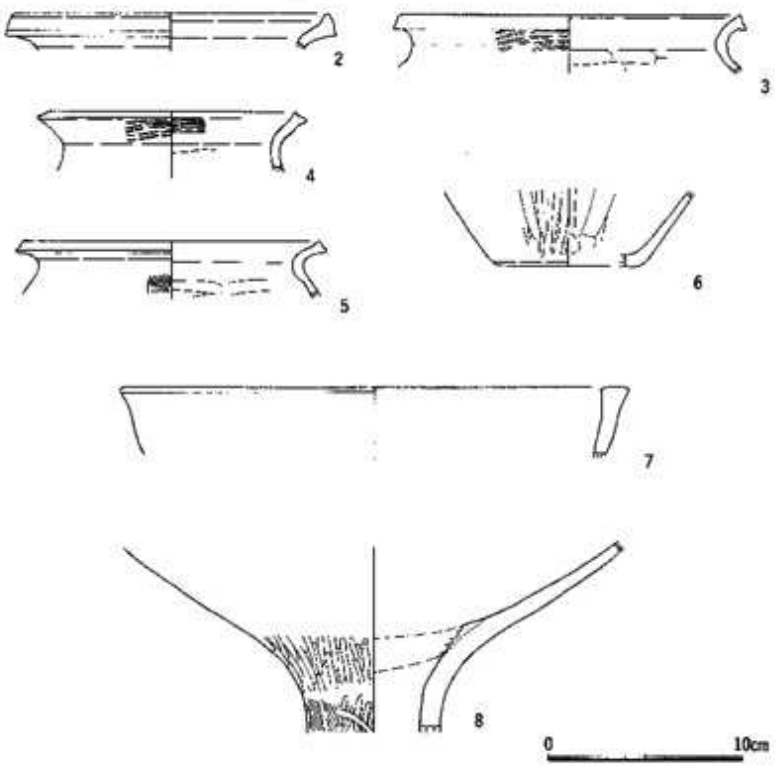
1 オリーブ褐色2.5Y4/4粘質土(下層よりやや粘性強い)
2 オリーブ褐色2.5Y4/4粘質土
3 オリーブ褐色2.5Y4/4粘質土(上層よりやや明るい)
4 黄褐色2.5Y5/3粘性砂質土
5 灰オリーブ色5Y5/3粘質土(マンガン、鉄分含む)
6 オリーブ黄色5Y6/3粘質砂層
7 オリーブ黄色5Y6/4粘質土(9より、マンガン、鉄分多く含む)
8 オリーブ黄色5Y6/4粘質土(9よりややマンガン多い)
9 オリーブ黄色5Y6/4粘質土(マンガン、鉄分多く含む)
10 灰オリーブ色7.5Y6/2粘質土
11 黄灰色2.5Y5/1粘質土(マンガン多く含む)水田Ⅱ期
12 灰色7.5Y5/1粘土(マンガン、鉄分少量含む)
13 灰色7.5Y4/1粘質土(14より、ややマンガンが少ない)
14 灰色7.5Y4/1粘質土(マンガン、鉄分多く含む)
15 灰色7.5Y5/1粘土(マンガン、鉄分少量含む)
16 黄灰色2.5Y4/1粘質土(マンガン多く含む)



1 灰オリーブ色5Y5/3粘質土(マンガン、鉄分含む)
2 オリーブ黄色5Y6/3粘質砂層
3 オリーブ黄色5Y6/4粘質土(4よりもマンガン、鉄分多く含む)
4 オリーブ黄色5Y6/4粘質土(マンガン、鉄分多く含む)
5 灰オリーブ色7.5Y6/2粘質土
6 黄灰色2.5Y5/1粘質土(マンガン多く含む)水田Ⅱ期
7 灰色7.5Y4/1粘質土(マンガン、鉄分多量に含む)
8 灰色7.5Y5/1粘土(マンガン、鉄分少量含む)
9 暗灰黄色2.5Y4/2粘土(マンガン、鉄分少量含む)
10 暗灰黄色2.5Y5/2粘土(マンガン、鉄分多く含む)
11 灰色5Y5/1粘土(マンガン、鉄分多量に含む)
12 灰オリーブ色5Y5/2粘質土(マンガン多く含む)

第26図　SL2001東西堤状遺構断面図

状況を示している。



第27図　SL2001出土遺物実測図

出土遺物（第27図）

池状遺構内からは若干の土器片が出土している。2～5は甕形土器の口縁部である。口縁端部は若干上下に拡張しており、調整は内外面ともヨコナデ、3・4の口縁部外面は水平方向のタタキの痕跡が明瞭に残る。3～5の内面には口縁直下まで横方向へのケズリが施されている。6は壺形土器の低部から体部片で、調整は外面タテヘラミガキ、内面はタテヘラケズリである。7・8は池状遺構内最下層から出土したものである。7は高杯形土器口縁部で外端部は水平方向に若干拡張する。8は高杯形土器の杯部から脚部片で円盤充塡の痕跡が残る。調整は杯部外面タテヘラミガキ、脚部タテハケ後部分的にタテ方向のヘラミガキが施されている。

時期的には形態及び調整などから最下層部出土の高杯形土器および6の壺形土器は弥生時代後期前半代、2～5の甕形土器は弥生後期後半代と考えられる。

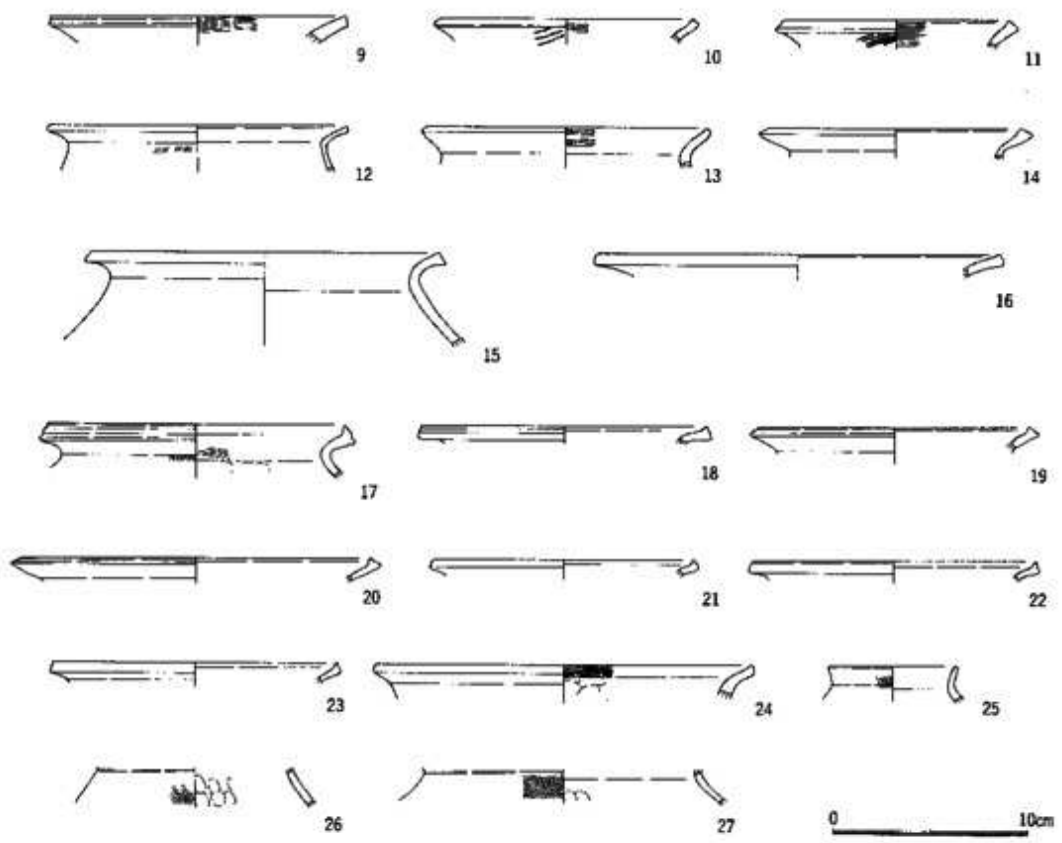
水田出土遺物（第28～31図）

水田遺構出土遺物はⅠ期水田面検出時に伴い出土した遺物で、Ⅱ期水田の遺物も含まれ遺物自体は細片である。9～25は甕形土器口縁部で外上方に短く屈曲するものである。口縁端部の形状は方形状におさめるもの9～13・15・16・24で、10・11は外面にタタキが明瞭に残る。調整は9～11・13は内面にヨコハケが施されている。14・18～23は口縁端部上端を上方につまみ上げるものである。17は口縁端部を上方に拡張し断面三角形状におさめるもので、外端面には弱い凹線がみられる。24は鉢形土器の口縁部と考えられるもので口縁部は緩やかに外上方に屈曲し方形状におさめるものである。調整は内面ヨコハケ、外面ヨコナデであ

る。25は小型の甕口縁部と考えられる。26・27は讃岐産甕の体部片である。調整は外面細かいタテハケ、内面にはユビオサエの痕跡が残る。胎土には雲母が多量に含まれている。この他20の甕口縁部も讃岐産甕と考えられる。時期的には細片のため明確にしがたいが概ね口縁端部を方形状におさめるタイプのものを弥生時代後期後半段階、口縁端部を上方につまみ上げるタイプのものを古墳時代初頭段階と捉えておく。

28～33は鉢形土器体部片である。口縁端部の形状から端部を尖り気味におさめるタイプ28・33と方形状におさめ若干内側に拡張するタイプ29～32に分けられる。調整は外面タテ方向へのヘラケズリ、28以外内面ナナメハケ調整である。34は二重口縁壺形土器と考えられる口縁部片で、口縁端部は方形状におさめる。35は広口壺の頸部片で頸部は直立する。36・37は球形状の体部をもつ広口壺と考えられるもので、内面にはユビオサエの痕跡が残る。38は壺形土器の低部片と考えられる。内面調整はタテヘラケズリである。時期的には弥生時代後期後半から古墳時代初頭の時期が与えられる。

39・40はⅠ期水田面包含層より出土した結晶片岩製の打製石庖丁で、形態的に39は短側辺



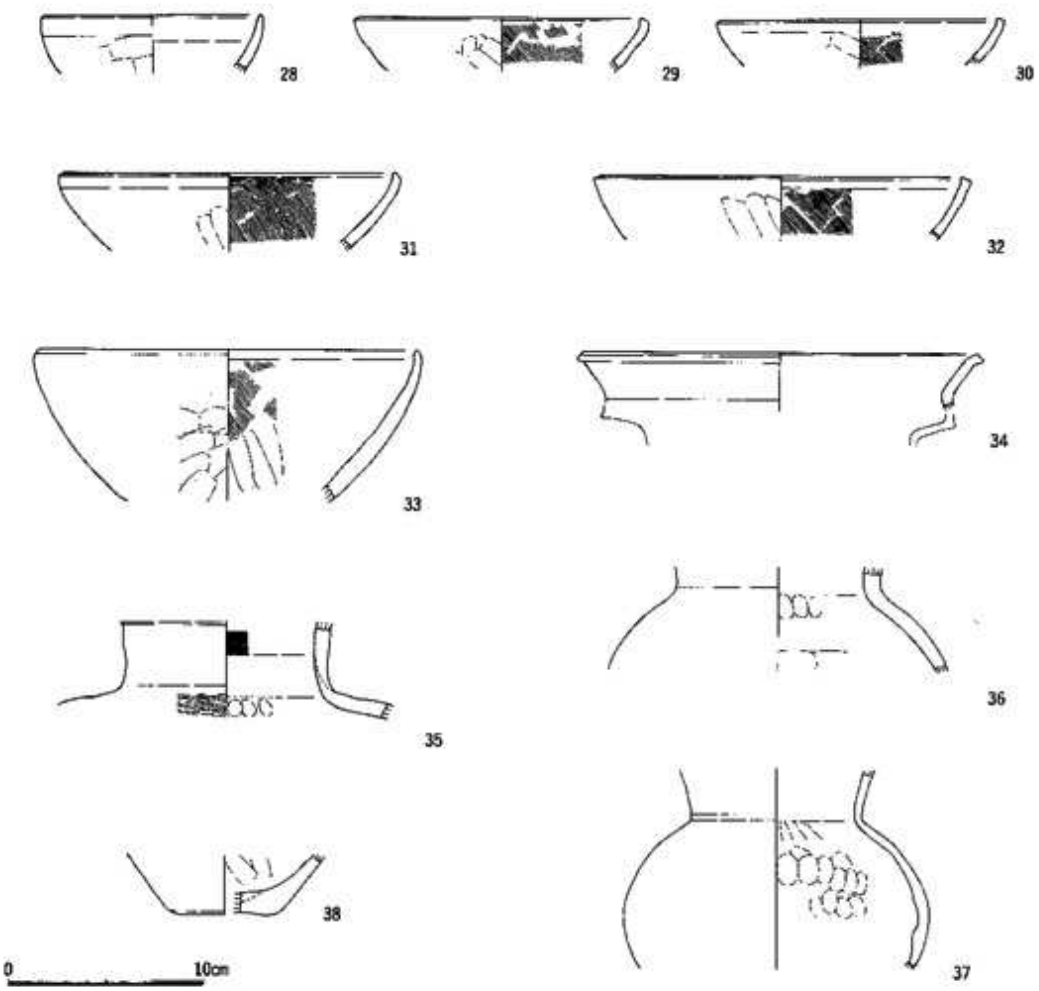
第28図　弥生水田面出土遺物実測図　(1)

中央部に抉りを加えたもので短冊形を呈し、全辺にわたり剝片剝離による調整が加えられている。完形で長さ8.2cm、幅4.5cm、厚さ0.9cmを測る。40は楕円形を呈するもので、刃部側は直線的で細かな調整が加えられている。ほぼ完形品で長さ8.5cm、幅5.2cm、厚さ1.3cmを測る。

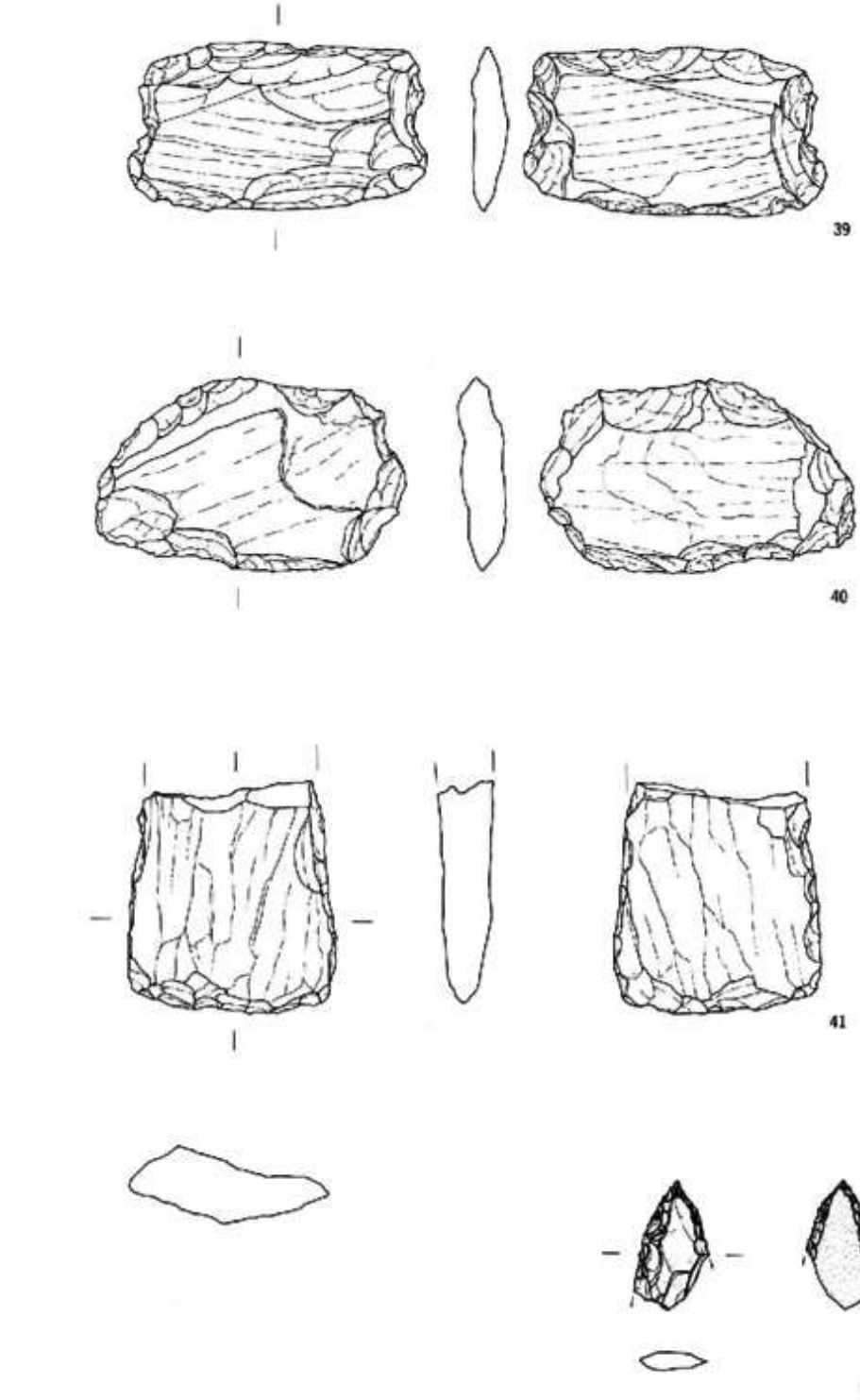
41は14号水田面より出土した緑泥片岩製の石鏃で形態的には短冊形を呈するものと考えられ、刃部および側辺は直線的である。

42はサヌカイト製の石鏃で、基部を一部欠損するが平基無茎鏃と考えられる。両側辺とも細かな剝離調整が加えられ、一面は自然面をもち片面は数回の剝離によって面が整えられている。

43はR－27グリッドの畦畔水口で出土した鉄製の柳葉鏃である。全長6.7cm、鏃身部幅1.45cm、鏃身部厚0.2cmを測る。



第29図　弥生水田面出土遺物実測図　(2)

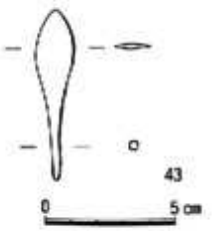


第30図　弥生水田面出土遺物実測図　(3)

噴砂（第32図）

噴出した水田面および土層断面から弥生時代から古墳時代初頭の二時期にわたって、地震に伴い発生する砂層の液状化現象による砂脈の吹き出し及び堆積が認められた。

第１の時期はＩ期水田の時期で耕作により砂脈が削平されたものと考えられ、第８・９層には粘質土中に細砂を多量に含んでいる。また、24号水田から23号水田にかけて南西から北東方向に約20.0mにわたり水田面に亀裂が走り、最大幅0.17m、垂直方向に約0.05m前後の変位が確認された。

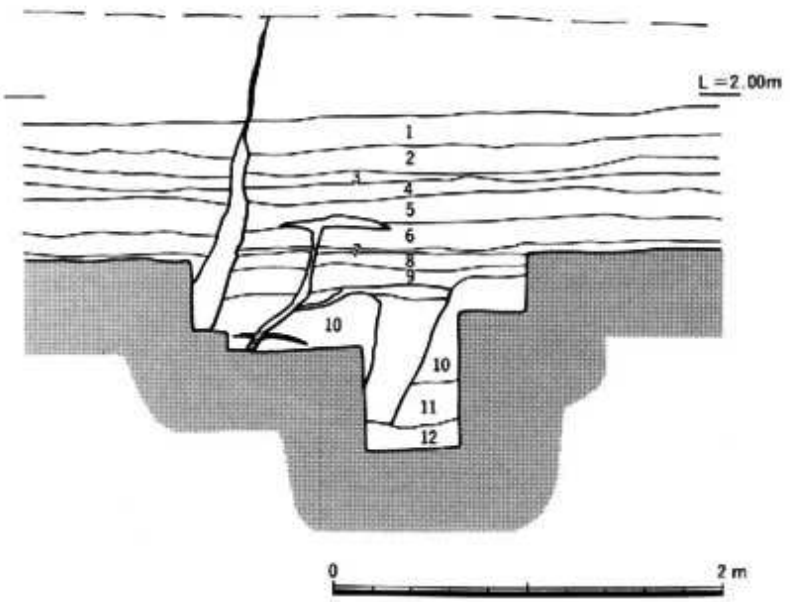


第31図　37号水田北側水口出土鉄製品実測図

第２の時期はII期水田の上層に砂層の堆積および広がりが認められ、この時期に地震の発生した可能性が指摘できる。また第１層より上層部に延びる砂層の吹き出しが認められ、土層から少なくても三期にわたり噴砂が確認される。(1)

注

（１）　当該地域の地震の痕跡については、寒川旭氏の「徳島県の遺跡における地震の痕跡」『徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.２』　1991　徳島県埋蔵文化財センターに詳しい。



1　オリーブ褐色2.5Y4/4粘質土（下層より粘性強い）
2　オリーブ褐色2.5Y4/4粘質土
3　黄褐色2.5Y5/3粘性砂質土
4　灰オリーブ色５Y5/3粘質土（マンガン、鉄分含む）
5　オリーブ黄色５Y6/4粘質土（マンガン、鉄分含む）
6　黄灰色2.5Y5/1粘質土（マンガン多く含む）水田II期
7　灰色7.5Y4/1粘質土（マンガン、鉄分多量に含む）
8　暗灰黄色2.5Y4/2粘質土（細砂を多く含む）
9　黒褐色10YR3/2粘質土（細砂を多く含む）
10　オリーブ灰色GY6/1粘土
11　灰オリーブ色7.5Y6/2粘土（マンガン少量含む）
12　灰オリーブ色7.5Y5/3微砂層（やや粘性あり）

第32図　東西セクション噴砂断面図

(2) 第2遺構面小結

本遺跡において検出した水田遺構について、水田経営ならびに水利について若干のまとめを行う。

検出した水田遺構は大区画水田2枚と小区画水田46枚以上である。小区画水田は、調査区中央部において検出した池状遺構（本来、自然の落ちに手を加え集水目的に改築されたものと考えられる）を中心にその縁辺を取りまく状況で構築されている。また、各区画の広がりは池状遺構から延びる大畦畔を挟んで放射状に広がる状況がみられる。各水田の形状はほぼ方形状を呈する。小区画水田の広さは約10㎡～30㎡前後を測り、畦畔状の高まりも大畦畔が10cm前後、小区画水田の畦畔が2cm前後を測るものである。

各水田への給排水については地形的な高低差からみると、調査区南西側および南側からの給水が考えられ、基本的には各畦畔に形成された水口を利用する方法と「あぜ越し」による給排水が考えられる。また、池状遺構縁辺部で検出した小区画水田は「あぜ越し」あるいは水口を通した最終の水田と考えられ、池状遺構縁辺に巡る小規模な溝は簡単な止水及び集水を目的としたものと考えられる。

池状遺構は縁辺部に広がる第1段階の水田からの排水および集水のためのものと考えられ、池状遺構内に集水された水は一時的な滞水後、第2段階として溝5（SD2005）を通して次の水田へ給水する機能をもつ灌漑水路が考えられる。また、溝5と同様に調査区外に想定される水田に給水する機能を有するものとして流水方向から溝1と溝6および溝4西側が考えられる。

ほぼ同時期の弥生時代後期後半から古墳時代前期に比定されている池状遺構を伴う水田遺跡として淡路・志知川沖田南遺跡[(1)]が挙げられる。ここでは長辺8.8m、短辺0.8m～1.32mの比較的小規模なものであるが機能としては水量調節および保温用と捉えられている。基本的に給排水には溝および水路による灌漑機能が認められるが、その中で一時的な集水および保水を目的とした附属設備を備える形態は弥生時代後期の水田経営の一類型として捉えられる。

本遺跡では打製石庖丁および打製石鏃が出土しており、また当該時期の古植生および稲作の消長について花粉分析および植物珪酸体分析を行った結果、花粉化石については残存率が極めて低くまた稲科植物の同定もできなかったものの植物珪酸体分析においては、Ⅰ期水田・Ⅱ期水田および池状遺構内堆積層からイネ属の植物珪酸体が検出され、この事は稲作の行われていた事を示唆するものとして捉えられる。

注

（1）　『淡路・沖田南遺跡』兵庫県文化協会　1989

3　第1遺構面（古墳時代から中世）

第1遺構面は宮川内谷川および犬伏谷川によって形成された微高地上、標高約3.5m前後に立地する。調査区は微高地上の南端に位置するものと考えられ、西側および南側は現在の犬伏谷川の 旧流路によって分断されている。（本報告書ではSR1001・SR1002として報告）したがって微高地および検出された遺構面は南北方向で南側、東西方向では西側に下降していくものと考えられる。

検出した遺構は第33図で示すとおりで、東西方向に190m、南北方向50mにわたりほぼ全面において分布しており、遺構の広がりは北側及び東側に延びるものと考えられる。また、東側約500m地点においても中世の集落遺跡が確認されており当該微高地上での遺跡の広がりは広範囲に及ぶものと考えられる。

検出した遺構は古墳時代の遺構2基、古代から中世に至る遺構、掘立柱建物50棟・溝状遺構22条・土坑320基・柱穴状遺構・積石塚1基・中世墓棺墓1基・不明遺構10基を数える（第30・40～43図）。

各遺構の形成時期は古墳時代後期から中世に至るもので、時期別の遺構数は全てにわたり明確にしがたいが、掲載した遺構および遺物からみると古墳時代後期2基、第1期（奈良・平安時代）約96基、第II期（鎌倉・室町時代）約126基で、当該微高地上への集落等の進出は奈良時代以降、特に後項で述べる平安時代からが中心で、また中世では溝による方形区画屋敷地の形成以後その遺構数は増大する傾向が伺える。

微高地上で検出した遺構については古墳時代と遺構数の増大する時期を1期（古代）・II期（中世）の各時期に分割して整理した。

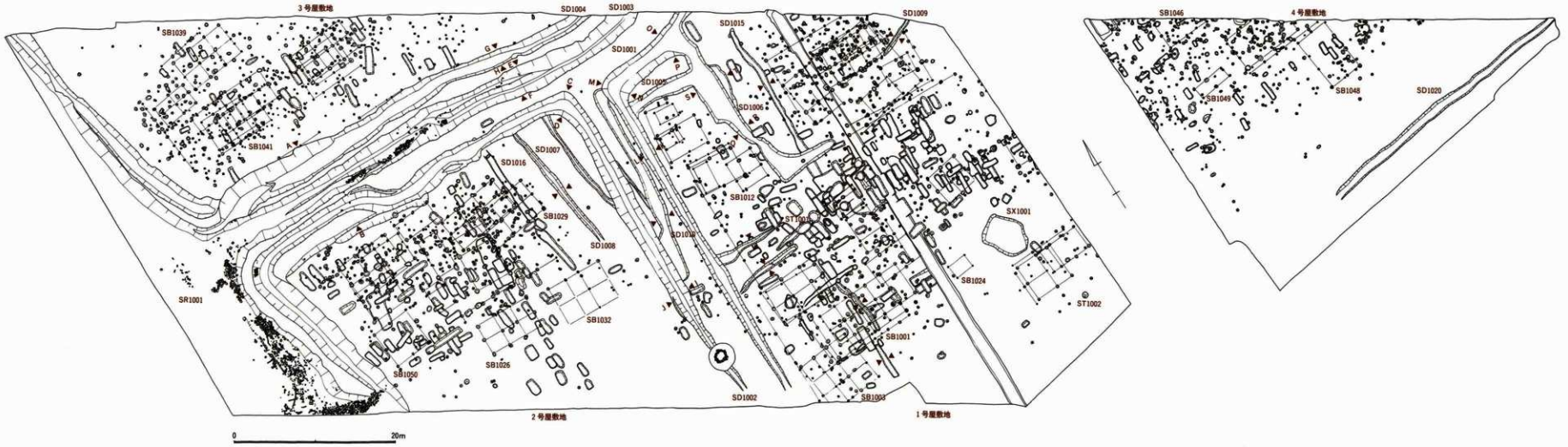
また、自然流路1（SR1001）および自然流路2（SR1002）については各層位ごとでの遺物の取り上げを行った。

(1)　遺構と遺物

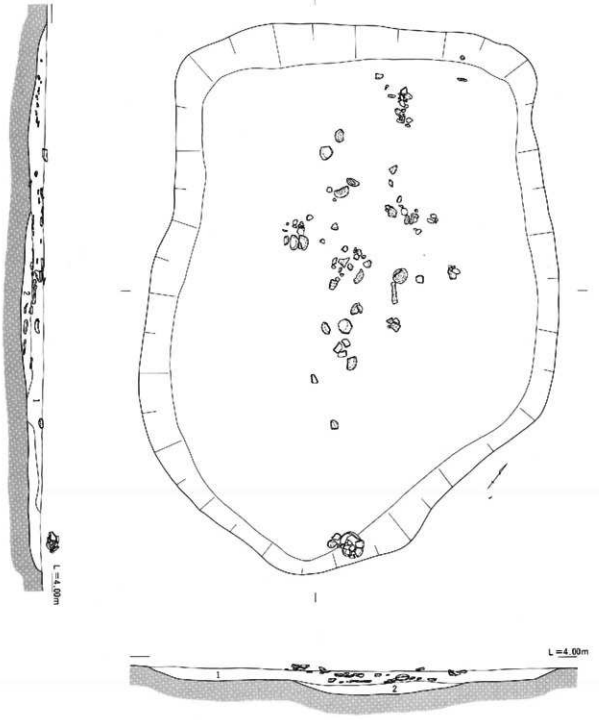
①　微高地上の調査

古墳時代

古墳時代に属する遺構は第1遺構面において検出した。検出遺構は不明遺構としたSX1001とSX1009の2基である。2基の遺構の検出面はSX1001が標高3.9mでSX1009が標高3.2mを測り、約10mで0.70mの傾斜を示し微高地が南に向かって沈降する傾向を示している。



第33図　第1遺構面遺構配置図（▲は断面位置）

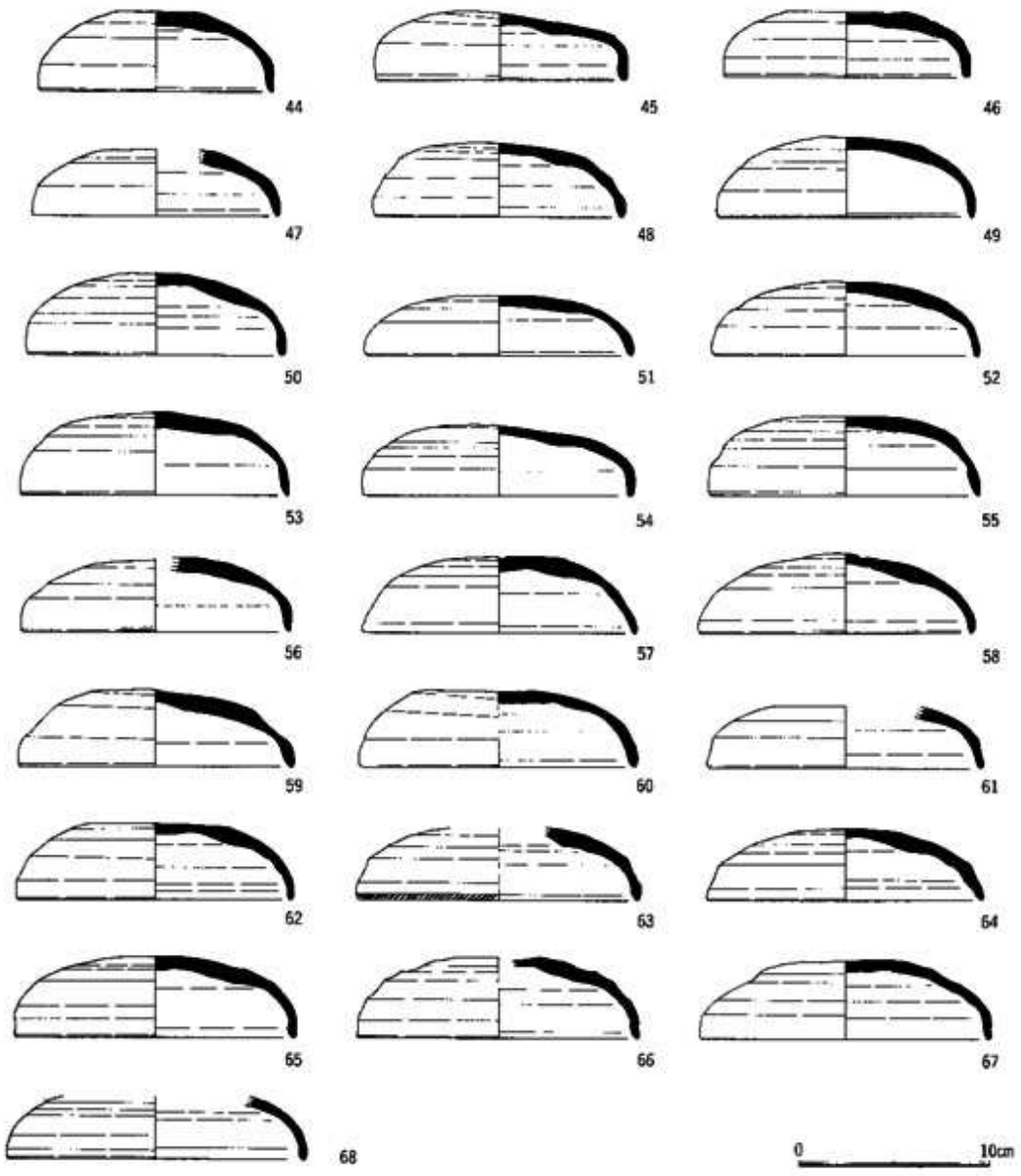


第34図　SX1001実測図

検出した遺構は土坑状の浅い落ち込み２基のみで、竪穴住居および柱穴等は検出されず居住地からやや離れた地点に形成されたものと考えられる。

不明遺構１（SX1001）（第34図）

１号屋敷地、調査区東南部（S－22グリッド）において検出した不整形な浅い落ち込みを呈する土坑状の遺構である。遺構の規模は長軸5.86m、短軸4.40mで深さは最深部で0.25m



第35図　SX1001出土遺物実測図（1）

を測り、断面形状では中央部がさらに落ち込む。遺構内埋土は2層に分層され、炭化物を多く含んだ褐色砂質土であるが、遺構内においては焼土は検出されなかった。

出土遺物は遺構内の広範囲で確認され、層位的にも上下2層より出土し、特に第1層においては遺構検出面より上部に盛り上げられた状況を呈してた。出土状況から一時期に一括して廃棄された事は確実で、完形遺物が極めて多い事および鉄鉾が伴う事、また炭化物を多量に含む事から何らかの祭祀に関わる遺構として捉えられる。

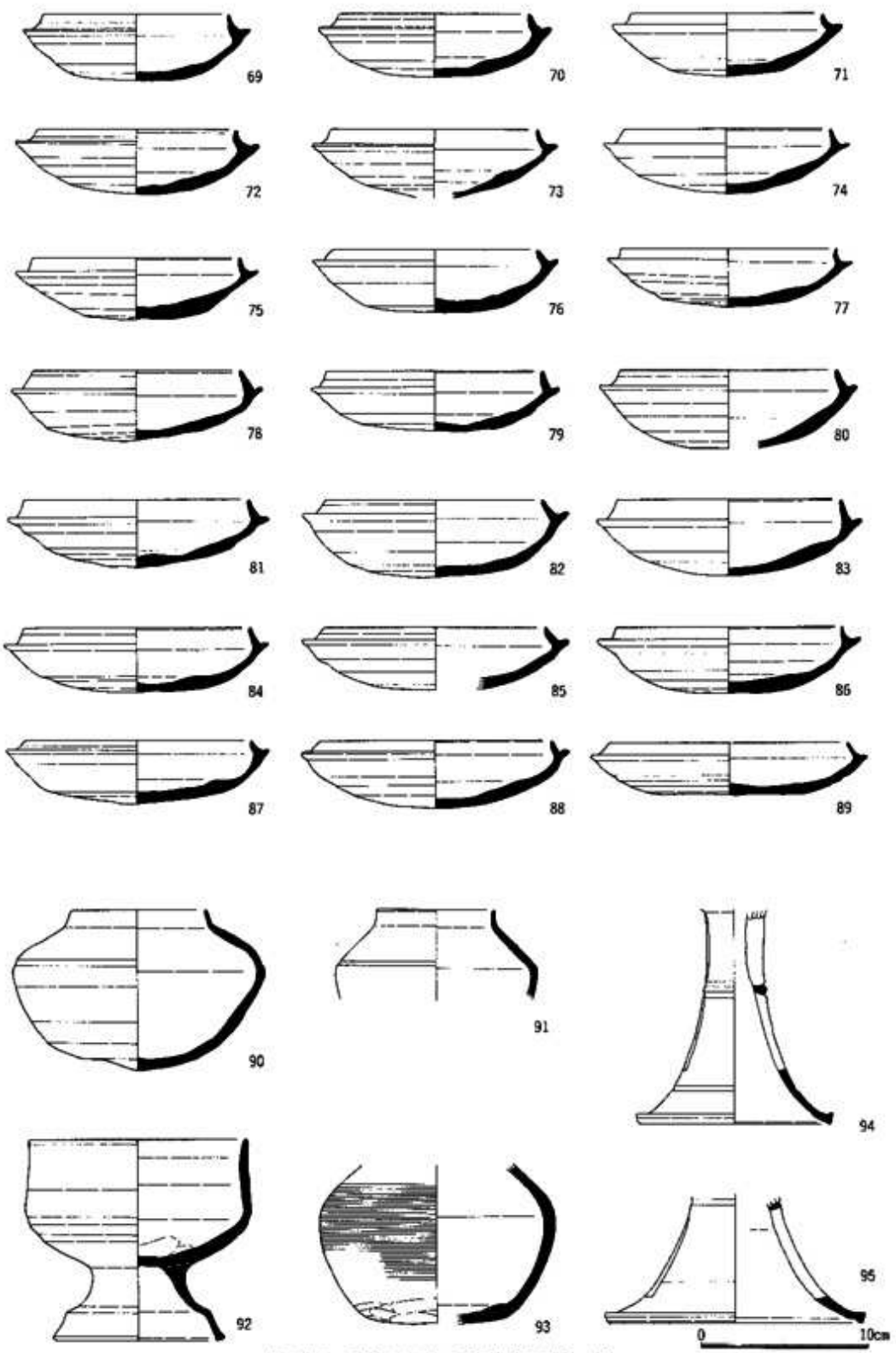
出土遺物（第35～38図）

遺構内からは多量の須恵器および土師器が出土している。44～68は須恵器杯蓋である。形態及び調整は平坦な天井部を有するものとやや丸く成形するものが見られ、口縁部の形状にも天井部から強く屈曲するものと、天井部から丸みをもって端部に至るものが見られる。口縁端部は丸くおさめている。

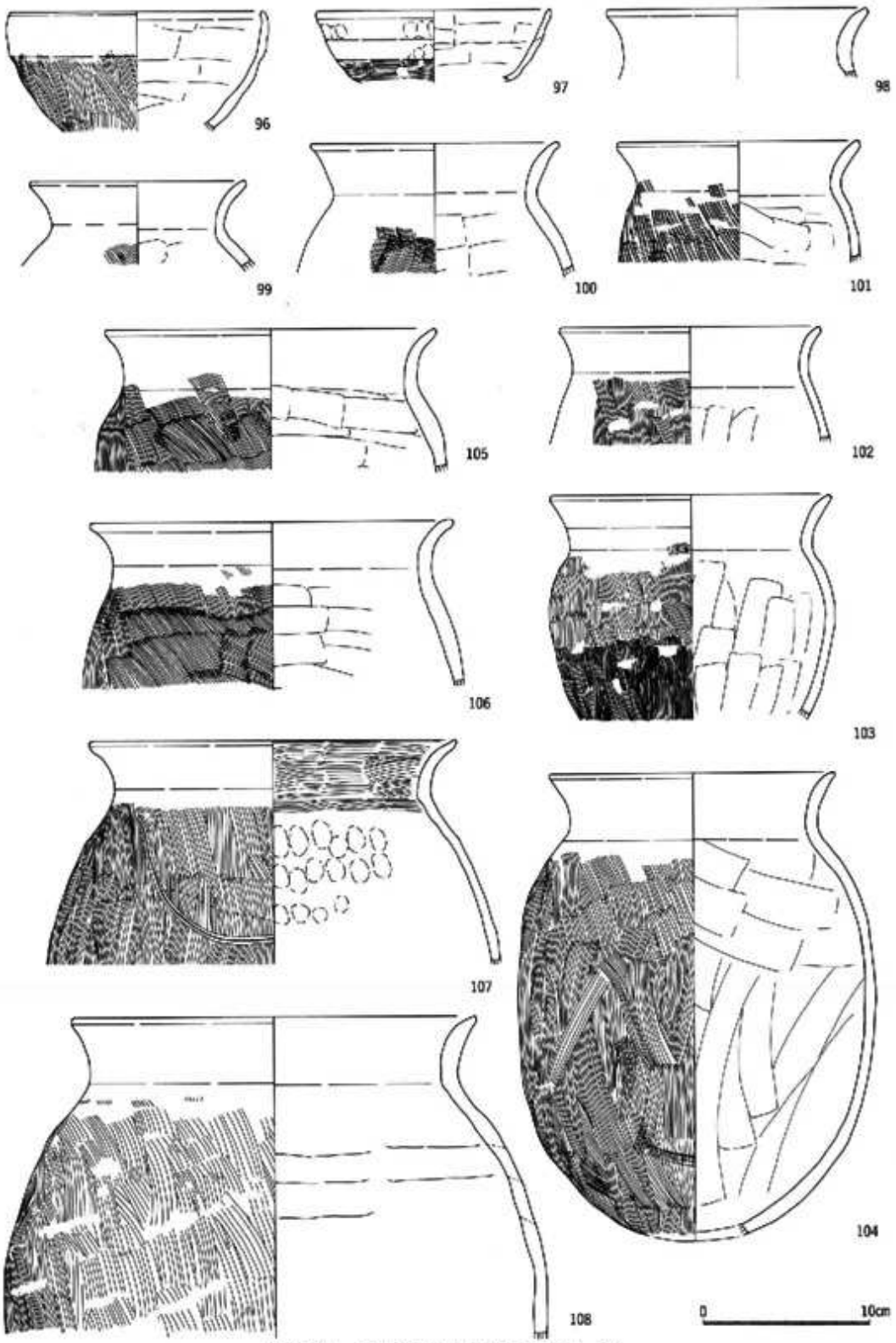
調整は内面回転ナデ調整、外面天井部の約1/3が回転ヘラケズリ、2/3が回転ヨコナデ調整である。回転ヘラケズリの方向からロクロ回転の方向は60以外全て時計回りである。口縁部径は12cm～14cmを測るもの44～50・52、口径14cm～15cmを測るもの51・53～66、15cm～16cm内に収まるもの67・68に分類される。焼成は堅致であり、天井部に「‖」状のヘラ記号が施されたもの64、「|」のヘラ記号をもつもの48・51も若干見られる。

68～89は須恵器の杯身である。形態的には平底気味の底部をもつもの71・75もみられるが概ね丸底をもつ体部のもので、受部が短く水平方向に延び、立ち上がりは内上方に立ち上がるものである。口径は11cm～13cmを測るもの69～78、13cm～14cmを測るもの79～88、14cm～15cmを測るもの89に分けられる。調整は内面および体部外面の2/3が回転ヨコナデ、また体部外面の回転ヘラケズリは底部より1/3まで施され、ケズリの方向からロクロの回転方向は70・77・88以外は全て時計回りである。また、72・73の体部外面には一対に「‖‖」状のヘラ記号が施されている。

90・91は須恵器短頸壺である。90はほぼ完形で体部は中位上半で内側に屈曲し、一条の沈線を巡らす。口縁部は短く立ち上がり丸くおさめる。調整は内面回転ヨコナデ、外面体部下半1/3は時計回りの回転ヘラケズリ、上半回転ヨコナデである。91は体部上半部のみの破片で体部の屈曲部に沈線が巡るものである。92は台付き椀である。丸底気味の底部から直立する体部を有するもので、ハの字状に開く脚部は中位部で強く屈曲する。端部は方形状におさめ、若干外方に張り出す。調整は内外面回転ヨコナデである。93は壺形土器体部片で、調整は底部外面は静止ヘラケズリ、体部上半部はカキメ調整である。94・95は高杯脚部片で上下に2段の透しを有するものである。94は脚部中位に2条の沈線が巡り、脚端部は上下に拡張する。透しは4方向である。95は脚部中位に1～2条の沈線が巡り、脚端部は下方に拡張する。



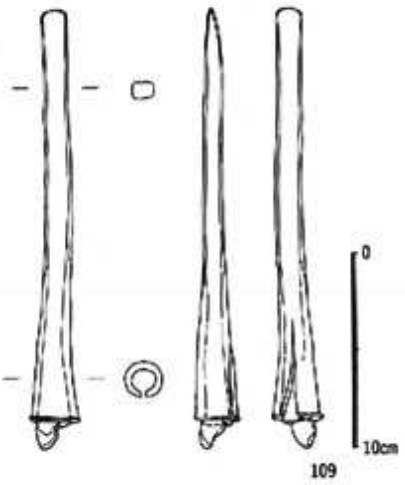
第36図　SX1001出土遺物実測図　(2)



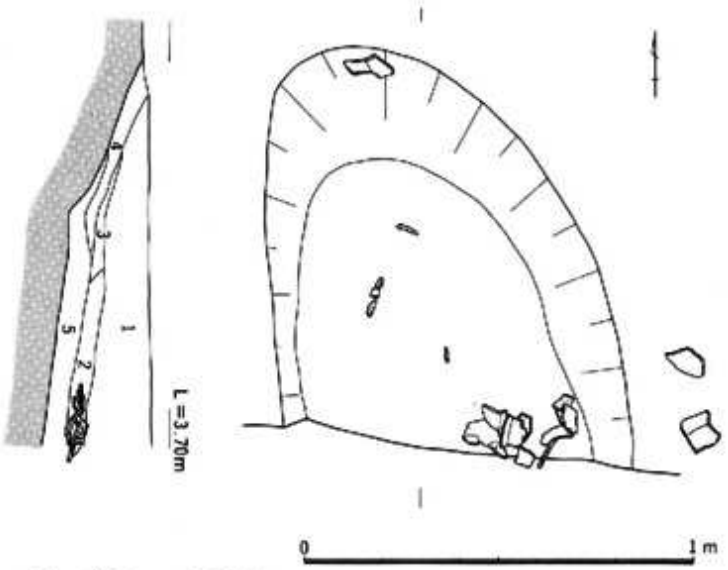
第37図　SX1001出土遺物実測図　(3)

96・97は土師器の鉢形土器である。96は内彎気味の体部をもつもので、口縁端部は丸くおさめる。調整は体部外面上半部はヨコナデ、下半部はナナメ方向のハケ調整である。内面はヨコ方向の板ナデ調整である。97はやや浅めの鉢形土器で平底気味の底部になるものと考えられる。調整は体部下半ヨコハケ、上半ヨコナデ調整で部分的にユビオサエの痕跡が残る。内面はヨコナデ調整である。98～108は土師器甕形土器である。形態的には長胴型の体部をもつもので、口縁部は緩やかに外上方に立ち上がり端部は丸くおさめるタイプのものである。口径から13cm前後～15cmの小型のもの99・101と15cm～17cm前後の中型のもの98・100・102～104と19cm～24cm前後の大型のもの105～108の3タイプに分けられる。調整は基本的には体部外面タテ方向のハケ、内面はタテ方向およびヨコ方向のヘラケズリで一部ユビオサエの痕跡をとどめる107もみられる。口縁部はヨコナデ調整であるが107のみはヨコハケ調整である。胎土には石英粒・砂粒を多く含んでいる。

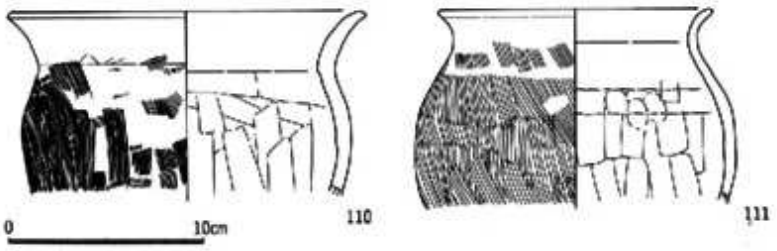
109は完形の鉄製の鉾である。出土時には須恵器杯身片が錆着していた。全長21.0cm、幅は切先部1.2cm・基部2.5cmを測る。形態的に



第38図　SX1001出土鉄製品実測図



1　オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土
2　オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土(やや粘性あり)
3　褐色10YR4/4砂質土(やや粘性あり、焼土を多量に含む)
4　オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土(やや粘性あり)
5　褐色7.5YR4/3粘質土(焼土)



第39図　SX1009実測図・出土遺物実測図

は細身で切先部はノミ状で、基部は袋状を呈する。また基部には一部木質が残存している。

遺構の時期については、出土した須恵器から田辺昭三編年[1]のTK43段階のものと考えられる。

不明遺構9（SX1009）（第39図）

1号屋敷地、調査区南端（U－17グリッド）において検出した土坑状の落ち込みで、遺構の底面は南側に傾斜しており、南端は調査区外に延びるものと考えられる。遺構内の土層の堆積状況は傾斜に沿ってレンズ状に堆積し、第3・5層には焼土を多量に含んでおり、若干の骨片も含まれていた。また出土した遺物は第2層に集中している。

検出面は古代・中世遺構の地山面とする砂質土の堆積層中より検出されたが、明確な遺構面の広がりは確認されなかった。

出土遺物

110・111は土師器甕である。体部はやや球形状を呈するものと考えられ、口縁部は外反する。形態的には110が体部に対して口縁部が大きく外反し、111は口縁部が短く外反するものである。調整は体部外面タテハケ、体部内面タテヘラケズリである。

土師器甕口縁部の形状等から時期的には古墳時代後期、SX1001と同時期が考えられるが本遺構内から須恵器は出土していない。

第Ⅰ期（奈良時代から平安時代）

掘立柱建物

第1遺構面からは中世を含め50棟の掘立柱建物を検出した。時期的には柱穴に伴う遺物はごく僅かであり、全てにわたり時期が確定できたものではない。その中で遺物及び溝等の関連性から確実に時期決定できる建物については、その建物のもつ方向性を時期的な特性と捉え、他の掘立柱建物はその比較の上で建物の時期分類を試みた。

第Ⅰ期については二時期に分類し、Ⅰ－①期は17棟、Ⅰ－②期は6棟を整理した。

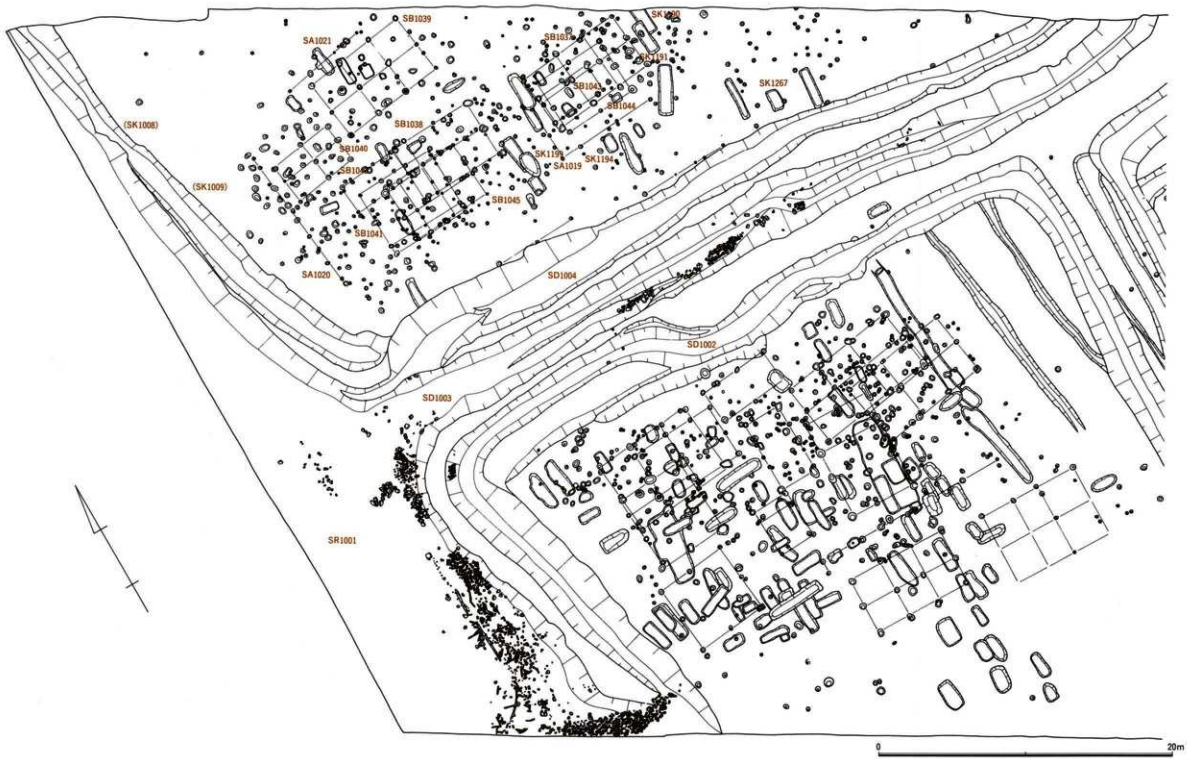
Ⅰ－①期

掘立柱建物2（SB1002）（第44図）

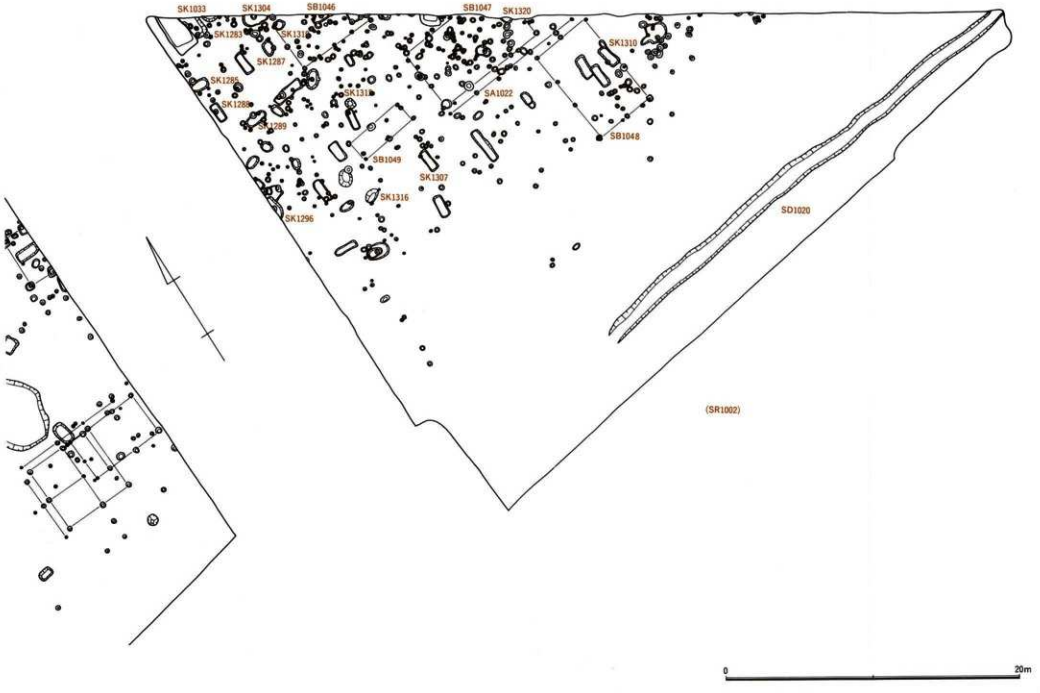
1号屋敷地、調査区南西隅において検出した掘立柱建物で掘立柱建物4（SB1004）と切り

第40図　1号屋敷地遺構配置図

第41図　2号屋敷地遺構配置図

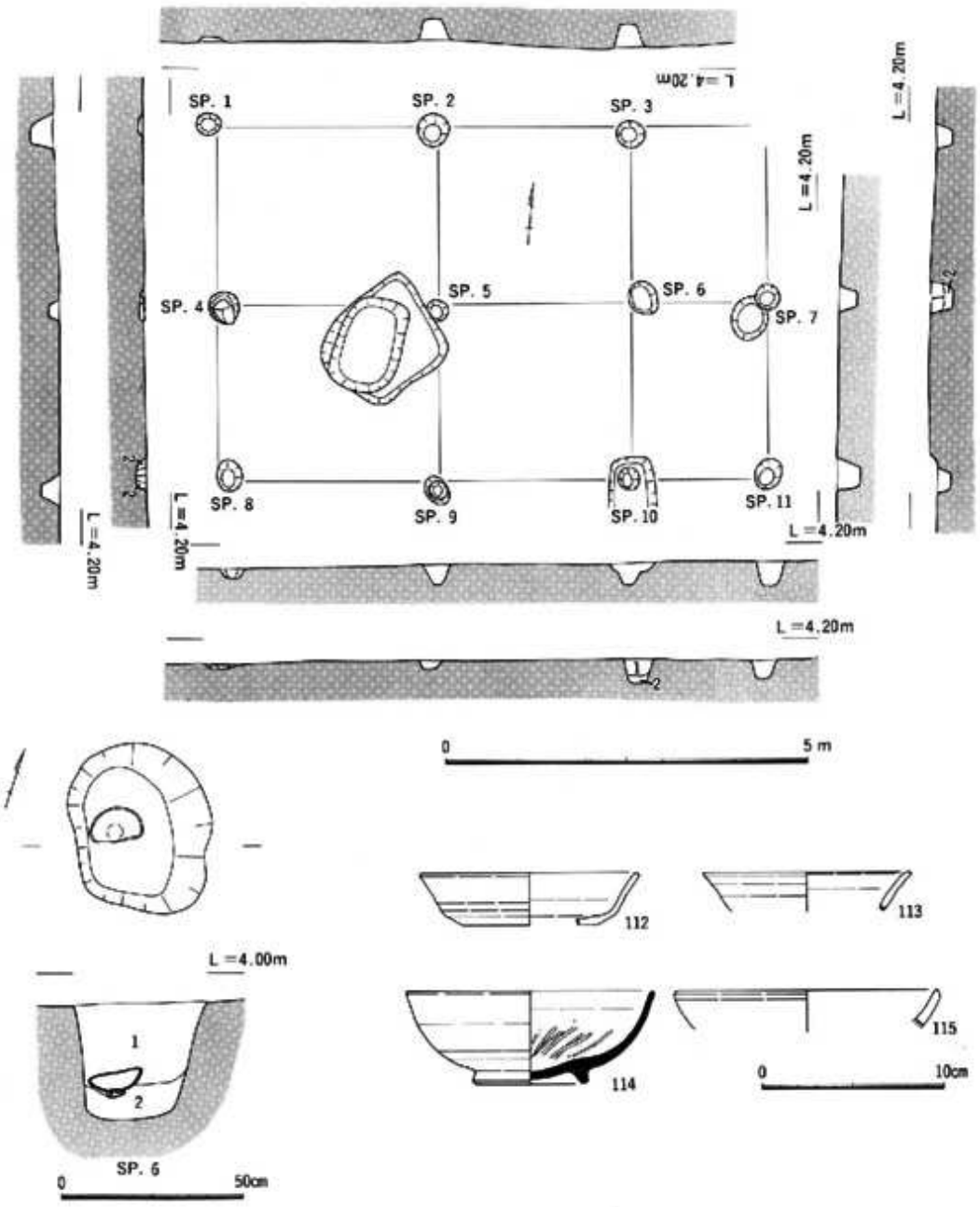


第42図　3号屋敷地遺構配置図

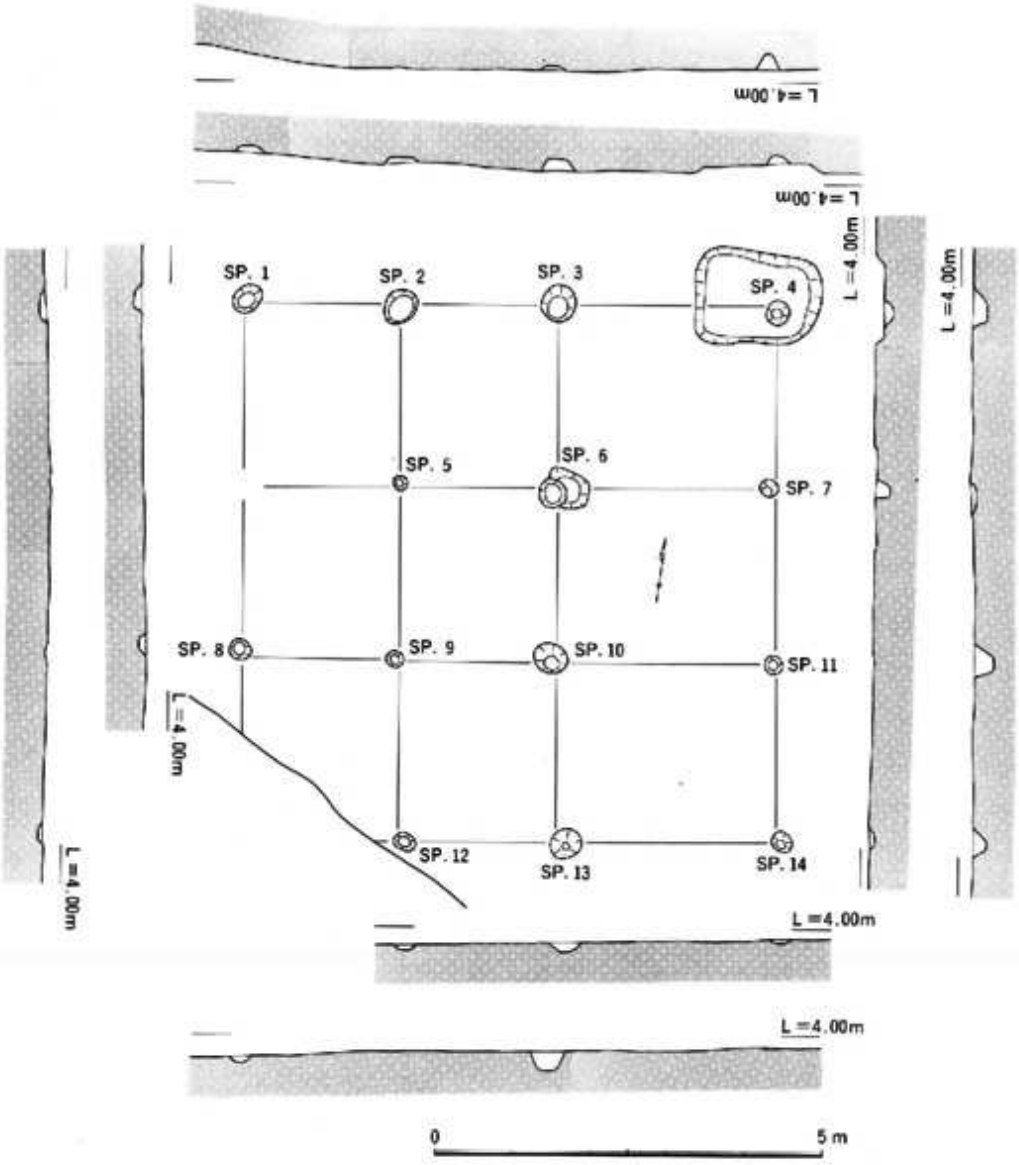


第43図　4号屋敷地遺構配置図

合い関係にある。建物の規模は桁行３間（7.38m）×梁間２間（4.88m）、床面積37.17㎡を測る総柱建物と考えられる。柱間は桁行1.95m～3.10m・梁間2.30m～2.58mを測り各柱間でばらつきがみられる。また、東側の桁行柱間が狭く廂として捉えることもできる。主軸方向はN84°Eを測る。柱穴の形状は全て円形状を呈するが北東隅の柱穴は土坑（SK1078・1079）



第44図　SB1002実測図・柱穴出土遺物実測図

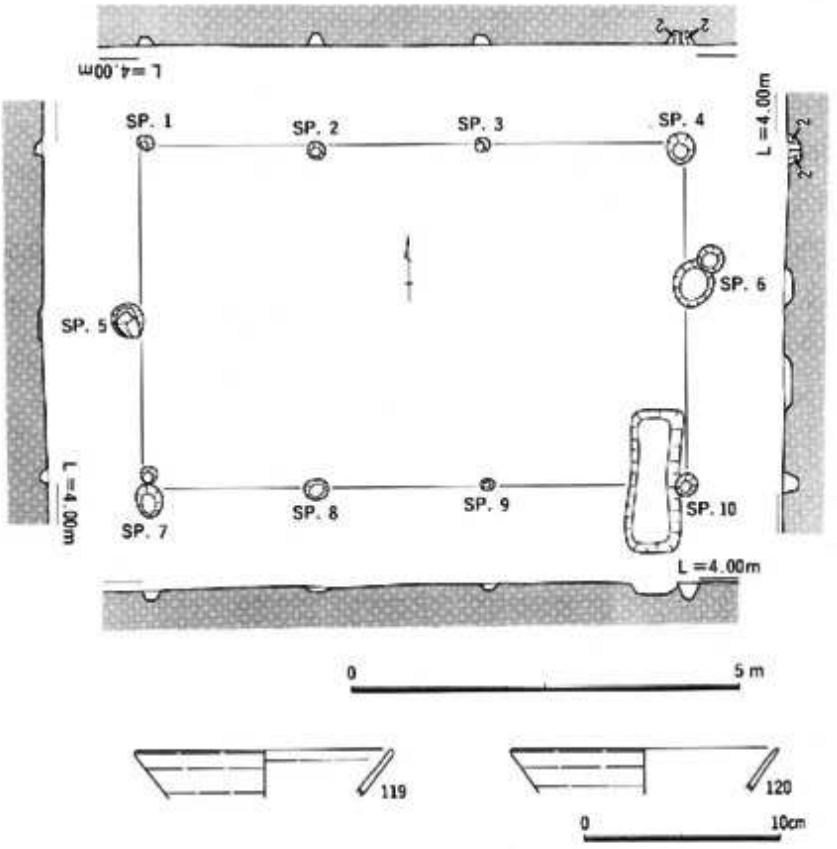


第45図　SB1003実測図・柱穴出土遺物実測図

によって切られ確認できない。埋土は褐色系統の砂質土で、SP 4 には根石と思われる20cm大の礫を伴い、またSP 3 ・ 5 ・11には炭化物が小量含まれている。

出土遺物

柱穴からは若干の土器片が出土している。112は土師器杯片で、SP 5 からの出土である。形態的には口縁部が直線的に外上方へ立ち上がるものである。113・114・115はSP 6 からの出土で113は土師器杯で口縁部が外反するもの、115は口縁部がやや内彎気味に立ち上がる土師器杯である。114は須恵器の椀であり、方形状のしっかりした高台を貼り付けている。体部外面下半には回転ヘラ削りの痕跡をとどめ、上半は回転ヨコナデ調整である。内面はヘラ状工具による横方向へのナデの痕跡が認められ、一見縦方向へのミガキ風にも見える。体部外面には焼成時に生じた火襷の痕跡ををとどめる。焼成及び内面調整から香川県西村窯産の可能性が考えられるが、体部外面の焼成時に生じた火襷については西村産には見られないなどのことから産地については比定できない。時期的には形態などから12世紀代後半頃と捉えておく[2]。



第46図　SB1004実測図・柱穴出土遺物実測図

掘立柱建物３（SB1003）

（第45図）

１号屋敷地、調査区南西隅において検出した掘立柱建物で北東隅が掘立柱建物１（SB1001）と切り合い関係にあり、また南西隅の柱穴は調査区外に延びる。建物の規模は桁行３間(6.86m)×梁間３間(6.80m)、床面積は推定で47㎡前後を測る総柱建物と考えられる。柱間は桁行2.23m～2.35m・梁間1.95m～2.85mを測り、各柱間にばらつきが見られる。また桁行東側１間が約半間分長くなっている。主軸方向はＮ７°Ｗを測る。

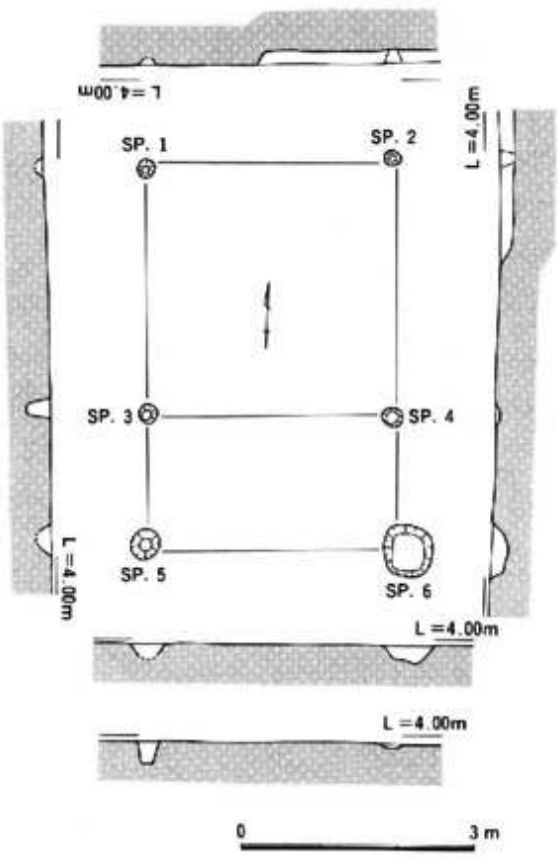
出土遺物

SP３からは116・117が出土している。116は土師器杯で、口縁部はやや内彎気味に立ち上がり短部は若干外反する。内外面ナデ調整である。117は直線的に立ち上がる土師器口縁部で椀形態をとるものと考えられる。118は口径9.6cmを測る内面黒色を呈する黒色土器の小型の甕である。体部外面ヨコナデ、体部内面ヨコヘラミガキ調整である。

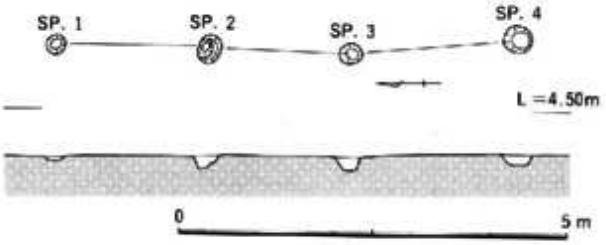
掘立柱建物４（SB1004）

（第46図）

１号屋敷地、南西側において検出した東西棟の掘立柱建物で、掘

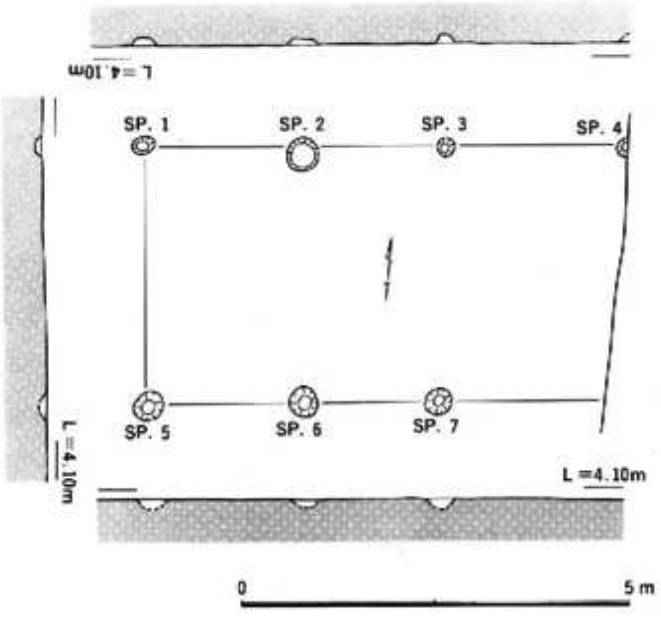


第47図　SB1005実測図



第48図　SA1004実測図

立柱建物2（SB1002）と切り合い関係にある。建物の規模は桁行3間(6.90m)×梁間2間(4.35m)、床面積は30.8㎡を測る。柱間は桁行2.20m～2.26m・梁間2.00m～2.30mを測り東側桁行1間幅が若干長い。柱穴内の埋土はオリーブ褐色砂質土が主で、SP 2・6・7・8には炭化物を少量含んでいる。主軸方向はN89°Wを測る。



第49図　SB1006実測図

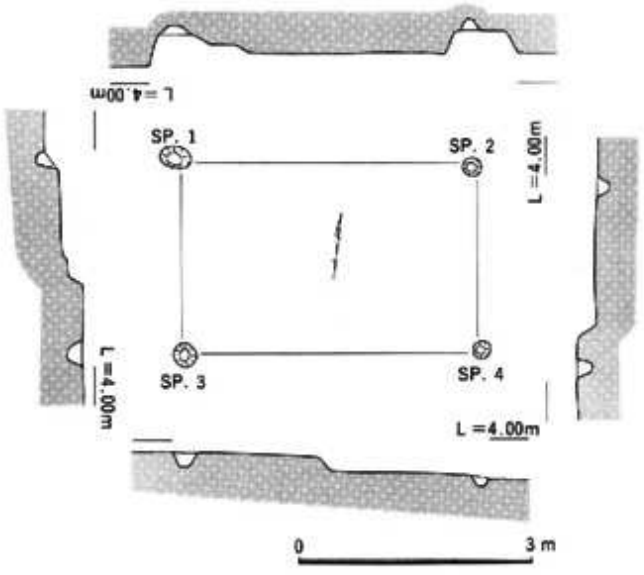
出土遺物

柱穴からは若干の遺物が出土している。119はSP 4からの出土で、土師器杯口縁部である。調整は内外面ヨコナデである。120はSP 7から出土した土師器杯口縁部で、内外面ともヨコナデ調整である。この他SP 3・4からは製塩土器片が、SP 6からは赤色塗彩された土師器杯片、SP 7からは須恵器壺片が出土している。

掘立柱建物5（SB1005）

（第47図）

1号竪穴敷地ほぼ中央部において検出した掘立柱建物である。建物の規模は桁行



第50図　SB1007実測図

1間(3.18m)×梁間1間(3.15m)を測り、南側に半間の廂あるいは土間を付設している。床面積は10.24㎡を測る。柱穴内の埋土は褐色系統の砂質土である。主軸方向はN3°Wを測る。

出土遺物は図示できるものはないが、SP3より黒色土器A類椀片が出土している。建物の時期は10世紀代か。

柵列4 (SA1004) (第48図)

掘立柱建物5 (SB1005)に伴うと考えられる柵列遺構で、建物の東側にほぼ平行している。柵列の規模は3間 (6.15m) を測り、主軸方向はほぼ南北を示す。

出土遺物はSP4より土師器杯片が出土しているのみである。

掘立柱建物6 (SB1006) (第49図)

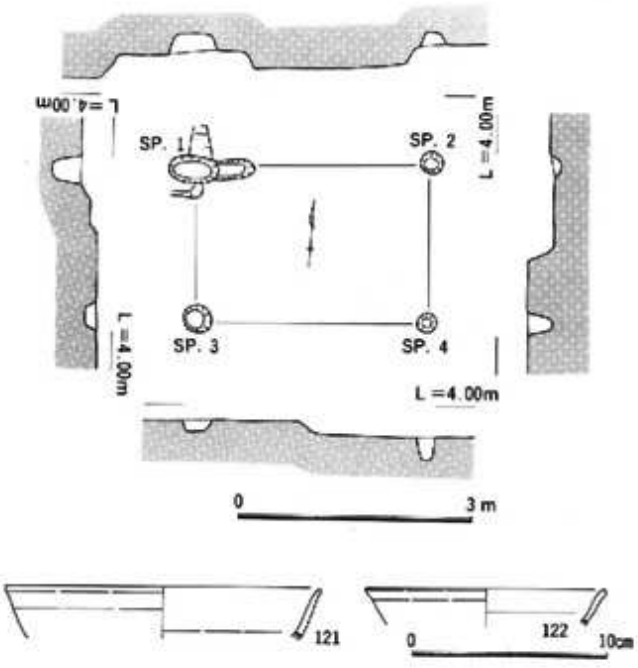
1号屋敷地中央南側において検出した掘立柱建物で、南西隅は掘立柱建物1 (SB1001)と、東側は柵列4 (SA1004)と切り合っている。また、南東隅柱穴は試掘坑によって削平されている。建物の規模は桁行3間 (6.28m)×梁間1間 (3.35m)、床面積は推定で20㎡前後を測る。柱間は桁行1.88m～2.40mを測り中央の柱間がやや狭く、梁間は3.28mを測る。柱穴内の埋土は黄褐色系統の砂質土で、柱穴に伴う遺物は出土していない。主軸方向はN85°Eを測る。

掘立柱建物7 (SB1007)

(第50図)

1号屋敷地中央部において検出した掘立柱建物で掘立柱建物5 (SB1005)の北側に位置する。建物の規模は桁行1間(3.88m)×梁間1間 (2.60m) を測る東西に長い建物で、床面積は9.38mをもつ。主軸方向はN82.5°Eを測る。

柱穴の形状は全て円形状で、出土遺物はSP3よりも赤色塗彩された土師器杯片・土師器甕の口縁部が出土している。建物の時期は出土遺物より9世紀から10世紀代と考えられる。



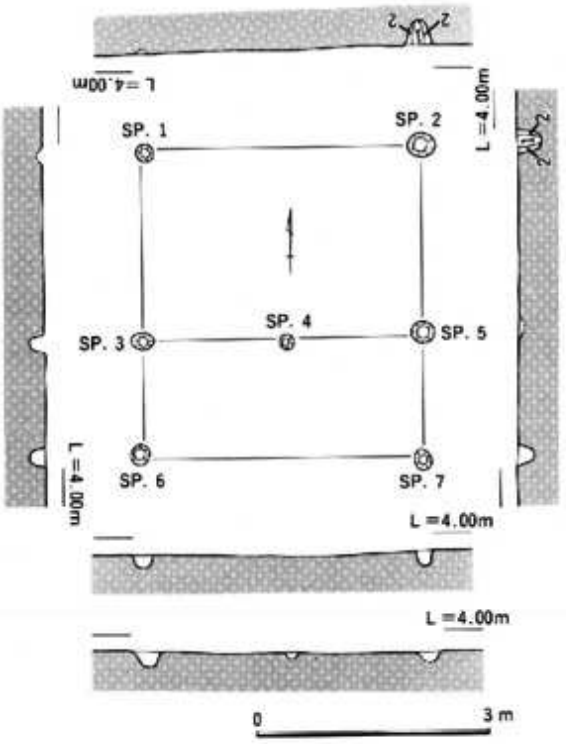
第51図　SB1008実測図・柱穴出土遺物実測図

掘立柱建物8（SB1008）

（第51図）

1号屋敷地中央部において検出した掘立柱建物で掘立柱建物7（SB1007）と切り合い、掘立柱建物（SB1005）の北側にほぼ平行している。建物の規模は桁行1間（3.10m）×梁間1間（2.05m）を測り、床面積は6.15㎡を測る小規模な建物である。主軸方向はN88°Eを測る。

柱穴内からの出土遺物はSP1から土師器杯片・須恵器甕片が出土している。121・122は土師器杯口縁部で、121は口径16.4cm前後の比較的大型の杯で 端部は尖り気味におさめる。調整は内外面ヨコナデで、赤色塗彩されている。

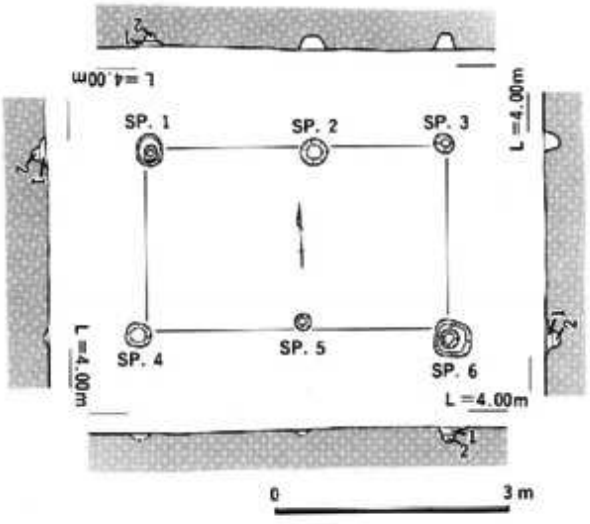


第52図　SB1012実測図

掘立柱建物12（SB1012）

（第52図）

1号屋敷地中央西側において検出した掘立柱建物で掘立柱建物9（SB1009）と一部切り合う。建物の規模は桁行1間（3.60m）×梁間（2.40m）を測り、南側桁行中央部に柱穴を伴うことから南側に1間（1.60m）分の土間あるいは廂が付設されたものと考えられる。床面積は土間と考えられる部分を含め8.97㎡を測る小規模なものである。主



第53図　SB1019実測図

軸方向はN 1 °Wを測る。柱穴内の埋土はオリーブ褐色系統の砂質土で、遺物は出土していない。

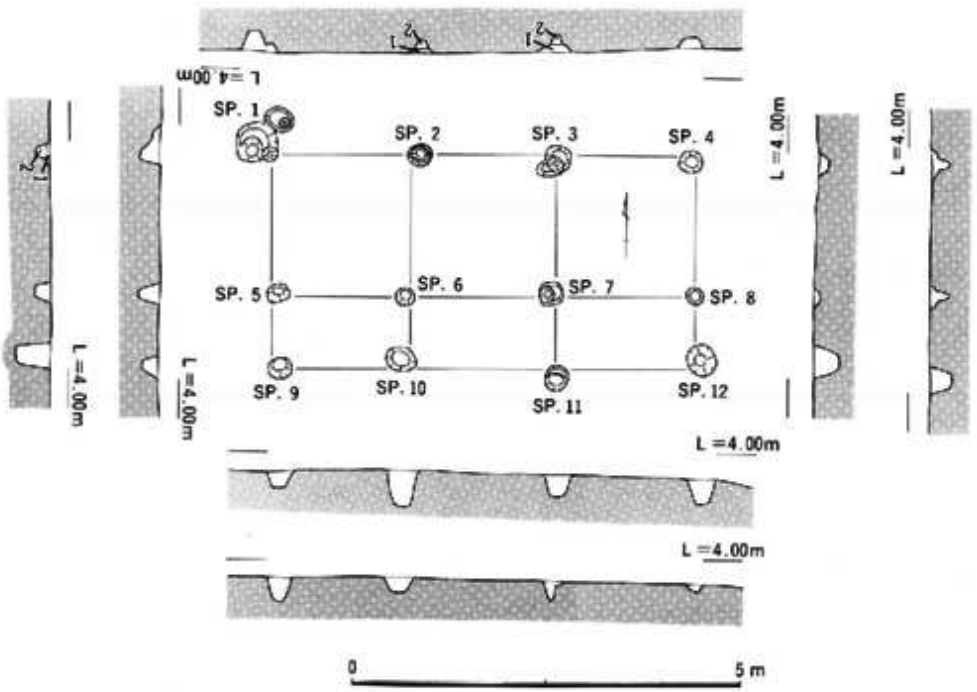
掘立柱建物19（SB1019）（第53図）

1号屋敷地、調査区北東側において検出した掘立柱建物で掘立柱建物16（SB1016）と一部切り合っている。また、掘立柱建物20（SB1020）と平行しており、同時期の可能性が考えられる。建物の規模は桁行2間（4.0m）×梁間1間（2.50m）を測る東西棟である。床面積は8.97㎡を測る。主軸方向はN88°Wを測る。柱穴は比較的浅いが、SP 1・6は2段に掘り込まれており深さは約0.20mを測る。埋土は2層に分層される。

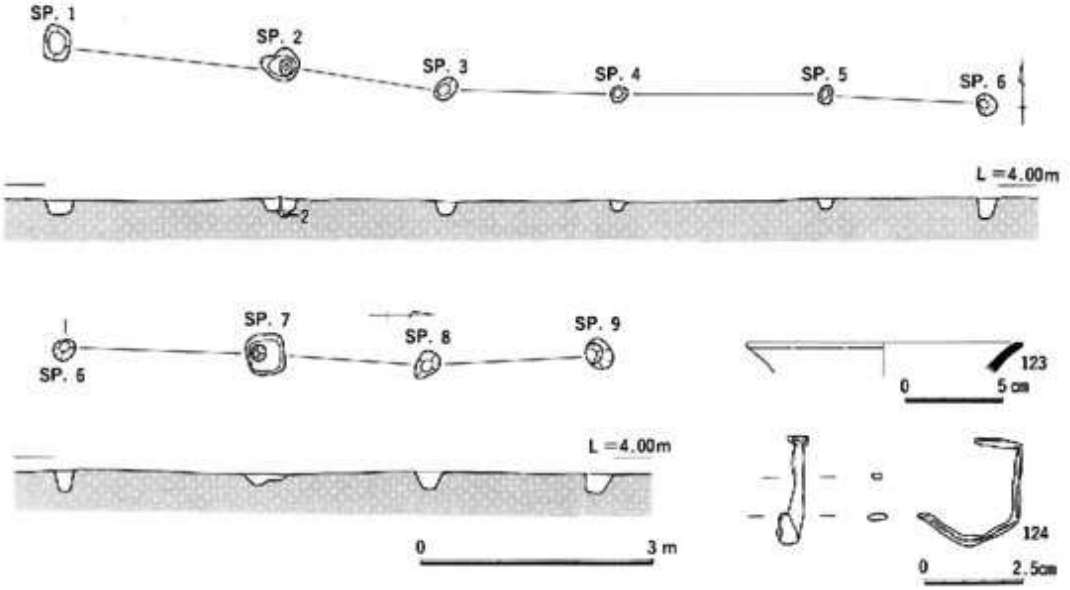
出土遺物はSP 6から須恵器甕片・土師器甕片が出土している。

掘立柱建物20（SB1020）（第54図）

1号屋敷地、調査区北東隅において検出した掘立柱建物で、掘立柱建物15・17（SB1015・1017）と切り合っている。建物の規模は桁行3間（5.43m）×梁間1間（1.75m）を測る東西棟で、南側に半間分の廂を伴う。床面積は9.81㎡を測る。主軸方向はほぼ東西を示す。

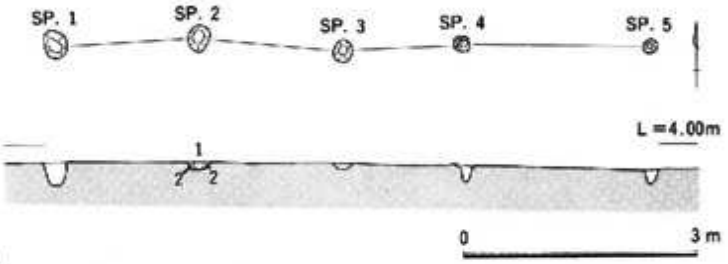


第54図　SB1020実測図



第55図　SA1009実測図・柱穴出土遺物実測図

出土遺物はSP 2から土師器杯片、SP 6から土師器杯・甕片、SP11から土師器杯・製塩土器片が出土している。



第56図　SA1011実測図

柵列 9 (SA1009) (第55図)

掘立柱建物19・20 (SB1019・1020) に伴うものと考えられる柵列遺構で、建物の2棟の東側と南側をL字状に囲う。柵列の規模は東側3間分で約7.0m、南側5間分で約12.0mを測る。

出土遺物

123・124はSP 6からの出土で、123は京都系の緑釉陶器で皿の口縁部と考えられる。釉の発色は薄い緑色である。124は銅製の飾り金具と考えられるものである。

その他、SP 2・5・8からは土師器杯片、SP 4からは製塩土器片が出土している。

柵列11 (SA1011) (第56図)

掘立柱建物20 (SB1020) に伴う柵列遺構で、建物の北側約0.70mの位置に平行して存在している。

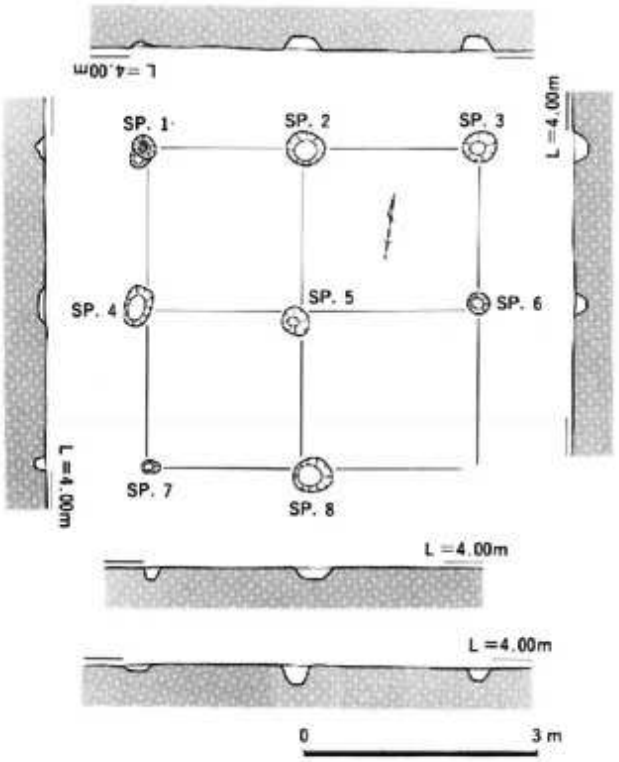
柵列の規模は4間分で約7.70mを測る。出土遺物はSP1より赤色塗彩された土師器杯片が出土している。

掘立柱建物21（SB1021）

（第57図）

1号屋敷地中央部、調査区東側において検出した掘立柱建物である。建物の規模は桁行2間（4.35m）×梁間2間（4.11m）を測り、柱間は桁行2.10m～2.25m・梁間2.30m～2.80mを測る。柱穴の掘り方はほぼ円形を呈する。主軸方向はN80°Eを示し、床面積は17.63m²を測る。

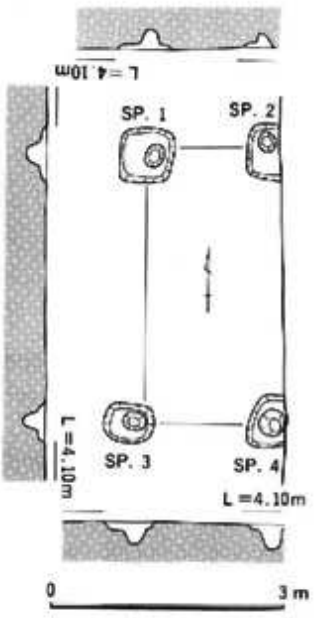
出土遺物はSP1から土師器杯片、SP4から土師器杯片・須恵器片・製塩土器片・管状土錘、SP6からは土師器杯片・土師器甕片、SP8からは赤色塗彩された土師器杯片が出土している。時期的には9世紀から10世紀代と考えられる。



第57図　SB1021実測図

掘立柱建物22（SB1022）（第58図）

1号屋敷地、調査区東隅において検出した掘立柱建物で、建物自体は東側調査区外に延びるものと考えられる。検出した建物の規模は桁行1間分（1.83m）×梁間1間（3.45m）である。柱穴の掘り方は2段掘りされており深さは0.30m前後で、埋土は褐色系統の砂質土である。主軸方向はN88°Eを測る。

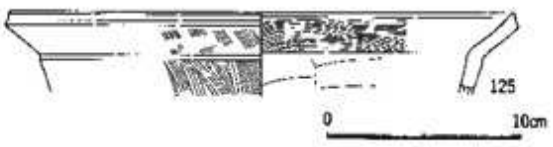


第58図　SB1022実測図

出土遺物（第59図）

SP4から土師器甕口縁部125が出土している。口縁部は

方形状におさめ、若干上端部を上方につまみ上げている。調整は体部及び口縁部は外面タテハケ、体部内面は横方向の板ナデ、口縁部ヨコハケである。その他、SP 1からは土師器甕片、SP 3からは土師器杯片が出土している。



第59図　SB1022出土遺物実測図

掘立柱建物25（SB1025）（第60図）

1号屋敷地、調査区南東端において検出した掘立柱建物で、掘立柱建物23（SB1023）と切り合っている。建物の規模は桁行2間（4.28m）×梁間1間（3.05m）を測る東西棟で、西側に約半間分の廂を伴う。柱間は桁行2.05m～2.23mを測り、床面積は12.81mを測る。主軸方向はN84°Eを示し、掘立柱建物22（SB1022）と同方向を示す。

出土遺物

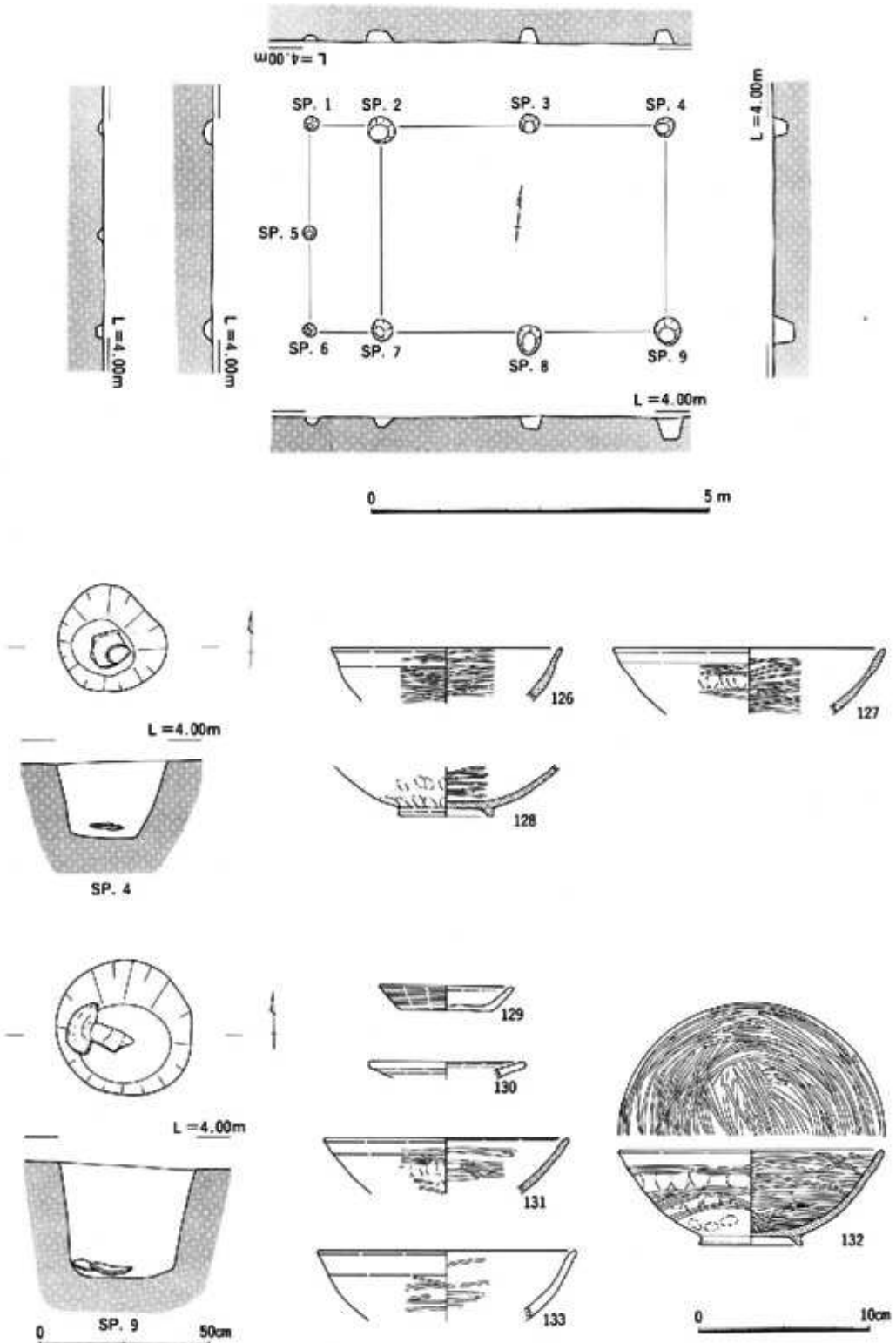
126～128はSP 4から出土した瓦器椀である。126は口縁端部を外面のヨコナデにより外反させるもので、調整は内外面とも緻密なヨコヘラミガキが施されている。外面には底部まで及ぶと考えられるミガキが施されており、時期的には和泉型瓦器椀Ⅱ－1段階のものと考えられる。127・128は外面にヨコヘラミガキが施されるが緻密さに欠け時期的には126より後出でⅡ－2段階のものと考えられる。129・130は土師器皿で器高の高い129と浅いタイプ130がみられる。129はSP 7、130はSP 2出土である。131～132はSP 9出土で、131・132はⅡ－2段階の瓦器椀で内面は緻密なヘラミガキが、外面はユビオサエ後丁寧なミガキが施されている。133は黒色土器B類椀で口縁端部を若干外反させる。調整は内外面ともヨコヘラミガキが施されている。時期的には12世紀中頃と考えられる。

掘立柱建物37（SB1037）（第61図）

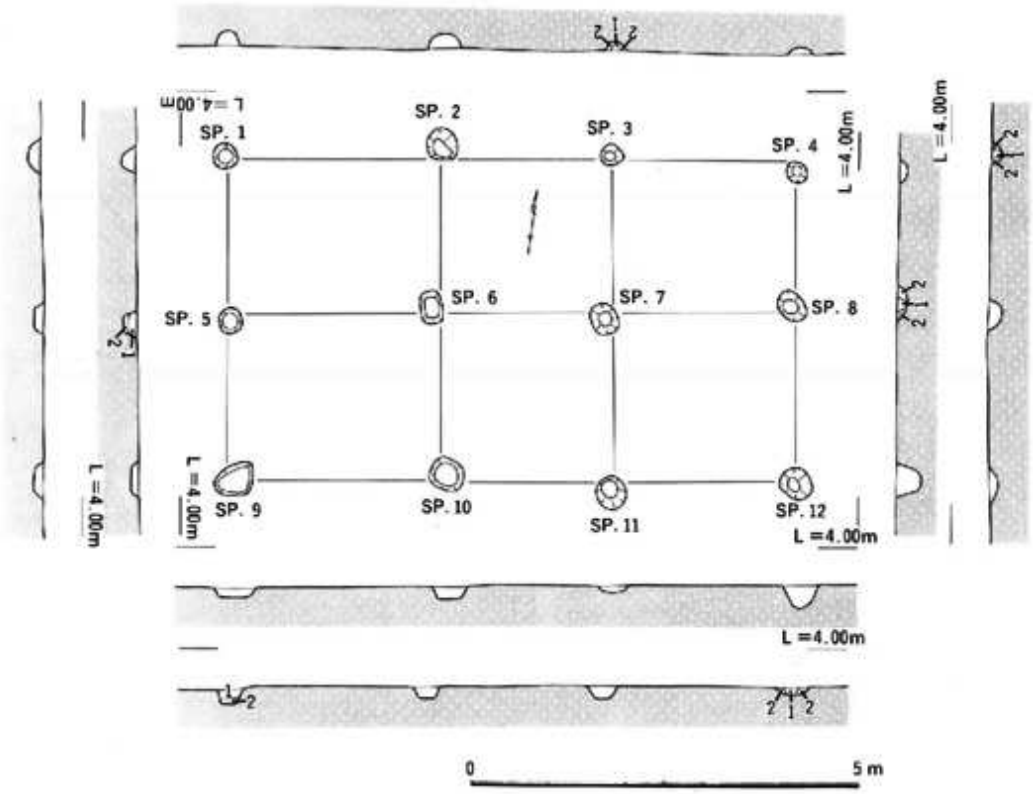
3号屋敷地、調査区北側において検出した掘立柱建物で、掘立柱建物43・44（SB1043・1044）と切り合っている。

建物の規模は桁行3間（7.28m）×梁間2間（4.18m）を測る東西棟である。柱間は桁行2.45m～2.80m、梁間1.75m～2.30mを測り、構造上桁行中央1間と梁間北側1間がやや狭くなっている。床面積は30.50m²を測る。主軸方向はN83°Eを示す。柱穴の深さは比較的浅く深いもので約0.30m程度である。

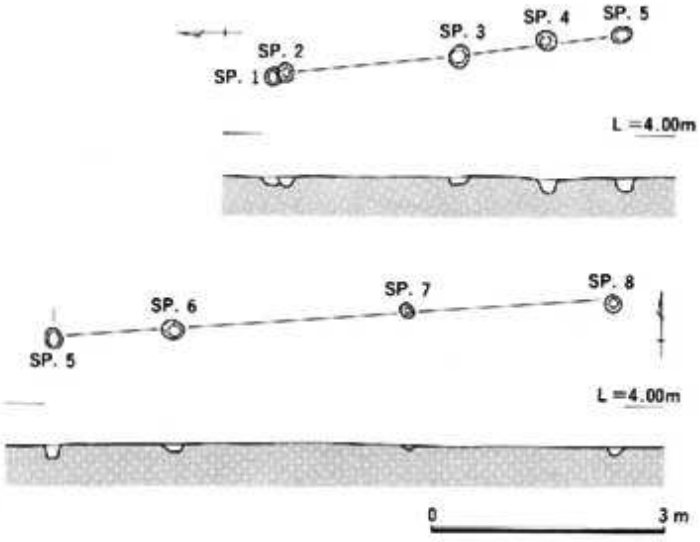
出土遺物はSP11より黒色土器A類椀片・土師器杯片が出土しているのみである。



第60図　SB1025実測図・柱穴出土遺物実測図



第61図　SB1037実測図



第62図　SA1019実測図

柵列19（SA1019）

（第62図）

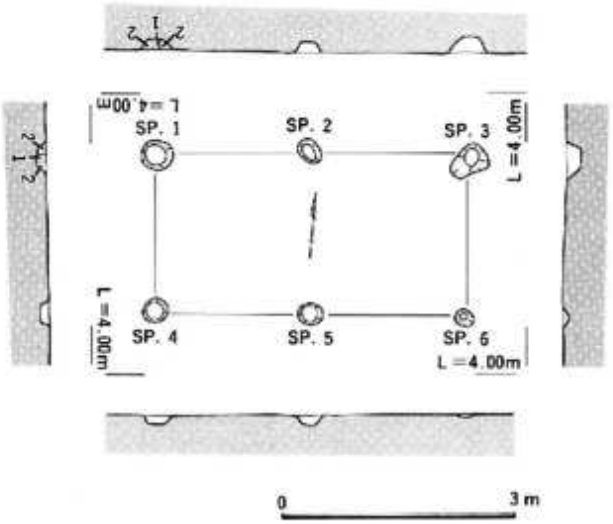
掘立柱建物37（SB1037）に伴うと考えられる柵列遺構で、建物の西側から南側にL字状に延びるものである。柵列の規模は西側南北2間（約4.50m）、南側東西3間（約7.20m）を測る。

掘立柱建物43（SB1043）

（第63図）

3号屋敷地、調査区北側において検出した掘立柱建物で、掘立柱建物37・44（SB1037・1044）と切り合っている。建物の規模は桁行2間（4.11m）×梁間1間（2.03m）を測る東西棟である。各柱間はほぼ2.00mで統一されている。床面積は8.30m²を測る小規模な建物である。主軸方向はN 85°Eを測る。

出土遺物はSP5より製塩土器片が出土している。

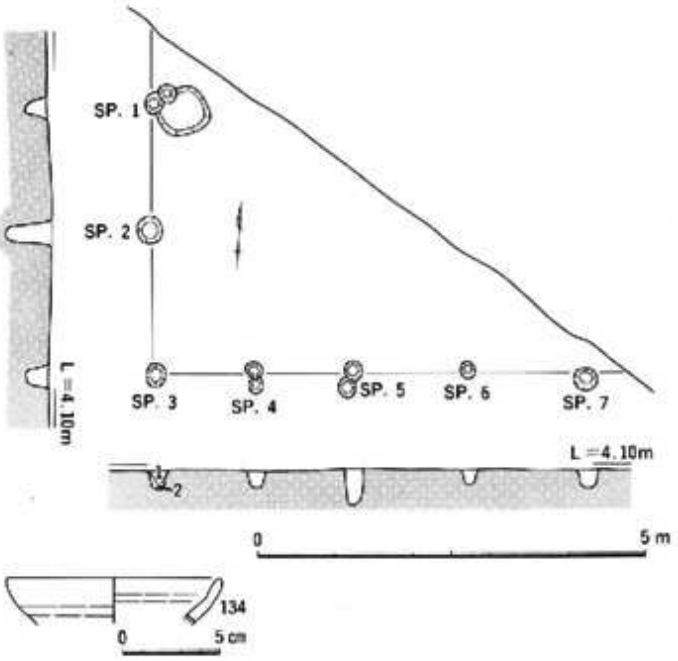


第63図　SB1043実測図

掘立柱建物46（SB1046）

（第64図）

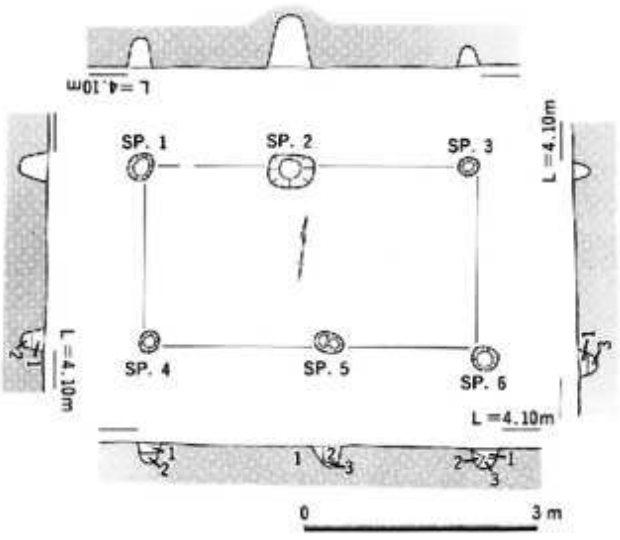
4号屋敷地、調査区北隅において検出した掘立



第64図　SB1046実測図・柱穴出土遺物実測図

柱建物で、北東側が調査区外に延び全体の規模は不明である。検出した建物の規模は桁行4間(6.25m)×梁間2間(3.50m)である。検出面積は13.05㎡を測る。

出土遺物はSP3より土師器杯134が出土している。口縁部が若干内彎するもので、調整は内外面ヨコナデである。その他、SP5より赤色塗彩された土師器杯片、SP6からは瓦器椀片が出土している。



第65図　SB1049実測図

掘立柱建物49(SB1049)(第65図)

4号屋敷地、調査区中央部において検出した掘立建物である。建物の規模は桁行2間(4.35m)×梁間1間(2.53m)を測る東西棟で、底面積は9.89㎡を測る。主軸方向はN84°Eを測る。

出土遺物は各柱穴内から細片であるが土師器杯が出土している。

Ⅰ－②期

掘立柱建物9 (SB1009)(第66図)

1号屋敷地北西隅において検出した掘立柱建物で、掘立柱建物12・13 (SB1012・1013) と切り合っている。

建物の規模は桁行2間 (5.95m)×梁間2間 (3.88m) を測る東西棟で、北側に廂を付設している。柱間は桁行2.9m前後、梁間は1.9m前後を測り、桁行がやや広く設定している。床面積は22.14㎡を測る。主軸方向はN86°Wである。

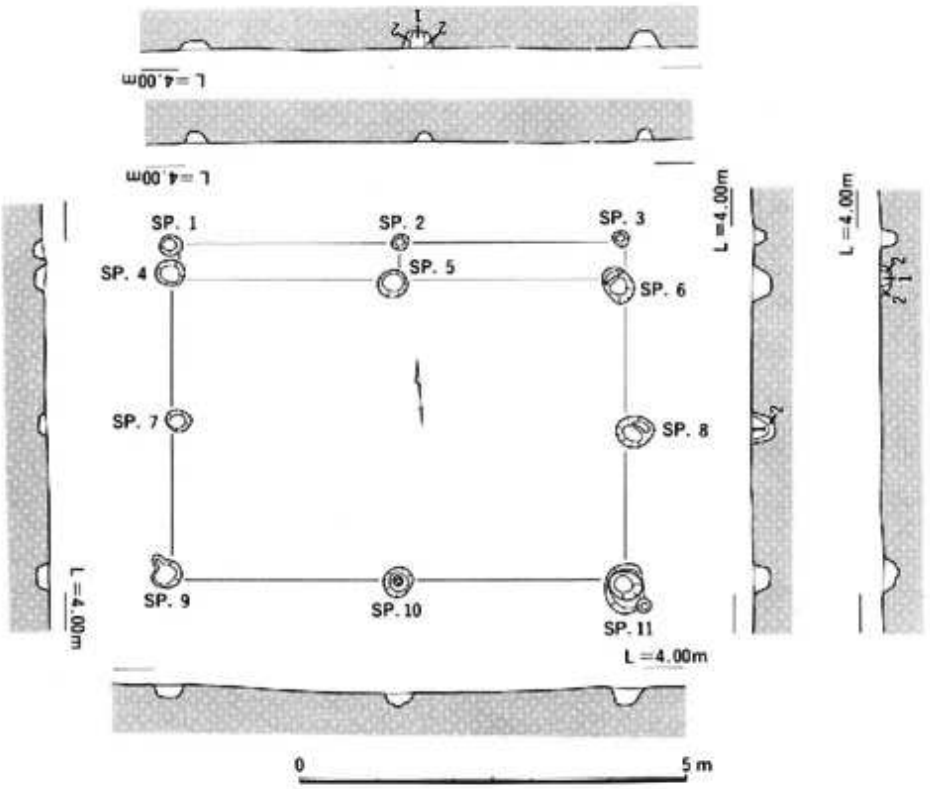
出土遺物はSP－7より土師器杯片が出土しているのみである。

掘立柱建物10 (SB1010)(第67図)

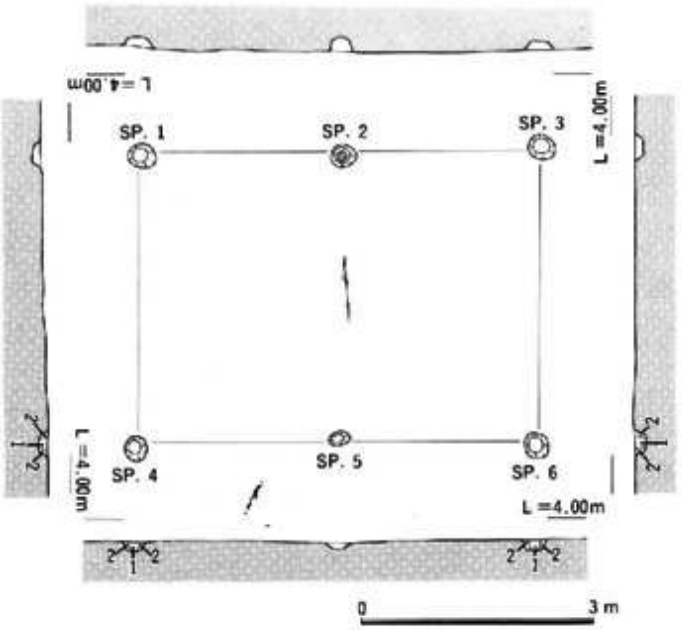
1号屋敷地北西隅、掘立柱建物9 (SB1009) の北側において検出した掘立柱建物で、掘立柱建物14 (SB1014) と重複する。

建物の規模は桁行2間 (5.21m)×梁間1間 (3.88m) を測る東西棟で、柱間は桁行2.6mである。床面積は19.24㎡、建物の主軸方向はN86°Wを測る。

柱穴に伴う遺物はほとんど出土していない。



第66図　SB1009実測図



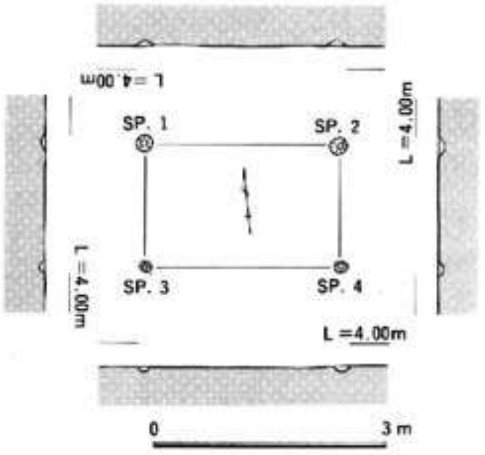
第67図　SB1010実測図

掘立柱建物11

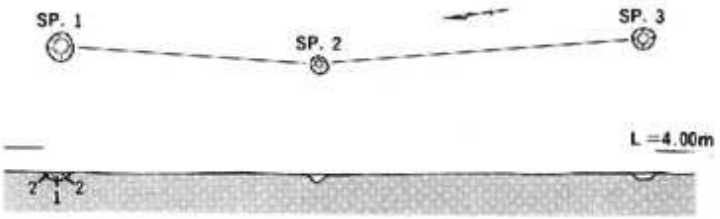
(SB1011) (第68図)

1号屋敷地北西隅、掘立柱建物10(SB1010)の北側にほぼ平行して検出した掘立柱建物で、掘立柱建物10(SB1010)に附属するものと考えられる。建物の規模は桁行1間(2.55m)×梁間1間(1.60m)を測り、床面積3.95㎡を測る小規模な建物で、倉庫的なものと考えられる。主軸方向はN86°Wを測る。

柱穴に伴う遺物は出土していない。



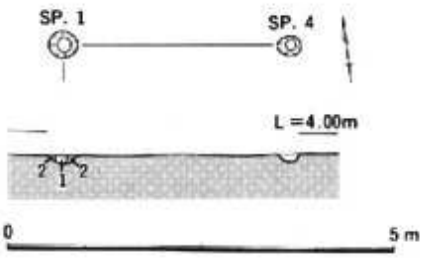
第68図　SB1011実測図



柵列7 (SA1007)

(第69図)

掘立柱建物10・11(SB1010・1011)に伴う柵列遺構で、建物の西側から北側にかけて逆L字状に延びるものである。柵列の規模は東側2間(7.50m)、北側1間(3.0m)を測る。



第69図　SA1007実測図

掘立柱建物13 (SB1013) (第70図)

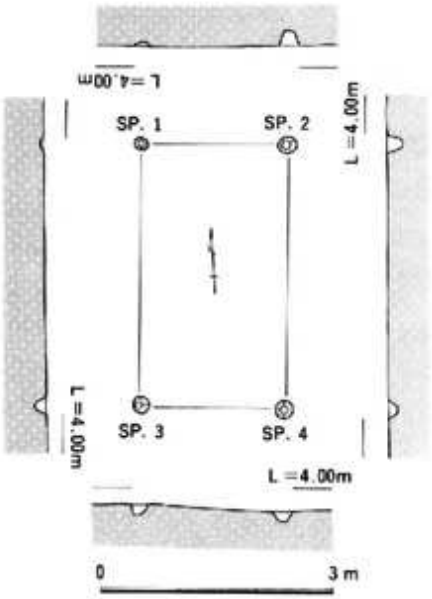
1号屋敷地北西隅、掘立柱建物9(SB1009)の内側において検出した掘立柱建物である。建物の規模は桁行1間(3.45m)×梁間1間(1.85m)を測る南北棟である。床面積は6.29㎡、主軸方向はN4°Eを測る。時期的には主軸方向の相違などから同時期とは捉えにくいが、掘立柱建物9(SB1009)に関連する可能性も考えられる事から当該時期に比定しておく。

柱穴内から遺物は出土していない。

掘立柱建物14（SB1014）（第71図）

1号屋敷地北西隅、掘立柱建物10（SB1010）の内側において検出した掘立柱建物である。建物の規模は桁行1間(2.0m)×梁間1間(1.60m)を測る東西棟で、東側に廂幅（0.60m）を付設している。床面積は3.2㎡を測る小規模な建物で、主軸方向はN89°Eを測る。建物の時期は確定できないが、掘立柱建物9（SB1009）の関連から同時期に捉えておく。

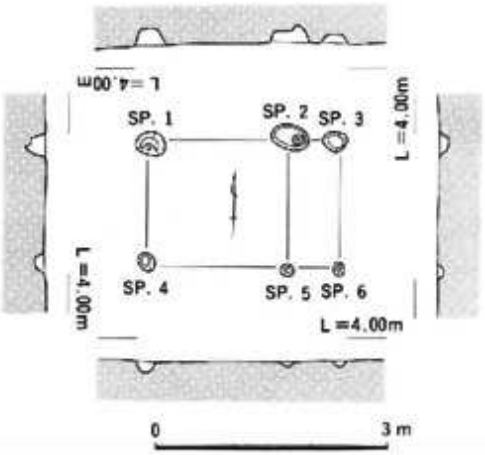
柱穴内から遺物は出土していない。



第70図　SB1013実測図

掘立柱建物27（SB1027）（第72図）

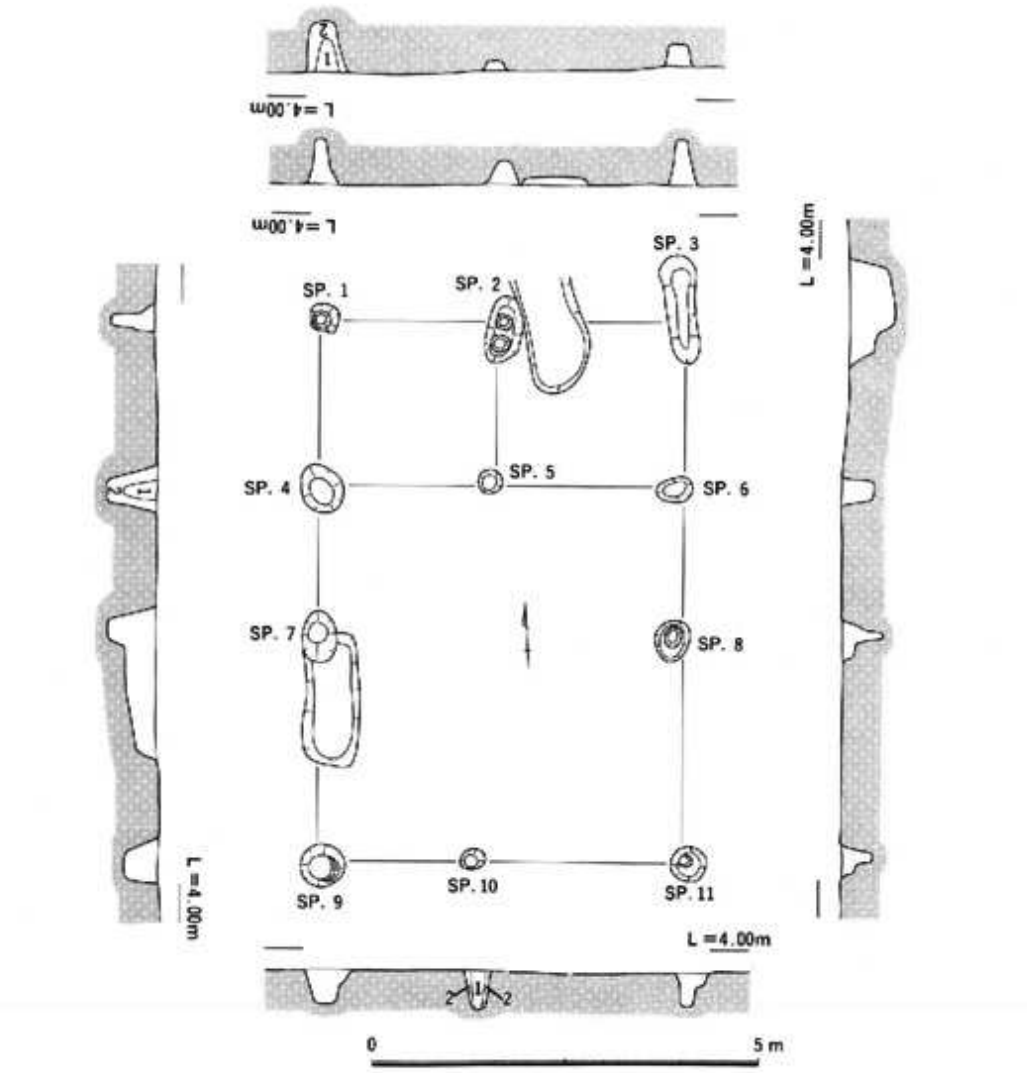
2号屋敷地ほぼ中央部において検出した南北棟の掘立柱建物で、掘立柱建物29・30（SB1029・1030）と切り合っている。建物の規模は桁行3間(7.08m)×梁間1間（4.78m）を測り、北側桁行1間には東柱を伴う。柱間は桁行1.90m～3.03m、梁間北側2.35m前後、南側1.95m～2.83mで不揃いである。床面積は32.84㎡で、主軸方向はN45°Eを測る。

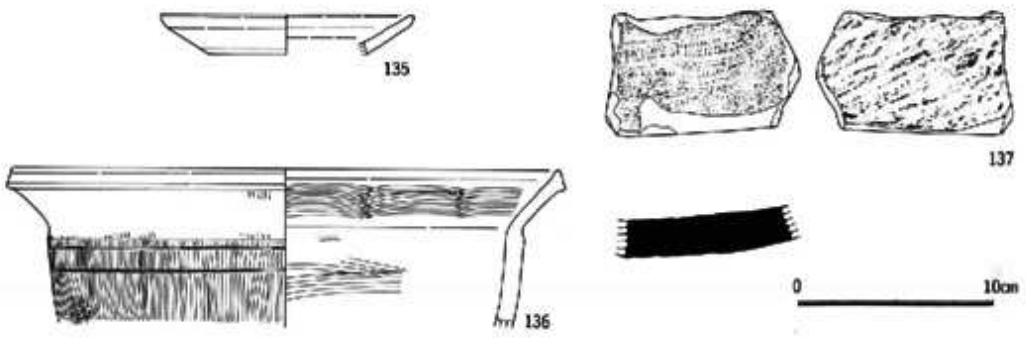


第71図　SB1014実測図

出土遺物

135はSP2より出土した土師器杯で、体部から口縁部にかけて外上方に延び、端部は若干上方に立ち上がる。調整は内外面ヨコナデである。136はSP8より出土した土師器甕である。口縁部は体部からくの字状に屈曲し、端部は若干上下に拡張する。調整は体部外面タテハケ、内面ヨコハケ後ナデである。口縁部外面ヨコナデによりタテハケを消している。137はSP9より出土した須恵質の平瓦である。凹面には布目痕、凸面には縄席文タタキが見られる。SP9から他に土師器杯口縁部が出土している。その他、SP3（SK1152）より黒色土器A類椀、SP8より土師器杯片・土師器甕片が出土している。

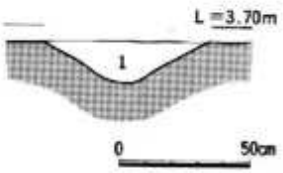




第72図　SB1027実測図・柱穴出土遺物実測図

溝

第1遺構面で検出したI期の溝は9条を数える。この時期の溝は方向が東西・南北方向から若干西に傾くという特徴を示す。また、溝7・8・11・16（SD1007・1008・1011・1016）は約4m～5m間隔で平行しており、規模的にもほぼ同規模を示す。また、東西方向に延びる溝17（SD1017）は若干北に偏し、溝7・8・11・16とほぼ直交する状況がみられ、時期的には9世紀から10世紀代の遺物を包含していることから当該時期の溝の方向性に規格性が見られる。性格的には全ての溝が両端部が終息し、流路等に結合せずに独立している事から区画溝あるいは小規模な排水を目的とした溝と考えられる。

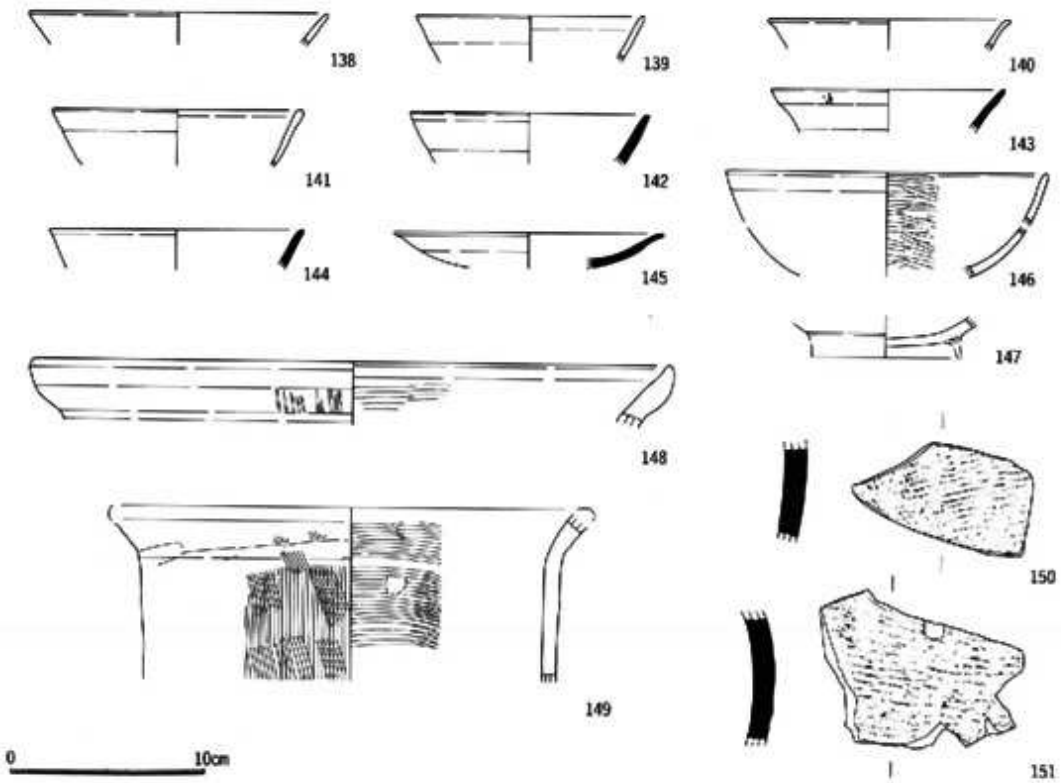


1　黄褐色2.5Y5/4砂質土(炭化物含む)

第73図　SD1007土層断面実測図

溝7（SD1007）（第73図）

位置的には2号屋敷地北東隅において検出した南北に延びる溝で、溝8・16・11（SD1008・1016・1011）と平行してい



第74図　SD1007出土遺物実測図

る。溝の北端・南端を中世の溝2(SD1002)によって切られており、溝の規模は検出長14.10m、幅は狭いところで0.63m、北側の幅の広いところで約1.0mを測る。深さはほぼ0.16m前後を測る。溝の規模自体は北側において中世溝(SD1002)より北において検出されないことから、ほぼ15m前後で終息するものと考えられる。溝の方向は約N 8 °Wを測り、溝自体の深さは南側が標高3.57m、北側が標高3.40mを測り、北側が若干低く南側から北への流水方向を示す。

溝の断面形状は浅いU字状を呈し、溝内の埋土は黄褐色砂質土1層のみで炭化物を含んでいる。

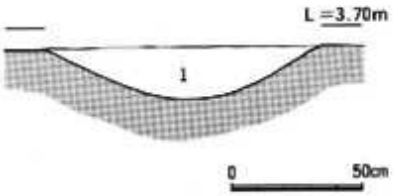
出土遺物(第74図)

138～141は土師器の杯口縁部で口縁部が直線的に外上方に延びるもの138・139・141と口縁端部を外反するタイプ140がある。142～144は須恵器杯口縁部で、いずれも口縁部が外上方に立ち上がり端部を尖り気味におさめている。145は京都系緑釉陶器皿の口縁部である。口縁部は若干内彎気味に立ち上がり、端部は強いヨコナデにより外反し尖り気味におさめる。釉は薄く剥落している。146は黒色土器A類椀である。口縁部は内彎気味に立ち上 がり端部は丸くおさめる。調整は内面横方向への綿密なミガキ、外面は口縁部ヨコナデで、下半部には横方向のケズリの痕跡が認められる。147は内面が赤色塗彩された土師器椀で、底部には貼り付け高台の痕跡が残る。148・149は土師器甕である。148は口径32.6cmを測るもので端部は若干上方に拡張する。149は口縁部を欠損するものの体部は直立するもので、外面はタテ方向、内面はヨコ方向への荒いハケ調整がみられる。150・151は須恵器甕体部片で外面は平行タタキ、内面は強い板ナデ状の痕跡が残る。

その他、製塩土器細片が出土している。

溝8 (SD1008)(第75図)

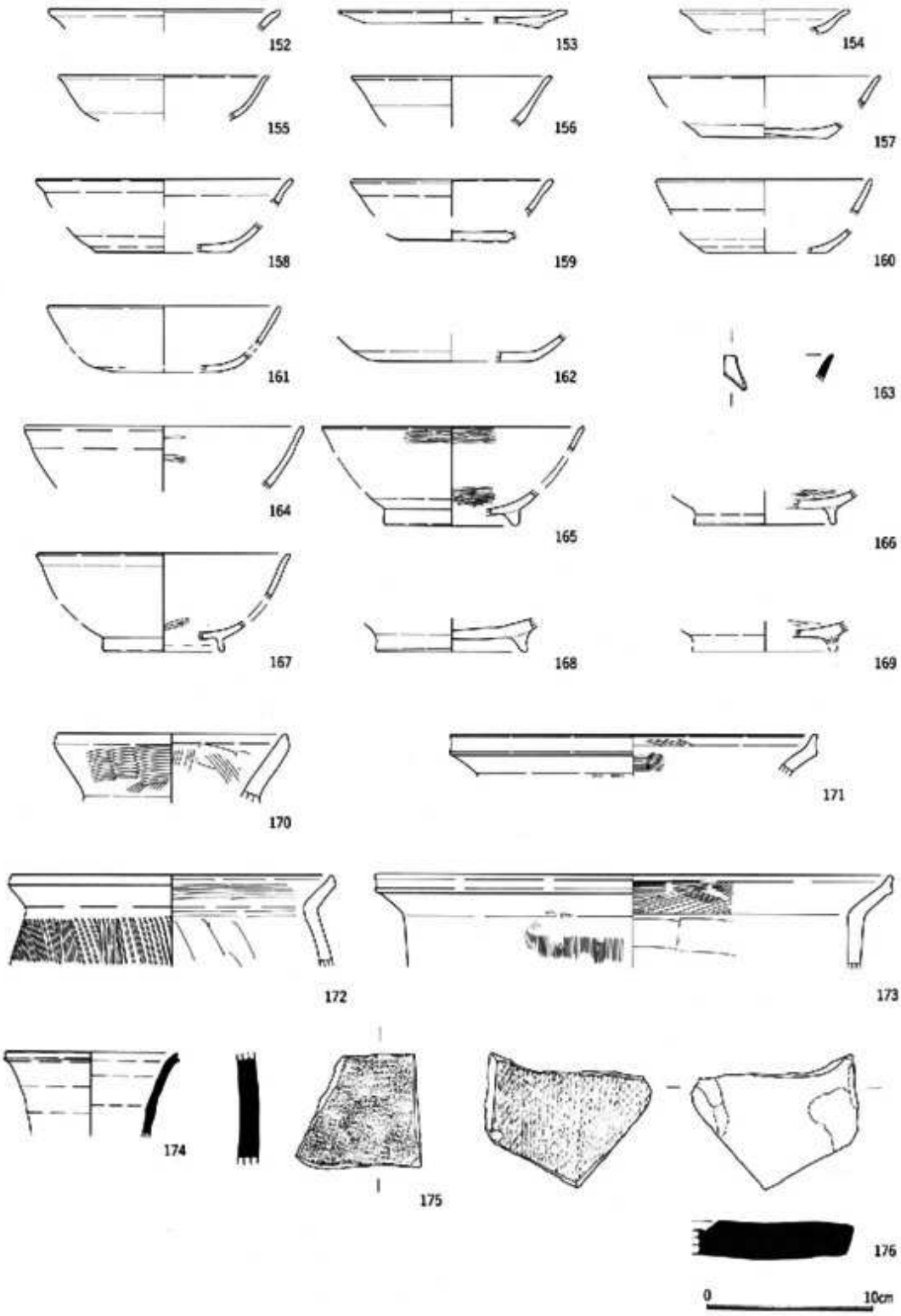
溝(SD1007)の西側約3mの地点において検出した南北方向に延びる溝で、溝7・16(SD1007・1016)とほぼ平行する。溝の北端は中世の区画溝(SD1002)によって切られているが、規模的には18.0m前後を測るものと考えられる。検出長は17.0mである。幅は両端の狭い部分で0.50m 、中央の広い部分で1.1mを測る。深さは南側の浅い部分で0.12m、中央部の深い部分で0.19mを測る。底面の高さは南側が標高3.67m北側端が3.40mで、比高差約0.27mを測る。溝の方向はN 8 °Wを測る。



1 黄褐色2.5Y5/3砂質土

第75図 SD1008土層断面実測図

溝の断面形状はレンズ状を呈し、遺構内埋土は黄褐色系統の砂質土1層のみである。遺物は主に溝中央部から出土している。



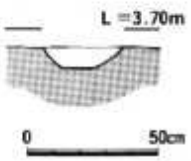
第76図　SD1008出土遺物実測図

出土遺物（第76図）

152～154は土師器皿で口縁端部は外反し丸くおさめるタイプであるが、152は僅かに上方に拡張している。調整はいずれもヨコナデである。152は内外面とも赤色塗彩の痕跡が残る。155～162は土師器杯で、161は内外面に赤色塗彩が施されている。口径は15cm前後のものと17cm前後のものがあり、口縁部の形態からも外反するタイプと直線的に終わらせるタイプに分けられる。調整は内外面ともヨコナデで、外底面は回転ヘラ切りである。163は京都系緑釉陶器杯の口縁部と考えられるもので外反する口縁部を有し、軟質の素地に緑黄色の釉が施されている。164～166は黒色土器A類椀である。口縁部の調整は164が内面のみにミガキが施されるのに対して165は内面と口縁端部外面にミガキが施されている。高台の形状は厚手で低いものと薄手で比較的高いものがある。167～169は高台付土師器椀で内外面とも赤色塗彩されている。167には僅かにミガキの痕跡が認められる。

170～173は胎土に比較的多くの砂粒を含む土師器甕の口縁部で、171・173の口縁端部は上方に拡張し外端面を形成する。調整はともに内面荒いヨコハケ、体部は外面荒いタテハケ、内面はヨコ方向への板ナデ調整である。173は胎土に石英・長石・黒色鉱物・雲母を多く含む事から、搬入された可能性が考えられる。174は須恵器壺の口縁部である。口縁端部上端は尖り気味におさめ、外面の強いナデにより下端部は外方に突出している。胎土は砂粒が少なく極めて緻密である。175は須恵器甕体部片で、内面は同心円状の当て具の痕跡、外面には格子状タタキの痕跡が残る。176は須恵質の平瓦片で凹面には布目痕、凸面には縄席文タタキの痕跡が残る。その他、電片が若干出土している。

出土遺物から遺構の時期は10世紀代と考えられる。

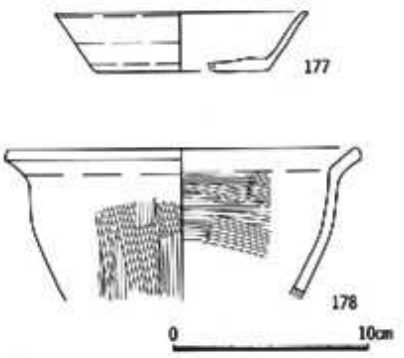


第77図　SD1009土層断面実測図

溝9（SD1009）（第77図）

調査区北東隅において検出した北東方向に延びる溝で、北東端は調査区外に続く。溝の規模は検出長5.5m、幅約0.40m、深さは南東側0.22m、北東側0.17mであるが溝底面の高さは北東側が南東側より約0.40m低くなっている。溝の方向はN67°Eを測る。

溝内の埋土は1層のみである。



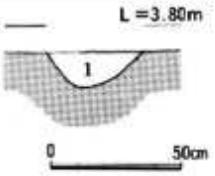
第78図　SD1009出土遺物実測図

出土遺物（第78図）

177は土師器杯で内外面とも赤色塗彩が施されている。口縁部は底部から強く屈曲し外上方に直線的に立

ち上がる。端部は若干外反し尖り気味におさめる。調整は内外面ヨコナデ、外底面は回転ヘラ切り未調整である。178は土師器甕である。若干外方に開く体部に短い口縁がつき、端部は方形状におさめる。調整は体部外面タテハケ、内面ヨコハケである。胎土は軟質で多量の砂粒を含んでいる。

その他、須恵器甕・壺片が出土している。



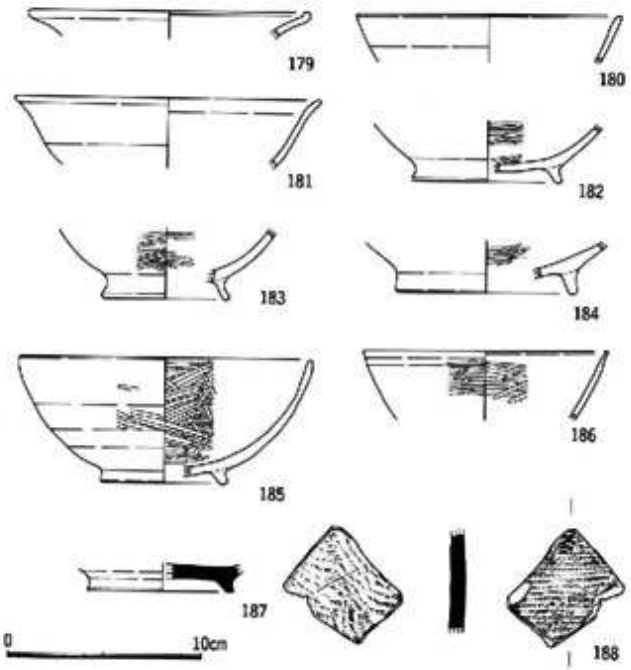
1　黄褐色2.5Y5/4砂質土(炭化物含む)

第79図　SD1011土層断面実測図

溝11（SD1011）（第79図）

調査区（M－14・15グリッド）において検出した南北方向に延びる溝で、南北端を溝2（SD1002）・溝10（SD1010）によって切られており、検出長は7.5mを測る。溝の方向はN8°Wで、溝7・8・16（SD1007・1008・1016）とほぼ同一の方向を示す。規模的にも幅0.5m前後、深さ1.5m前後を測り、時期的にもまた同様の性格をもつものである。

遺構内埋土は炭化物を含む黄褐色砂質土1層のみである。



第80図　SD1011出土遺物実測図

出土遺物（第80図）

179は口縁端部を上方につまみ上げた土師器皿で、焼成はあまく黒色を呈する。調整は内外面ヨコナデである。180は土師器杯口縁部で口縁部は直線的に立ち上がり端部は丸くおさめる。181～183は土師器椀で、181は内彎気味に立ち上がる体部をもち、口縁端部は外反し丸くおさめる。182・183は細身の高台がつくもので、182は外面、183は内外面に赤色塗彩が施されている。調整は内外面に横方向の分割ミガキが認められる。184・185は黒色土器A類椀である。185は深い椀形を示し、ハの字に開く短い高台が付く。調整は内面ヨコヘラミガキ、外面は部分的に横方向へのミガキが施されている。186は黒色土器B類椀で口縁端部内面に弱い沈線が巡る。また、器壁は薄く内外面とも綿密な横方向へのミガキが施されており楠葉産と考えられる。187は須恵器の高台付き杯底部片である。188は須恵器甕体部片で内面には同心円状の当て具の痕跡、外面には平行状タタキの痕跡が残る。

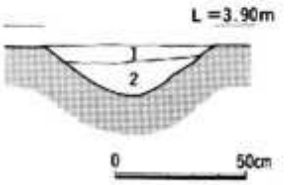
その他、若干の土師器甕片が出土している。時期的には若干古い遺物も見られるが、概ね

楠葉産の黒色土器椀から10世紀末の年代が考えられる。

溝12（SD1012）（第81図）

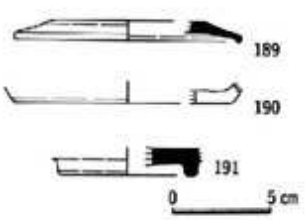
位置的には1号屋敷地中央部西隅において検出した溝で、溝西端を区画溝1（SD1001）によって切られている。溝の規模は検出長9.20m前後、幅0.40m～1.50mで西側が広くなっており、深さは0.20m前後を測る。遺構内埋土は2層に分層され、第1層は炭化物を含む黄褐色砂質土である。溝の方向はほぼ東西を示す。

遺構内からは中世遺物も出土しており、時期的にも混在した状況がみられ遺構の所在時期を確定する事が困難であるが、区画溝によって切られている事から方形区画屋敷地の成立以前という認識からⅠ期に含めた。



1 黄褐色2.5Y5/3砂質土(炭化物含む)
2 暗灰黄色2.5Y5/2砂質土(やや粘性あり)

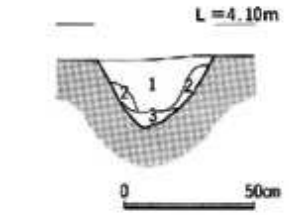
第81図　SD1012土層断面実測図



第82図　SD1012出土遺物実測図

出土遺物（第82図）

189は須恵器杯蓋で器高は低く、天井部は平坦面を呈するものと考えられる。口縁端部は下方につまみ出し、丸くおさめる。190は土師器杯底部片で、底部回転ヘラ切り後ナデ調整である。191は青磁碗の底部片で釉は比較的厚く、外面の範囲は高台部をこえて内部まで及ぶ。

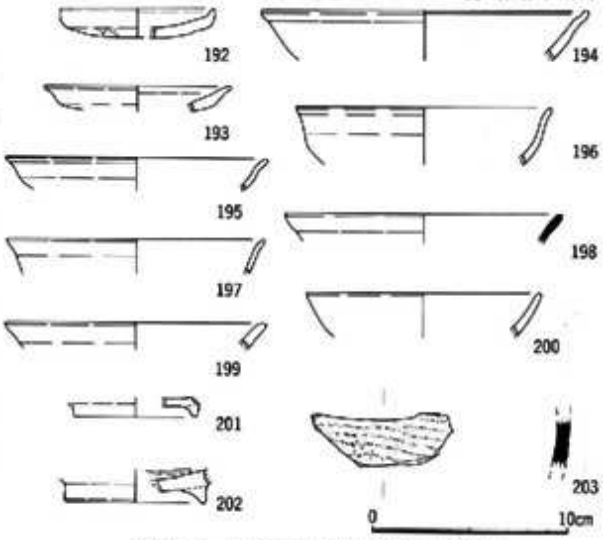


1 暗灰黄色2.5Y5/2砂質土(炭化物含む)
2 黄褐色2.5Y5/3砂質土
3 黄褐色2.5Y5/4砂質土(粘性あり、炭化物含む)

第83図　SD1013土層断面実測図

溝13（SD1013）（第83図）

位置的には1号屋敷地中央部、掘立柱建物1（SB1001）に切られた状況で検出された溝である。北端は溝14によって切られ、また土坑91（SK1091）を切っている。検出した溝の規模は長さ約8.0m、幅約0.50m、深さ約0.30mを測る。断面形状はU字状を呈し、溝内の埋土は3層に分層され第1・3層には炭化物が含まれている。溝の方向は若干蛇行気味であるが、ほぼ真北より8°西偏している。



第84図　SD1013出土遺物実測図

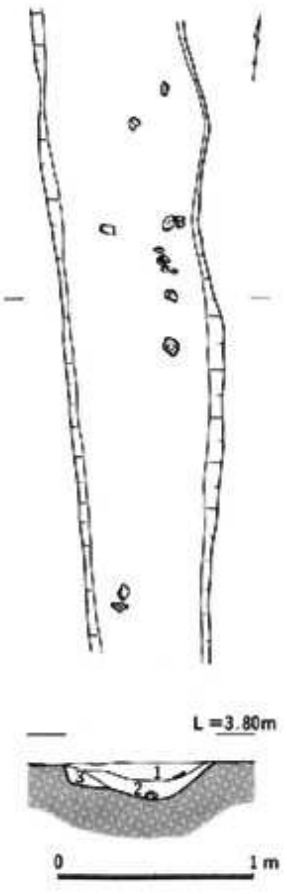
出土遺物（第84図）

192・193は土師器皿で、192の口縁端部は上方に尖り気味におさめ、底部は不整方向へのヘラ切り未調整である。193は口縁部を強いヨコナデにより外反させるもので端部は丸くおさめる。194～197・199・200は土師器杯で、194・195は内外面とも赤色塗彩されている。194は端部を上方につまみ上げるもので口径16.7cmを測る。195～197・199は口縁部が外反するもので口径13.0cm前後を測る。200は内彎する口縁部をもち端部は尖り気味におさめる。198は須恵器杯口縁部である。201・202は黒色土器A類椀底部片で、断面U字状の短い高台がつく。203は須恵器甕体部片で、内面ヨコナデ調整で外面には格子状タタキの痕跡が残る。

溝16（SD1016）（第85図）

溝7・8（SD1007・1008）と平行する溝で、溝8の西側約4.0mに位置し、ほぼ中央部を中世の土坑133・134・166（SK1133・1134・1166）によって切られている。溝の規模は長さ18.47m、幅0.78m、深さ0.18mを測る。溝の方向はN8°Wを測り西側の溝4条とほぼ同規模、同方向を示すことから同時期に掘削されたものと考えられる。

溝の断面形状は浅いレンズ状を呈し、埋土は3層に分層される。第1・2層は炭化物が含まれており、また南端部第2層から遺物が比較的多く出土し一括性の高いものと考えられる。



1 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土（炭化物含む）
2 オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土
（炭化物・小礫を含む）
3 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土

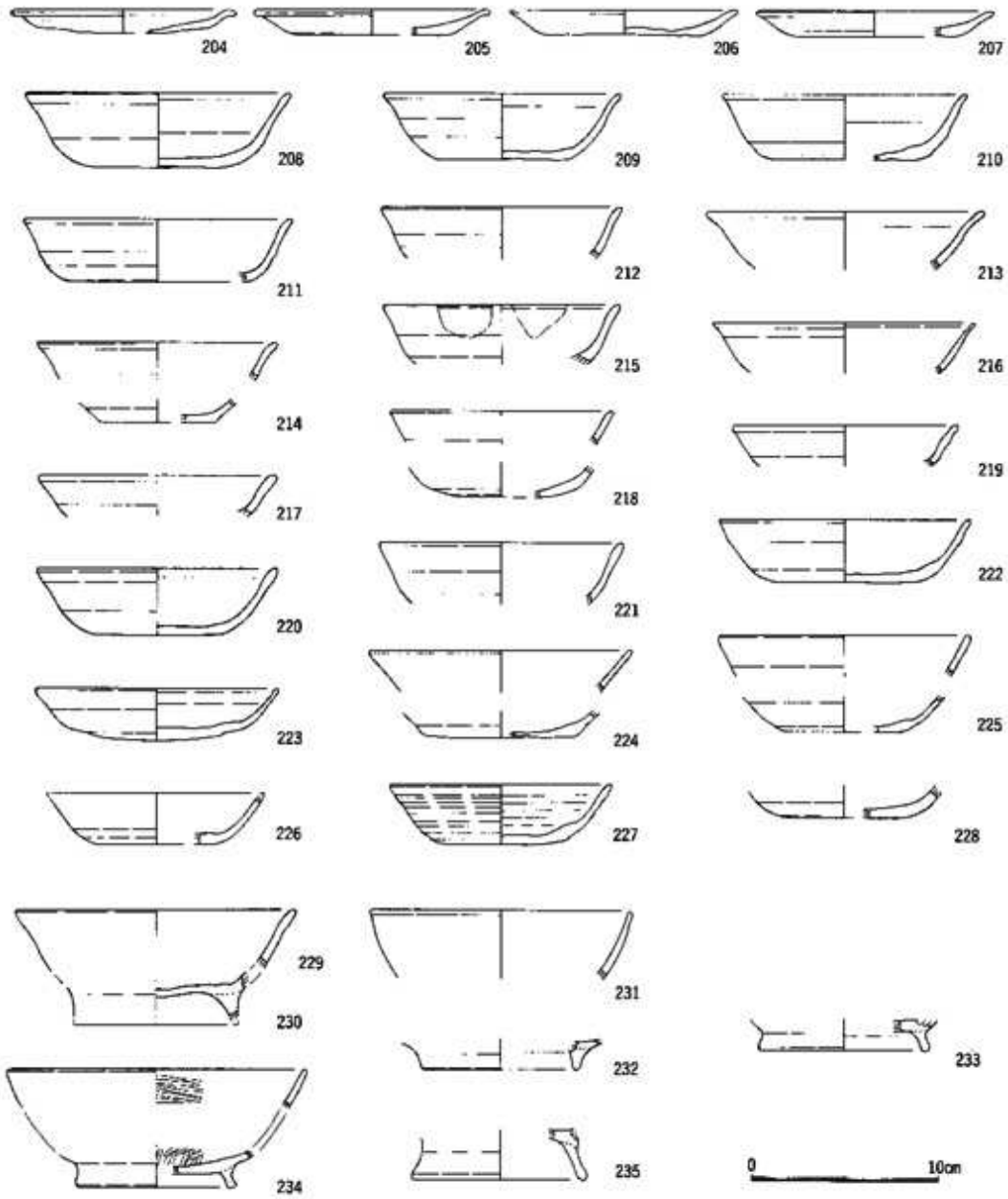
第85図　SD1016実測図

出土遺物（第86・87図）

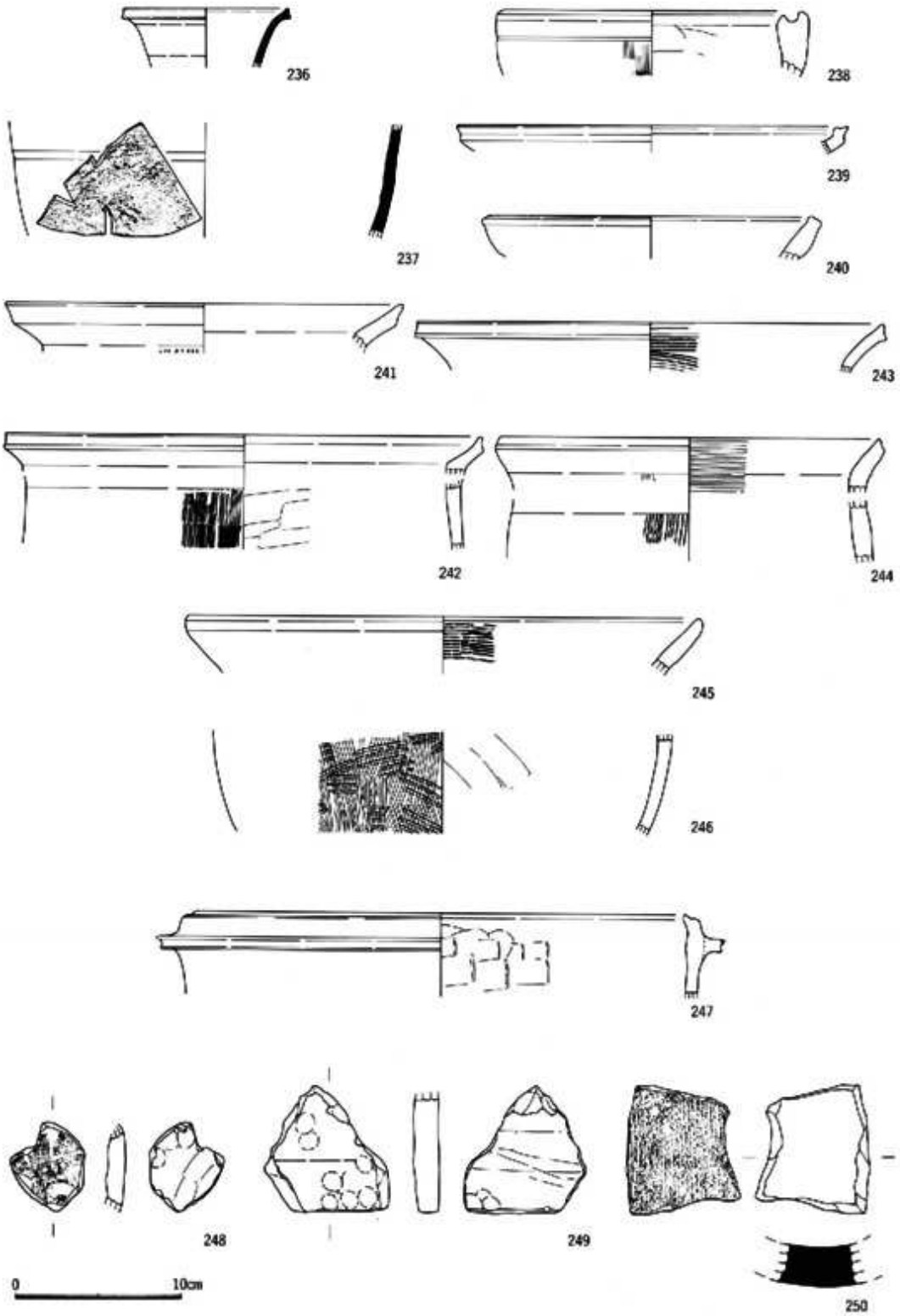
204～207は土師器皿でいずれも口径11cm前後を測る。口縁部は外上方に短く立ち上がり、端部は若干外反する。調整は内外面とも回転ヨコナデ、外底面は回転ヘラ切りである。208～228は土師器杯で、口径からほぼ12cm前後～14cm内におさまるが、213は口径15.0cmを測る。形態的には口縁部は底部から内彎気味に外上方に立ち上がり、口縁端部は若干外反し丸くおさめるもの208～219と直線的におわらせるもの220～227がある。調整はすべて内外面回転ヨコナデであるが227はナデの幅は極めて狭い。また外底面は回転ヘラ切りであるが、208・209は回転ヘラ切り後ナデ調整が施されている。210は内面黒色化しており、また214～217は口

縁部の一部にスス状の付着が認められる。

229・230は土師器高台付杯で、口縁部は直線的に外上方に延び、高台部は断面三角形状を呈する。231は土師器椀口縁部で、内外面とも赤色塗彩されている。232・233は土師器杯ないしは椀の高台部である。234は内外面とも黒色処理されており黒色土器B類椀と考えられるが外面のミガキ調整は確認されないことからA類椀の可能性もある。内面調整は粗雑なヨコヘ



第86図　SD1016出土遺物実測図(1)



第87図　SD1016出土遺物実測図(2)

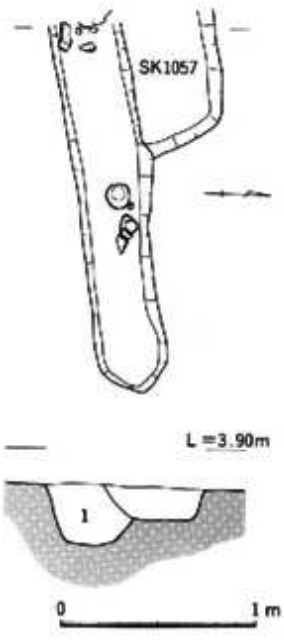
ラミガキが施されている。高台部は比較的高く断面方形状を呈している。胎土に結晶片岩が含まれる事から在地産と捉えておく。325は形態的には高足高台の付く杯と考えられるもので、高台部はハの字状にふんばり端部は丸くおさめている。

236は須恵器壺口縁部で頸部は開き気味に立ち上がり、口縁端部は上方に拡張する。237は須恵器壺体部片で調整は内外面ヨコナデで、体部外面には格子状タタキの痕跡が残る。238は土師器の鉢形を呈すると考えられる口縁部片で口縁上端面には幅広の沈線が巡る。調整は外面タテハケ、内面横方向への板ナデで胎土に多量の砂粒を含む。239～245は土師器甕の口縁部で、239は口縁端部を上方に屈曲させるタイプ、240は口縁端部を方形状におさめる若干内向させるものである。241～245の口縁端部は断面三角形状におさめ、242は上端部を上方に拡張する。調整は内外面ヨコナデのもの240～242と内面にヨコハケを施すもの243～245がある。体部は荒いタテハケを施し、246には平行タタキの痕跡が残る。胎土は240以外は多量の砂粒を含んでいる。247は土師器甕で口縁直下に水平方向に延びる断面方形状の短い鍔を貼り付けている。調整は内外面荒いナデで、内面にはススの付着が顕著にみられ、また鍔の貼り付けがいびつなことから他器種の可能性も考えられる。胎土には多量の石英粒および砂粒が含まれている。248は製塩土器片で、内面には布目痕が残る。249は甕片の一部と考えられるもので、内面は黒色を帯びる。250は須恵質の平瓦片で凹面には布目痕、凸面には縄席文が認められる。

溝17(1)(2)（SD1017(1)(2)）（第88・89図）

位置的には1号屋敷地中央部において検出した東西に延びる溝で、検出した溝は2条に分かれるが、その連続性から東側溝SD1007と西側溝SD1007(2)とし同一遺構番号を使用した。2条の溝の両端は平面U字状に終息するものである。東側溝の規模は中世の遺構によって分断されるものの、復元される長さは18.47m、幅0.70m前後を測る。深さは0.66mを測り断面形状は 深い逆台形状を呈する。溝内埋土は東端では1層で土器片・炭化物を含んだ砂質土である。溝の方向は若干蛇行気味ではあるが、東西方向より約8°北側に偏する。

西側溝は長さ9.30m、幅0.90m前後、深さ0.54mを測り、方向は東側溝とほぼ同方向を示す。断面形状は深い逆台形状を呈し、溝内埋土は8層に分層される。第2・3・8層には焼土・炭化物が含まれており、また下層部においては比較的多くの遺物が出土している。



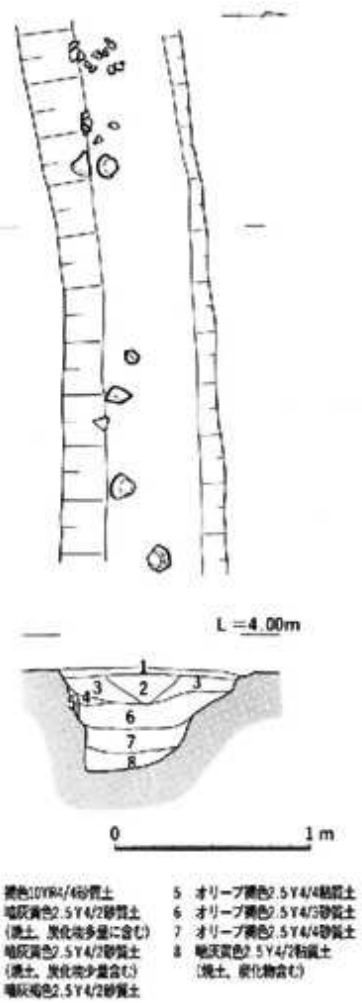
1　灰オリーブ色5Y4/2粘質土（炭化物含む）

第88図　SD1017(1)実測図

出土遺物（第90図）

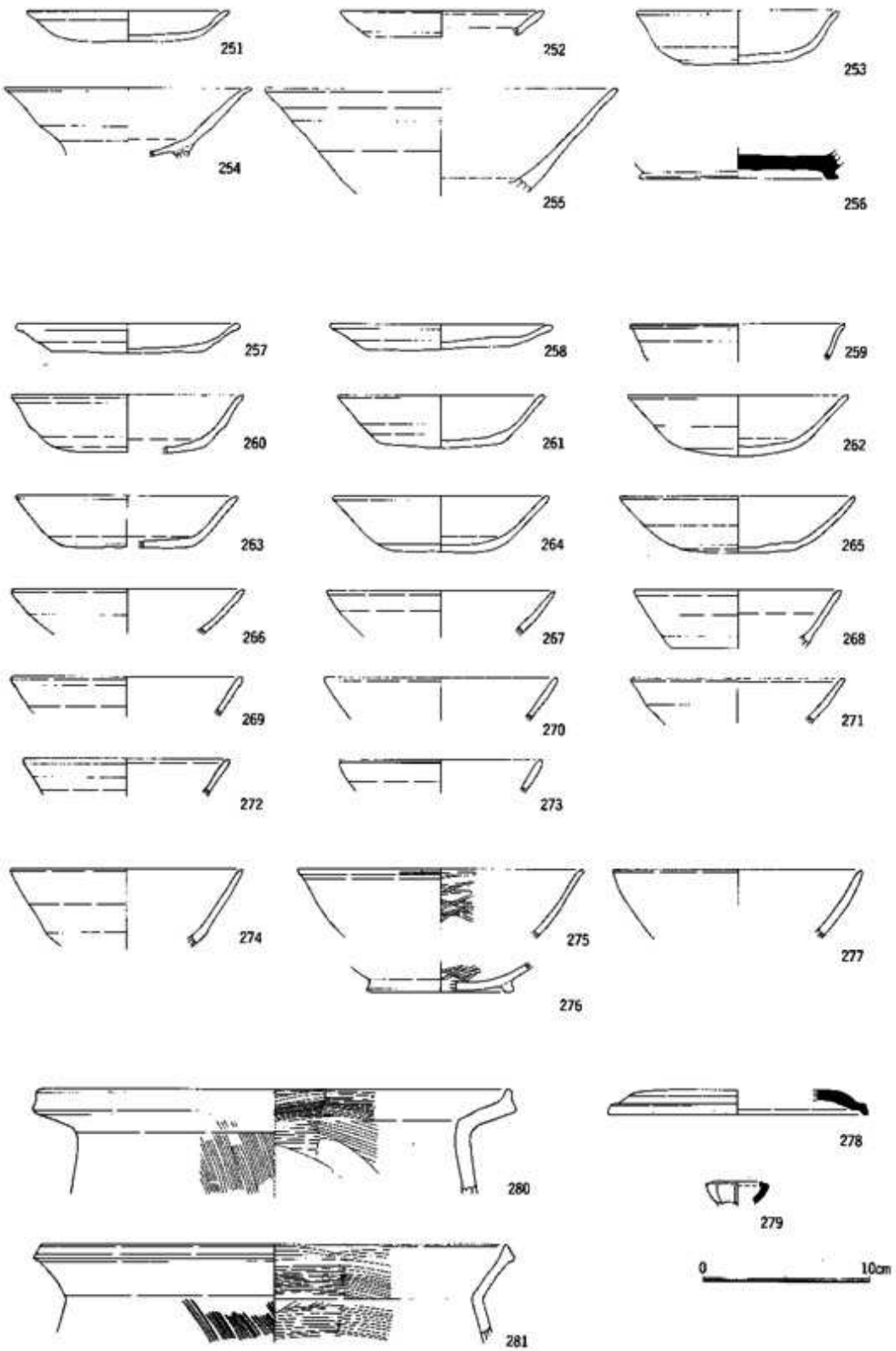
251～256はSD1017(1)から出土したものである。251・252は土師器皿で口径12cm前後を測る。調整は内外面ヨコナデ、外底面は回転ヘラ切り後ナデである。253～255は土師器杯で、253は完形で口縁部は内彎気味に立ち上がり端部は若干外反する。254は高台付杯で口縁部は外上方に直線的に延び、端部は僅かに外反させる。255は口径21cmを測る大型の杯で、直線的に外上方に立ち上がる口縁部を有する。調整は内外面ともヨコナデである。256は須恵器壺底部片で断面方形状の高台を貼り付けている。

257～281はSD1017(2)から出土したものである。257・258は口径13.5cm前後を測る土師器皿で、口縁部は緩やかに外上方に立ち上がり端部は丸くおさめる。258の内面は赤色塗彩の痕跡が残る。259～274は土師器杯である。口径は272・273が12cm程度を測る以外は全て13.0cm～14.0cmにおさまる。形態的には口縁端部を若干外反させるタイプのもの259・260と直線的に終わらせるタイプのもの261～274に分けられる。また、274はやや深い形態を呈する。調整は内外面ともヨコナデで、260・261・263・264～267・269～273には赤色塗彩の痕跡が残る。275～277は黒色土器A類椀である。275は内彎気味に立ち上がる口縁部で端部は若干外反し、256は底部片で断面方形状の低い高台が付く。調整は内面が綿密なヨコヘラミガキ、外面はヨコナデである。胎土には結晶片岩を含むことから在地産と考えられる。277は内彎気味の口縁部で端部は尖り気味におさめる。調整は摩滅のため不明である。



第89図　SD1017(2)実測図

280・281は土師器甕の体部から口縁部片である。280の口縁部は体部から逆L字状に屈曲するもので、端部は上方に拡張する。調整は口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコハケ。体部外面タテハケ、内面上端部ヨコハケ、下半部ヘラケズリ調整である。胎土には多量の石英粒・赤色粒を含む。281はくの字状に屈曲する口縁部を有するもので、端部は若干上下に拡張する。調整は外面ヨコナデ、内面ヨコハケである。胎土には結晶片岩を含む。278は須恵器杯蓋片で、偏平なつまみが付くものと考えられる。器高は低く口縁部は「S」字状に屈曲し、端部は尖り気味におさめる。279は口径2.8cmを測る青白磁の合子身で、幅広の蓮弁を型押しする。釉は蓋受け部と下半部を除いて施釉されているが、気泡が多く荒い。

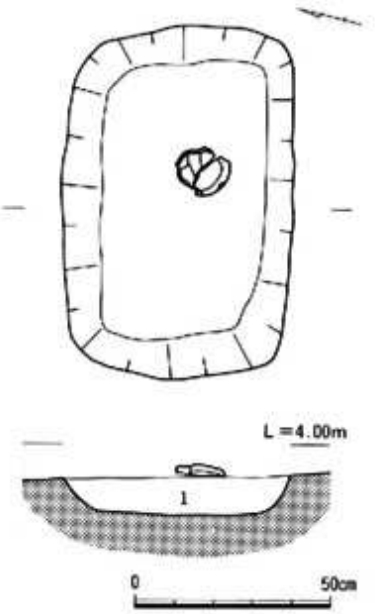


第90図　SD1017(1)・(2)出土遺物実測図

土坑

土坑10（SK1010）（第91図）

1号屋敷地南端（U－21グリッド）において検出した長方形土坑である。土坑の規模は長軸0.91m、短軸0.58m、深さ0.10mを測る。掘り方の断面形状は浅い逆台形状を呈し、底面は平坦面を形成している。遺構内埋土は1層のみでオリーブ褐色砂質土で炭化物を含んでいる。出土遺物は第1層の上面からの出土で、本来の遺構面は若干浅い位置にあったものと考えられる。主軸方向はほぼ東西を示す。



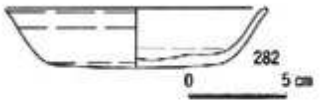
1．オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（炭化物を含む）

第91図　SK1010実測図

出土遺物（第92図）

土坑から出土した遺物は土坑中央部からの土師器杯1点のみである。

282は土師器杯で口縁部を一部欠くもののほぼ完形に近い。口径13.4cm、器高3.1cmを測るもので、体部は直線的に外上方へ立ち上がり、口縁端部はやや尖り気味におさめている。口縁部内外面はヨコナデ調整で、底部外面は回転ヘラ切り後ナデ調整である。



第92図　SK1010出土遺物実測図

土坑15（SK1015）（第93図）

1号屋敷地中央南側（S－19グリッド）において検出した長方形土坑で、土坑（SK1227）と並行して検出された。東側短辺は試掘溝によって削平されており、土坑の規模は長軸検出長2.67m、短軸1.22m、深さ0.26mを測る。掘り方の断面形状はレンズ状を呈し、遺構内埋土は褐色系統の砂質土である。主軸方向は東西を示す。

出土遺物（第94図）

遺構内からは須恵器片も若干認められるが、主に土師器片が出土している。

283は口径13.8cmを測る須恵器の杯である。体部は底部から外上方へ直線的に延び口縁部にいたる。口縁端部はやや丸くおさめ、底部はやや強いヨコナデにより若干突出する。口縁部内外面はヨコナデ調整、底部外面は回転ヘラ切り後ナデ調整である。

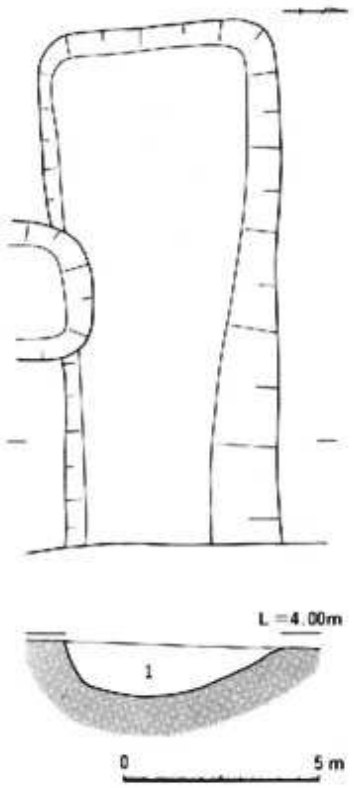
284は土師器皿で、口径13.1cm・器高1.5cmを測る。体部から口縁部は緩やかに外上方へ短く延び、端部は尖り気味におさめている。調整は内外面ヨコナデ、底部外面は回転ヘラ切り後ナデである。胎土は精製されている。

285から288は土師器杯・椀の口縁部・底部である。285はやや内彎気味の体部をもち、口縁端部は外面にやや強いヨコナデが施され尖り気味におさめている。内外面ともヨコナデ調整であり、両面は赤色塗彩されている。286は内彎気味に立ち上がる体部を有するもの、288はやや直線的に立ち上がり口縁端部を外反させ尖り気味におさめるものである。調整は内外面ともヨコナデである。

287は土師器椀の高台部で底径9.0cmを測る。高台は直立気味に立ち、断面形状はU字状を呈する。高台内以外は内外面とも赤色塗彩されており胎土は精製されている。289は黒色土器A類椀で、口縁端部は若干外反する。調整は外面ヨコナデ、内面はヨコ方向へのミガキが施されているものと考えられる。胎土は比較的荒く2㎜大の石英粒が含まれている。

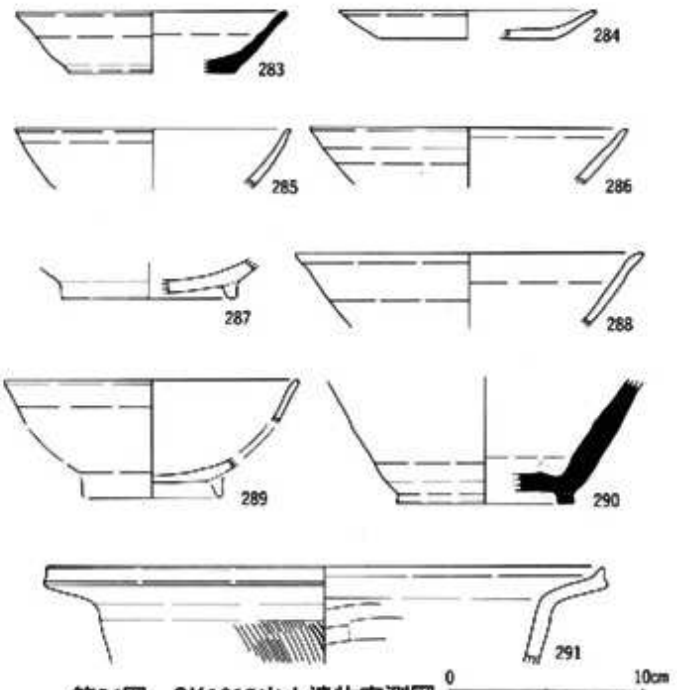
290は須恵器の壺体・底部である。内外面ともヨコナデ調整、高台は張り付け高台で、断面方形状を呈する。

291は土師器の甕である。体部外面は縦方向の荒いハケ、内面はヨコ方向への板ナデ調整である。口縁部は体部から強く外反し、端部を上方へ拡張する。内外面ともヨコナデ調整である。胎土には石英粒が多く含まれる。遺構内の遺物には他に須恵質の丸瓦片・甕片・釘状の鉄製品が出土している。



1　にぶい黄褐色10YR4/3砂質土

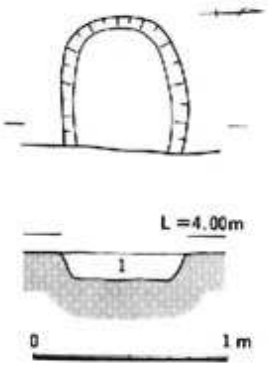
第93図　SK1015実測図



第94図　SK1015出土遺物実測図

土坑17（SK1017）（第95図）

1号屋敷地中央東寄り（Q－22グリッド）において検出した土坑で、西端を土坑（SK1245）によって切られているが、平面形状は隅丸方形状を呈するものと考えられる。土坑の規模は長軸検出長0.68m、短軸0.64m、深さ0.14mを測る。掘り方の断面形状は浅い逆台形状を呈し、遺構内埋土は褐色砂質土である。主軸方向は東西を示す。



1　褐色10YR4/4砂質土

第95図　SK1017実測図

第96図　SK1017出土遺物実測図

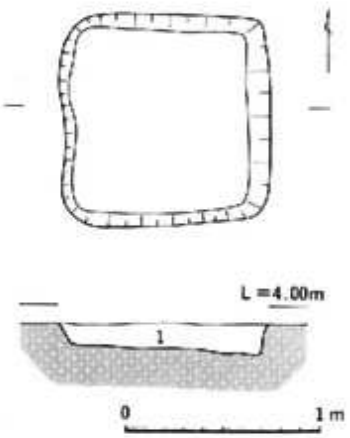
出土遺物（第96図）

遺構内からは僅かの土器片しか出土していない。

292は土師器の甕口縁部で口径27cm前後を測り、やや長胴形の体部をもつものと考えられる。口縁端部は方形状におさめ端面を形成した後、内側に拡張している。調整は内面ヨコハケ、外面はヨコナデである。胎土は砂粒が多く含まれ、結晶片岩粒も若干認められる。その他の遺物として土師器杯片が出土している。

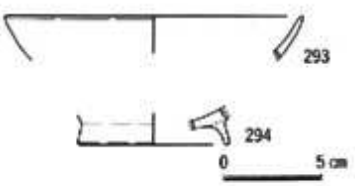
土坑26（SK1026）（第97図）

1号屋敷地中央東寄り（P－21グリッド）において検出した方形土坑である。土坑の規模は長軸1.10m、短軸1.08m、深さ0.16mを測る。掘り方は検出面より垂直気味に掘り込まれ、断面形状は浅い逆台形状を呈する。遺構内埋土はにぶい黄褐色砂質土1層である。



1　にぶい黄褐色10YR5/3砂質土

第97図　SK1026実測図



第98図　SK1026出土遺物実測図

出土遺物（第98図）

293は内面に赤色塗彩が施されている土師器椀の口縁部である。細片であるが口径15.3cmを測る。口縁端

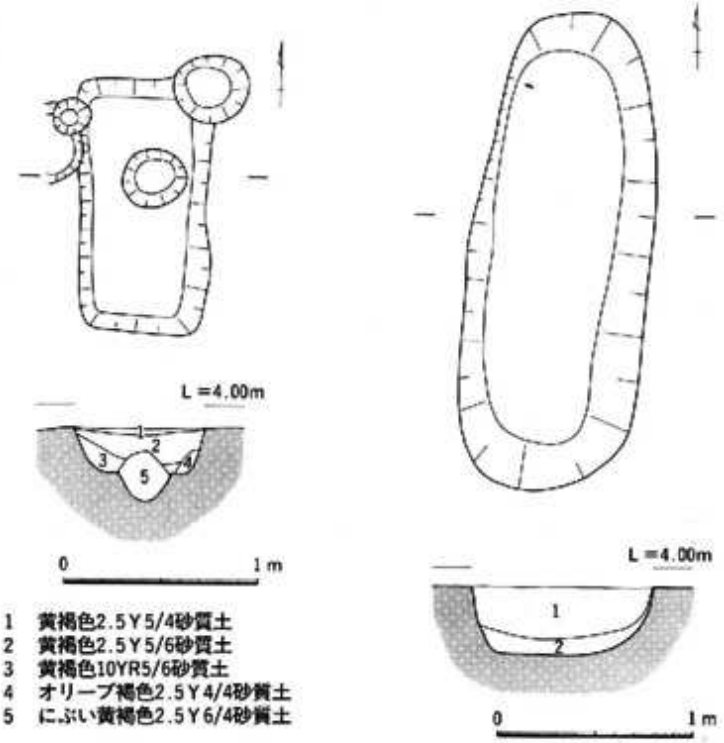
部は尖り気味におさめ、調整は内外面ともヨコナデである。294は土師器椀の高台である。高台は底部に貼り付けており、若干ハの字状に開く。断面形状は比較的細く、端部は丸くおさめており、調整は内外面ヨコナデである。胎土には結晶片岩粒が含まれている。その他の遺物では土師器皿片、土師器杯片が出土している。

土坑31（SK1031）（第99図）

1号屋敷地北側東寄り（O－21グリッド）において検出した長方形土坑で土坑（SK1214）と切り合っている。

土坑の規模は長軸1.30m、短軸0.64m、深さ0.24mを測る。断面形状は逆台形状を呈し、底面は平坦面を形成しているが、ほぼ中央にピット状の落ちを検出している。埋土の堆積状況は褐色系統の砂質土がレンズ状に堆積しており、ピット状の落ち込み内は黄色砂質土が盛り上がった状況で堆積している。

主軸方向は南北を示す。



1　黄褐色2.5Y5/4砂質土
2　黄褐色2.5Y5/6砂質土
3　黄褐色10YR5/6砂質土
4　オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土
5　にぶい黄褐色2.5Y6/4砂質土

第99図　SK1031実測図

1　褐色10Y4/4砂質土
2　オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土

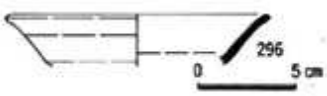
第101図　SK1032実測図

出土遺物（第100図）

遺構内からは土師器片が少量出土しているにすぎない。

295は土師器皿の口縁部で、体部の形状は外上方へ短く立ち上がり、口縁端部は外面の強いヨコナデによりさらに屈曲させる。端部は上方に拡張させ端面を形成する。内外面の調整はヨコナデで、両面とも赤色塗彩されている。

第100図　SK1031出土遺物実測図



第102図　SK1032出土遺物実測図

その他の遺物には土師器杯・甕片があり、また緑釉陶器で皿と思われる細片が1点出土している。緑釉陶器片の焼成は軟質である。

土坑32（SK1032）（第101図）

1号屋敷地北側東寄り（O－22グリッド）において検出した長楕円形の土坑で、土坑（SK1217）と切り合っている。土坑の規模は長軸2.44m、短軸0.94m、深さ0.36mを測る。掘り方は検出面より垂直気味に掘り込まれ、断面形状は幅広のU字状を呈する。遺構内埋土は褐色系統の砂質土がレンズ状に堆積しており2層に分層される。主軸方向は南北を示す。

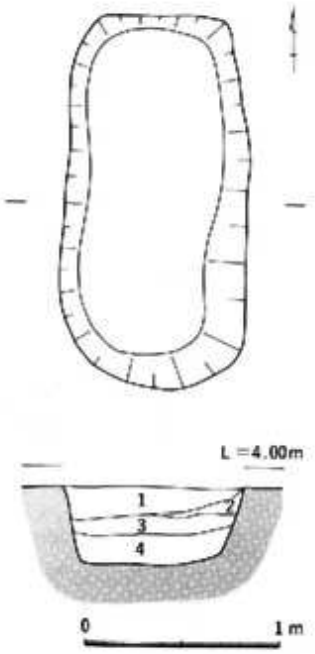
出土遺物（第102図）

296は京都系の緑釉陶器皿口縁部である。口縁はやや直線的に外上方へ延び、端部は若干肥厚させ外反する。内外面ヨコナデ調整、焼成は硬質で釉の色はオリーブ灰色を呈する。

その他、須恵器甕片・土師器杯・甕片が若干出土している。

土坑33（SK1033）（第103図）

1号屋敷地（O－22グリッド）土坑（SK1032）の東側に隣接して検出した隅丸長方形の土坑である。土坑の規模は長軸1.94m、短軸0.96m、深さ0.40mを測るやや深い土坑である。掘り方は検出面より垂直気味に掘り込まれ底面は平坦面を形成し、断面逆台形状を呈する。遺構内埋土は水平堆積で4層に分層され、褐色系統の砂質土である。主軸方向は南北を示す。



1　暗灰黄色2.5Y5/2砂質土
2　黄褐色2.5Y5/4砂質土
3　にぶい黄褐色10YR4/3砂質土
4　黄褐色2.5Y5/3砂質土（粘質あり）

第103図　SK1033実測図

出土遺物（第104図）

遺構からの出土遺物は13世紀代の遺物も若干見られ、時期的には中世段階の様相も考えられる。

297は土師器小皿である。調整は内外面ヨコナデ、底部回転ヘラ切りである。

298は瓦器椀の口縁部で、外面ヨコナデで内面ヨコ方向へのミガキが認められる。時期的にはⅢ－2期頃の和泉型瓦器椀と考えられる。

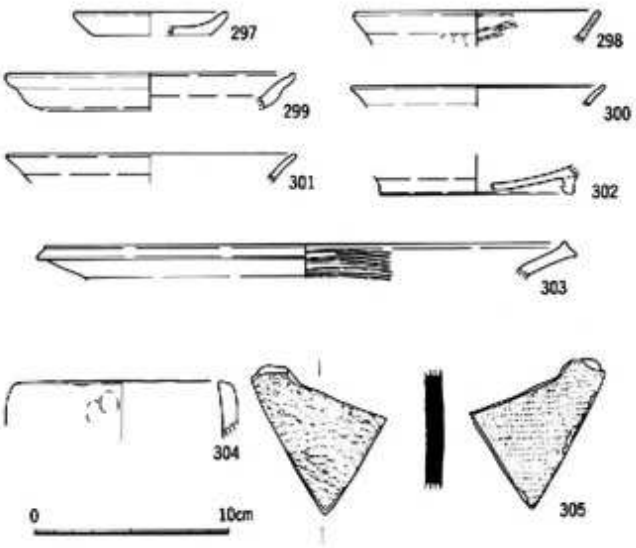
299から301は土師器皿口縁部で内外面は赤色塗彩されている。229・300は口縁部内面に沈線が巡るものである。302は高台付土師器椀の高台部と考えられる。高台はやや内向気味に貼り付けられており、断面形状は方形状を呈しているが、内面は貼り付け時のヨコナデにより丸みをもつ。内外面は赤色塗彩されている。胎土には結晶片岩

粒が多く含まれている。

303は土師器甕口縁部で、口縁端面を形成し上端を上方に拡張する。調整は外面ヨコナデ、内面荒いヨコハケである。

304は製塩土器口縁部で、外面にはユビオサエの痕跡、内面は布目痕が認められる。胎土には長石・石英粒が多く含まれている。305は須恵器甕体部片で、外面格子状タタキ、内面同心円状の当て具の痕跡が残る。

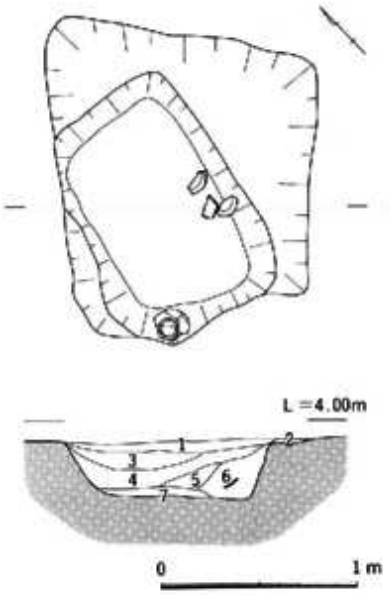
その他の遺物では土師器甕体部片が出土している。



第104図　SK1033出土遺物実測図

土坑34（SK1034）（第105図）

1号屋敷地南西端（Q－16グリッド）において検出した土坑で、1辺約1.40m規模の方形の浅い落ち込みの中に形成された長方形土坑である。土坑の規模は長軸1.30m、短軸0.92m、深さ0.28mを測る。掘り方はやや垂直気味に掘り込まれ、断面形状は逆台形状を呈する。遺構内の土層の堆積状況は褐色系統の砂質土がレンズ状の堆積を示している。第6層・第7層には炭化物及び焼土が比較的多く含まれている。遺物は主に第6層からの出土である。主軸方向はほぼ南北を示す。



1　暗灰黄色2.5Y4/2砂質土
2　オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土
3　オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土
4　オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（第3層に比べてやや明るい）
5　暗オリーブ褐色2.5Y3/3砂質土
6　黒褐色2.5Y3/2砂質土（焼土、炭化物多く含む）
7　オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（焼土、炭化物若干含む）

第105図　SK1034実測図

出土遺物（第106図）

出土遺物は小片も含まれるが、ほぼ一括遺物として捉えられる。

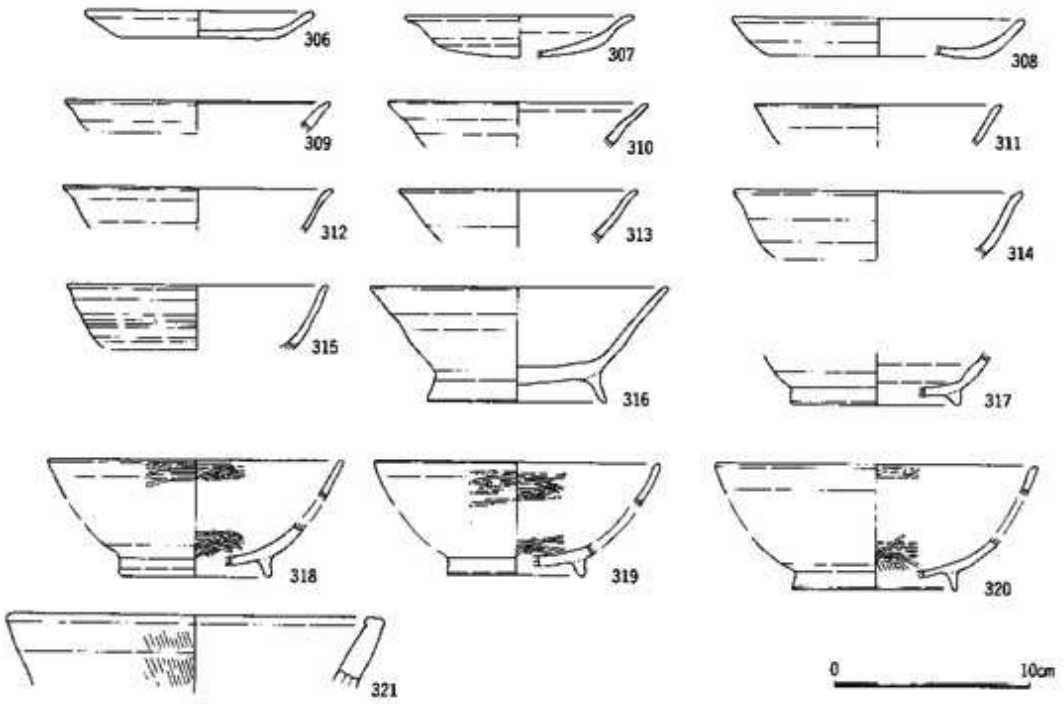
306から309は土師器皿である。306・308は直線的に立ち上がり口縁端部を丸くおさめるタイプ、307は口縁部がやや外反するタイプである。306は

完形の土師器皿で口径11.6cmを測る。調整は内外面ヨコナデ、底部回転ヘラ切りである。309は口縁端部を僅かに上方に立ち上げるものである。内外面は赤色塗彩されており時期的にはやや古く、混入物と考えられる。310～315は土師器杯口縁部である。体部から口縁端部を直線的におさめるタイプ310・311と、やや外反するタイプ312～315が見られる。調整は内外面ヨコナデであるが、315の外面はやや幅の狭いヨコナデ調整である。310は内外面とも赤色塗彩されている。

316・317は土師器の高台付杯である。316は体部が直線的に外上方に立ち上がり、口縁端部にいたるもので、やや高い高台が付き、椀型タイプである。317は断面U字状のやや厚い高台が付くものである。内外面は赤色塗彩されている。

318～320は黒色土器A類椀で、底径8cm前後を測る。口縁部は図面上で合成したもので、口径16cm前後を測る。底部の形状は細身の高台を貼り付けるタイプ318・320と、やや厚みのある高台を貼り付けるタイプ319がある。調整は口縁部内外面にヨコ方向のミガキを施すもの318・319と、内面のみヨコヘラミガキを施すもの320がある。内底面は不整方向のやや幅広のミガキが観取される。

321は土師器の甕口縁部と思われるものである。端部は方形状を呈し、若干内方向へ拡張する。調整は内面ヨコナデ、外面荒いタテハケ後ヨコナデである。その他、須恵器甕・製塩土器の細片が出土している。

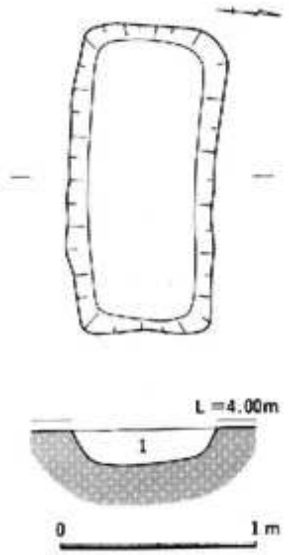


第106図　SK1034出土遺物実測図

時期的には10世紀前半である。

土坑35（SK1035）（第107図）

1号屋敷地調査区東隅（Q－23グリッド）において検出した長方形土坑である。土坑の規模は長軸1.60m、短軸0.78m、深さ0.18mを測る浅い土坑である。断面形状は浅い逆台形状を呈し、遺構内埋土は炭化物を含むにぶい黄褐色砂質土である。主軸方向は東西を示す。



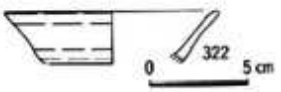
1　にぶい黄褐色10YR4/3砂質土（炭化物を含む）

第107図　SK1035実測図

出土遺物（第108図）

322は口径11.0cmを測る土師器杯である。口縁端部は丸くおさめ、調整は内外面ヨコナデである。

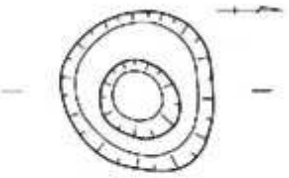
他の遺物は赤色塗彩された土師器杯片も出土しているが、中世遺物も混在することから遺構の時期は13世紀以降と捉えてもよい。

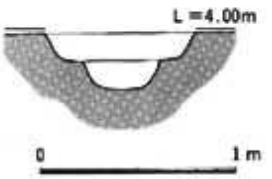


第108図　SK1035出土遺物実測図

土坑36（SK1036）（第109図）

1号屋敷地調査区（Q－23グリッド）東隅において検出したほぼ円形の土坑である。土坑の規模は長軸0.82m、短軸0.78m、深さ0.14mを測る。中央に径0.40m、深さ0.14mの柱穴状の落ちが伴う。



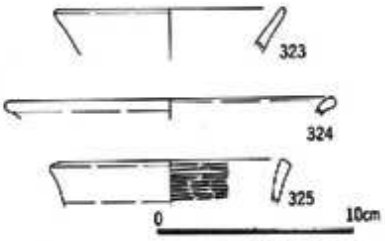


第109図　SK1036実測図

出土遺物（第110図）

遺構内から出土遺物は非常に少ないが、中世に下る遺物は出土していない。

323は土師器の杯で、若干外反する口縁部である。端部は丸くおさめ、内外面ヨコナデ調整である。324は口縁部内面に沈線を巡らす土師器皿で内外面は赤色塗彩されている。325は土師器甕の口縁部で外面ヨコナデ、内面ヨコハケ調整である。その他、土師器甕片・須恵器甕片が出土している。



第110図　SK1036出土遺物実測図

土坑38（SK1038）（第111図）

1号屋敷地中央東寄り（Q－22グリッド）において検出

した柱穴状の落ち込みを伴う不整方形状の土坑である。土坑の規模は長軸0.88m、短軸0.80m、深さ0.18mを測る。土坑（SK1039）と切り合う。断面形状は浅いレンズ状を呈し、遺構内埋土は炭化物を含む砂質土である。

出土遺物（第112図）

326・327は内外面とも赤色塗彩された土師器杯で、口径はほぼ同等で13.8cmを測る。326は体部が底部から外上方へ直線的に延び口縁部にいたるもので、口縁端部をやや尖り気味におさめる。口縁端部は僅かな上方へ立ち上がりによる弱い沈線が巡る。調整は内外面ともヨコナデで、底部は回転ヘラ切り後丁寧なナデが施されている。327は口縁部が若干外反するものである。調整は内外面ヨコナデである。胎土は2個体とも精良で、結晶片岩の細粒が含まれている。その他、土師器甕片・須恵器壺片が出土している。

時期的には9世紀代が考えられる。

土坑39（SK1039）（第113図）

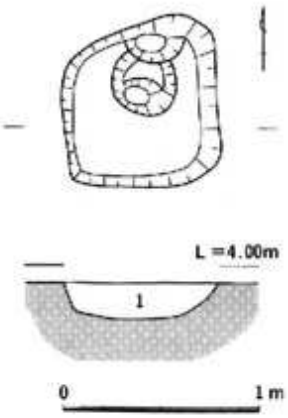
1号屋敷地（Q－22グリッド）において検出した長方形土坑で北側隅は土坑（SK1038）と切り合っておりほぼ中央部も柱穴によって切られている。土坑の規模は長軸2.26m、短軸0.64m、深さ0.06mを測る非常に浅い土坑である。土坑の断面形状は浅いレンズ状で遺構内の埋土は炭化物を含む粘性を帯びた砂質土である。主軸方向は南北を示す。

出土遺物（第114図）

遺構内からの出土遺物はごく僅かである。328は内外面とも赤色塗彩された土師器杯である。内外面ヨコナデ調整、底部外面は回転ヘラ切り後ナデ調整である。その他の遺物では、土師器甕片が出土している。

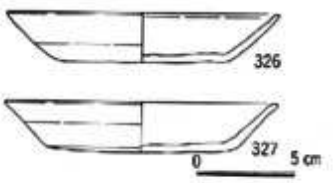
土坑40（SK1040）（第115図）

1号屋敷地（Q－22グリッド）において土坑（SK1039）

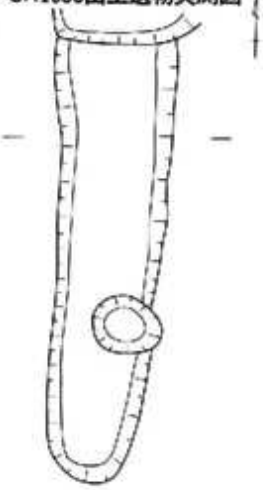


1　にぶい黄褐色10YR5/3砂質土（炭化物を含む）

第111図　SK1038実測図

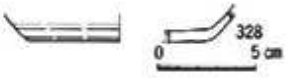


第112図　SK1038出土遺物実測図



1　にぶい黄褐色10YR4/3砂質土（炭化物を含む）

第113図　SK1039実測図



第114図　SK1039出土遺物実測図